

ファカルティ・ディベロップメントに関する 主要文献紹介および文献目録

広島大学高等教育研究開発センター

ファカルティ・ディベロップメントに関する
主要文献紹介および文献目録

広島大学高等教育研究開発センター編

広島大学高等教育研究開発センター

COE 研究シリーズの刊行にあたって

広島大学高等教育研究開発センターは、略称を高教研と称し、英語名を Research Institute for Higher Education, 略称を RIHE としております。その前身は広島大学大学教育研究センターですが、1972年5月に、さらにその前身の大学問題調査室を発展的に継承して、文部省令による教育研究施設として、日本最初の高等教育研究の専門機関として設置されました。爾来、年輪を重ねる中で着実に研究教育活動を展開し、内外の高等教育研究に重要な役割を果たしてきましたが、お陰様で昨年2002年には創立30周年を迎えるに至りました。

この節目の年に、文部科学省の21世紀COEプログラムの人文科学領域において、本センターのプロジェクト「21世紀型高等教育システム構築と質的保証」（拠点リーダー：有本章）が113件（うち人文が20件）の拠点の一つとして選定されました。このことは高等教育研究の発展に鋭意取り組んできたセンターの歴史の中でも特筆すべき快挙であると、当センターの関係者一同率直に喜んでおります。とりわけ高等教育の分野では全国唯一の拠点に選定されましたことは、これまでの実績と今後の可能性が認知された点でも、長年にわたって積み重ねてきた努力が報われた点でも、実に名誉なことでありますと同時に、責任の重さを痛感する次第であります。これも高等教育研究が一種のタブー視された時代から盛況を呈するに至った今日まで、数多くの先輩やコリグ諸氏に支えられて営々と築かれた伝統や風土や精神の賜と考えております。したがって、「巨人の肩に乗った小人」であるとの謙虚な気持ちでこのような機会を受け止めますとともに、これを契機にさらなるフロンティア開拓の精神を醸成し、斯界の発展において一層の貢献を実現したいと祈念しているところであります。

本プロジェクトは、主題に掲げました研究を推進するために、5年間にわたって取り組むものですが、具体的にはFD・SDの制度化と教育システムの質的保証、研究システムの質的保証、大学組織編成と質的保証などの問題を中心に、データベースの構築、若手研究者の養成などの問題に重点的に取り組むことを期しております。さらに、研究成果を積極的に国内外へ公表し、研究成果を紹介することによって拠点としての研究ネットワークの形成に努め、日英両語による出版物を精力的に刊行することにしております。そして、その一環として、このような体裁でCOE研究シリーズを刊行することにいたしました。その目的は、主として、センターのCOEプログラムと関連して取り組んでいる研究活動の実績を記録にとどめることとその国内外への発信によって研究ネットワークの形成を着実に推進することに置かれています。

本企画によって世に送り出される刊行物が、国内外の高等教育研究者はもとより、高等教育に関心のある多くの人々に貴重な価値ある情報を提供することができれば、望外の幸せであります。また、研究ネットワークの一層の発展のために、読者の皆様から絶大なご支援とご協力を賜りますことができましたら、この上ない喜びです。何卒よろしくお願い申し上げます。

2003年3月

21世紀COEプログラム

拠点リーダー 有本章

は し が き

高等教育研究開発センターでは、現在、21世紀COEプログラムの研究において、FDを重要な柱の一つに設定して取り組んでいる。日本のFD活動を分析してきた結果、種々の現実が理解できたのであるが、その一つは、FDが漸く制度化を果たしつつある事実である。FDが「フロッピー・ディスク」とみなされる段階から、「大学教授職の資質開発」として理解されるまでには、かなりの時間を要してきたし、なお十分とは言えないことが分かる。実際、最近のわれわれの調査では、全国的に前者の段階にとどまっている大学がいまだに7%程度存在することが判明した。

しかし、全体には多くの大学が第1段階から第2段階へと離陸する直前に到達していることもまた了解できたのである。その背景には、国の審議会や政策によって、FDが半義務となり、さらに2004年に開始された機関別認証評価によって義務になった事実などが作用したことは否めないであろう。それはそれとして、今やFDは大学人が積極的に取り組み、第2段階に要請される新たなFD観、スカラシップ観、評価観へと展開し、大学改革の中枢に位置づくと考えられる以上、大学人一人ひとりにその自覚が不可欠である。

そのような現在、意識改革や実践の拠り所になるのは、国内外の先行研究や実践を集録した文献の所在や解題ではあるまいか。特にFD先進国の英米をはじめ欧米の資料や文献は貴重な知見を与えてくれるはずであるが、日本ではその種の本格的な文献目録が作成され、併せて文献紹介が行われたのは1990年である（伊藤彰浩編『ファカルティ・デベロップメントに関する文献目録および主要文献紹介』広島大学大学教育研究センター、1990年、参照）。それ以来、今日まで15年以上の歳月が流れたことになる。

このような実情を踏まえて、COE研究シリーズの一環として、文献目録と文献紹介を出版することにした次第である。目録は原則として、日本語と英語の文献を中心に高等教育研究開発センターで収集しているものと若干その他のものを対象にリストアップした。その作業は大膳教授が中心に行った。また、文献紹介は、イギリス、アメリカ、フランスの文献を対象にした。平素からFDを研究している紹介者が重要な文献を選定した。数的にはまだ少ないので今後作業を持続して補完したいと考えている。ひとまず、中間報告したので、お気づきの点などご教示いただくと幸いである。

最後に、目録作成や文献紹介にご協力いただいた広島大学高等教育研究開発センター内外の方々に深く感謝したい。

2006年3月25日

研究代表者 有本 章

目 次

はしがき

第一部 ファカルティ・ディベロップメントに関する主要文献紹介

1. Gill Nicholls 著『スカラシップへの挑戦：学習，教育，研究の再考
—*The Challenge to Scholarship*』…………… 1
2. Annot E., Fave-Bonnet M.-F. 編『高等教育における教育実践：教授，学習，評価
—*Pratiques pedagogiques dans l'enseignement superieur*』…………… 7
3. Heather Fry, Steve Ketteridge, Stephanie Marshal 編著『高等教育の教授学習ハンドブック
—*A Handbook for Teaching and Learning in Higher Education*』…………… 13
4. Kay Her Gillespie 編『ファカルティ・ディベロップメントの手引書：実践の助言，事例，方策
—*A Guide to Faculty Development*』…………… 20
5. Jerry G. Gaff, Anne S. Pruitt-Logan, Richard A. Weibl and Participants in the Preparing Future
Faculty Program 著『大学教授職への要請とその構築—大学間の連携と協働—
—*Building the Faculty We Need*』…………… 27
6. John A. Centra 著『省察重視の教育評価—教育力を高め，教育効果を検証する
—*Reflective Faculty Evaluation*』…………… 34

第二部 ファカルティ・ディベロップメントに関する文献目録

和文著書……………	45
和文論文……………	50
英文著書……………	77
英文論文……………	82

第 一 部

ファカルティ・ディベロップメント に関する主要文献紹介

FD 文献紹介 1

Gill Nicholls 著

『スカラシップへの挑戦：学習，教育，研究の再考

— *The Challenge to Scholarship: Rethinking of learning, teaching and research*』, .
(London and New York: Routledge, 2005 年, 162 頁)

有本 章*

1. 著者紹介

著者ジル・ニコルズ (Gill Nicholls) は、ロンドン所在のキングズ・カレッジの学習-教授研究所長 (Director of King' s Institute of Learning and Teaching at Kings College) である。広範な研究活動の経験があり、幅広く出版を行っている。また、大学の学習・教授戦略および学習・教授研究戦略を評価するためのコンサルトの仕事を行っている。

本書は、Gill およびロンドン所在の教育研究所のロン・バーネット (Ron Barnett, Institute of Education) によって編集されている高等教育の主要論争点シリーズの一巻として出版されたものである。2部の3, 6はサイモン・リゴ・ベッカー (Simon Lygo-Baker) が分担執筆しているので、ジルの単著とは言えないが、著書名はジルのみとなっている点を指摘しておきたい。

なお、ニコルズの著書には次のものが見受けられる。

Challenge To Scholarship: Rethinking Learning, Teaching, And Research, Routledge, 2005

Introduction to Teaching: A Handbook for Primary and Secondary School Teachers, 2 edition, Routledge, 2004

Developing Teaching and Learning in Higher Education, Routledge, 2002

Learning to Teach: A Handbook for Primary & Secondary School Teachers, Butterworth-Heinemann, 1999

Collaborative Change in Higher Education, Butterworth-Heinemann, 1997

2. 本書の構成

本書の内容は次の構成から成り立っている。

序論

献辞

*広島大学高等教育研究開発センター長

- 1部 スカラーシップ概念の確立
 - 1. なぜスカラーシップに挑戦するのか。
 - 2. スカラーシップの歴史的な概念
- 2部 政策と権力：スカラーシップへの影響
 - 3. 政策とイニシアチブ：スカラーシップ概念化の必要性（サイモン・リゴーベッカー）
 - 4. 教授のスカラーシップ—出現している概念
 - 5. 専門分野とスカラーシップ—権力への挑戦
 - 6. 国際的な視点—専門主義へのスカラーシップの含意（サイモン・リゴーベッカー）
- 3部 未来への挑戦
 - 7. スカラーシップ—未来の挑戦
 - 8. 未来への人質
 - 9. 最後のコメント
- 文献
- 索引

3. 解題

（1）本書を要約するならば、そもそもスカラーシップ (scholarship) は何を意味するのか。それほどのようにして高等教育の構造を形成することになったのか。その役割はどのようなものになるのか。これらの問いに対して検討を加えている点に主眼があるとみなされる。

日本では、スカラーシップは「学識」とか「学問」と翻訳される概念である。含蓄のある言葉であり、概念であるから、簡単に定義するのがむづかしい。一般に、欧米の長い歴史を反映している概念を日本語に翻訳するときには、誤解や誤訳が起こりやすい。ましてや、FD (faculty development 大学教員の資質開発) が外国の概念を移植して、制度化した概念であり、それとの関係でスカラーシップの問題の再検討、つまり従来の research 研究のスカラーシップから teaching 教育のスカラーシップへの見直しが重要になっている観点から論じられなければならない現在では、なおさら誤解や誤訳のないよう細心の注意を払わなければならないと言わざるを得ない。本書は、最新のスカラーシップに関する書物であると同時に、FD発祥の地であり本場の一つである英国で編纂された書物であるから、日本で現在問題になっている論点を整理する上でも示唆に富むものと期待できるに違いない。

（2）第1部は、スカラーシップが今日解釈されている状態にまで発展した背景を、歴史的かつ哲学的な側面から問題にしているところに特徴が見出される。第1章は、全体を概観するために、いまなぜスカラーシップへの挑戦かを問題にしている。この部分の紹介を基にして、またそれに関連した各部・各章の考察を交えながら、文献解題を行うことにしたい。

まず第2章は、scholarship スカラーシップという用語の性格を吟味することに焦点を合わせて論じられており、具体的にはこの用語が生じ論究されてきた点に絞った枠組みを、アリストテレス、ソクラテスの哲学まで遡って分析し、さらにジョン・ヘンリー・ニューマン (John Henry Newman) を紹介して理論的に説明する。ニューマンの『大学の理念』(The Idea of University)以来、殆どの高等教育において、学者とスカラーシップは大学教員とほぼ同義語となった (9頁)。ペリカン(Pelikan)は、大学というテンプルの脚は、①研究による知識の進歩、②教育による知識の伝達、③学問的収集による知識の保存、④公

表による知識の普及、の4つであると述べた(11頁)。

19世紀後半に、ドイツ大学モデルの出現と定着によって、研究モデルが支配的になった。研究が大学へ導入されるに伴い、大学でのスカラシップの概念が次第に変貌したことを検討し、それと呼応して、学習(learning)や理解(understanding)が重要な問題として浮上したことを問題にしている。そのことは、スカラシップの方法論を問題にすることが重要になったことを意味し、同時にスカラシップの目的は何かが問われることになったことを意味する。こうして、スカラシップと学者の関係が議論される必要性をもたらし、さらには大学の枠組みの範囲が狭義ではなく広義に解釈される必要性をもたらしたことを指摘している。こうしたスカラシップの変遷を辿ると、現在ではスカラシップの葛藤状態が生じた点が重要である。

すなわち、第2章の最後の要素は、スカラシップと教育の理念との関係を扱い、ソクラテス、プラトン、デューイ、キェルケゴールの哲学的仕事を考察している。そのことは、大学が学生にも教員にとっても学習がコア概念として考察することの必要性を導く。この最後の要素は、研究と教育という断片的な枠組みの内部でスカラシップを理解する場合に葛藤を生じる原因なのである。ジル自身、「教育と研究の命令の間には強烈な葛藤があると指摘している、無数の報告書や研究論文が存在している」と指摘している(29頁)。

しかしこのような状況があるとしても、世界的に見れば、米国、英国、豪州など、高等教育の教育と学習の役割への関心が学問的にも政治的にも増大していることは明かである(30頁)。換言すれば、スカラシップ=研究と解釈する段階から広範に解釈する段階へと動く政治的・政策的な動きがあるのであり、そこでは、知識の発展をより広範に解釈することを不可欠にするとみなされるのである。

(3)本書の第2部は、教育発展の枠組みの内部に「教授のスカラシップ」(scholarship of teaching)という用語を位置づけることと関係している。第3章は、スカラシップという用語の発展において存在する政策と権力の関係に焦点を合わせる。最初は、高等教育において教育と学習の向上を目的とした政策の原理と理由によって、スカラシップの概念を参照しなければならないことと関係がある、と考察している。この点に関しては、ボイヤーのスカラシップ再考、とりわけ教育のスカラシップに関する提言がちょうど教育や学習への政策的な関心が高まっていた時点で公表されたことと関係が深い(36頁)。

また、ボイヤーのスカラシップの定義では、教育のスカラシップが論じられているが、教育と学習との関係が論じられていないので、この点への踏み込みが課題となるとみなされている(40頁)。この枠組みの中で生じる主たる論争点は、スカラシップを理解すること、定義することの価値の重要性、このような価値に影響する政策の性格が問われることである。特に、定義を十分に行うことが重要であるとしても、厳密に行えば行うほど、意味を狭く限定し、数量化して計測可能にし、単純な概念化へと帰結せざるを得ないことになる。スカラシップの多様な意味を含意した概念を無視して、次第に数量化、測定化に向かう政策傾向は果たして正しいのであろうか。そこには、スカラシップの本質が数量化の指標を作成する外部集団や官僚によって規定されることになり、次第にスカラシップの本質を考えることから遠ざかってしまいます危惧がある(45-47頁)。このような問題を考慮しながら、スカラシップを再概念化することの必要性があることを考察している。

第4章は、「教授のスカラシップ」はある社会では混乱し誤解され、高等教育における学習と教育の向上と関係した活動の特殊なタイプの信用性を支持し向上するために使用された点を扱う。スカラシップは、「論駁的スカラシップ」と「学問的スカラシップ」に区別できるとする。前者は専門分野内部の文脈を重視するのに対して、後者は専門分野を超えて広範な文脈を重視する。ボイヤーのスカラシップは

アカデミック・プロフェッション（大学教授職）に固有なスカラシップに関する伝統的な狭い範囲の考え方に限定しているため、前者に所属するとみなす。

ブルデューの「象徴的文化」の概念が議論を構築するために活用され、「教育のスカラシップ」の使用の仕方が再検討され概念化されるために必要であることを示している。ブルデューの「文化資本」の「象徴的資本」と「物質的資本」の中での前者の概念を使用する（64頁）。議論は、いろいろな専門分野（法学、健康および生命、精神分析、マネジメント、音楽、教育、生物医学、人文）からなる25人の大学教員を対象にしたスカラシップの概念ならびに「教育のスカラシップ」の概念のとらえ方に関する経験的な研究によって行われている。結果としては、スカラシップの概念の解釈に関しては、柔軟で多様な解釈を示す傾向があるが、その定義に関しては、専門分野によって狭く規定される傾向があることが判明した。スカラシップの概念に関しては、研究を基軸にした概念である点で共通理解ができるが、ポイヤールが提示した意味での「教育のスカラシップ」に関しては、理解が困難である。これらのスカラシップに関する大学教員によるとらえ方は、大学共同体への帰属と関わる全体的な要素ばかりではなく専門的なスタイルや行動に照らして、それが吟味されていることの証拠である。

第5章は、スカラシップ内部の専門分野の性格と影響に関係している考察である。それは、なぜ、そしてどこから専門分野は高等教育における権力を獲得したのか、そして、なぜこうした卓越性を維持しているのかという理由を理解しようとしている。スカラシップの議論ではなぜ専門分野を考察するのかという問題に解答する必要があるのであるから、専門分野は議論の出発点であるとみなされる。専門分野の内部と相互間での専門領域化や縄張りの境界の考え方もまた考察されている。そこには、ベッチャー（Bacher）の科学社会学の理論との共通性が見出される。これらの議論は専門分野内部の個人の役割を明らかにし、このことがどのようにして大学教員によって行われる活動へ影響を及ぼすかを明らかにする。

議論の展開では恐怖と危機が鍵となる考え方である。知識を基礎に専門分野の文化、機関の文化、アカデミック・プロフェッションの文化が形成されている（74-78頁）。スカラシップと専門分野のスタイルには密接な関係がある。高等教育の教員はビジブル・カレッジ（見える大学）とインビジブル・カレッジ（見えざる大学）の両方に属しているので、スカラシップとの関係が深い（79頁）。特にパーマー（Parmer）の研究が注目されている。パーマーは「われわれの恐れを理解することによって、自己知識の権力と関係のない構造を克服できた。」（80頁）大学教員を自分の専攻する専門分野に深く関わらせている恐怖とは何かと言えば、それは、機関の権力に同調しない場合に、仕事、イメージ、地位を喪失する恐怖である、としている。自分の専門分野の中では安心できるのである。したがって、専門分野はスカラシップ観を規定し、教育と学習のスカラシップと深く関わらざるを得ない。

専門分野の内部で知ること、それが専門分野内部の教育と学習に及ぼす影響といった、専門分野のスタイルの説明なしには、専門分野内部のスカラシップについてのいかなる議論も完全なものとならない。最後に、権力と変化をめぐる論争点が考察される。その論争点は、なぜ専門分野はこのような堅固な制度を高等教育の内部に留めるのかという問題に関係している。専門分野に大学教員が個人的にコミットして、活動を展開してきたが、現在は機関へのコミットが要請され、必ずしも専門分野の力が強く維持されるとは限らない状態を迎えていることは否めない。ジルはこれをポストモダン状況として描いている（102-103頁）。この状況の中で、「教育のスカラシップ」を基軸に大学教員のコンセンサスをいかにして形成するかが課題になっているのである。

（4）最後の第3部では、スカラシップが未来に遭遇する国際的な視点や挑戦に考察が集中している。国際的視点の性格、そしてそれが地球規模で果たしてきた影響は、スカラシップの概念に興味深い光を

投じる。各大陸は概して研究に熱心であるため、スカラシップの用語に対して、とくに教育のスカラシップに対して疑問視してきた歴史があることは否めない。各大陸はこの問題に異なった視点と見方を発展させてきた。スカラシップに関して発見したことを共有するのは不可欠であるが、発見したことが転移可能とは考えられない。各共同体は、教育のスカラシップを固有の社会的かつ文化的文脈の中で考察してきた。本書は、ボイヤーの書物を中心に置いて議論を展開してきたとみてさしつかえあるまい。中心概念であるスカラシップの再考、とりわけ「教育のスカラシップ」が果たして大学や大学教員へ定着するのかどうかを系統的に検討しているのである。

最後の部分では、専門分野への個人の同調という文脈ではなく、機関レベルへの同調の視点から主題の検討が行われているが、「教育のスカラシップ」よりも、さらに学生を主体においた「学習のスカラシップ」の観点への展開が主題となっていると言える。現代のグローバル化時代の大学では、スカラシップは研究という狭い範囲ではなく、拡大されて、教育や学習を包括する方向へ動いている。戦後、「教育革命」が起こったが、それは専門職化の過程である（116頁）。そして、現在は専門職の基準が大学教員の間で共有されている。そして、本書の中で議論されているように、社会的かつ文化的な側面は、それぞれの高等教育共同体の内部でスカラシップの地位の性格や概念化を支持するものとみなされるのである。

スカラシップの観念に挑戦することは、大学の他の挑戦に似ている。それは、調査対象の概念と関係している論争点や問題を考察する理論、歴史的かつ社会学的な視点、選択的な方途を考えることを必要としている。

（5）このような分析を踏まえて、著者のジルは、結論部分で次の指摘をしている。「用語を理解するには、広範な状況の中でそれがいかに振る舞うかを知る必要がある。用語を十分に理解すると、十分効果があるように使用することができる。本書で明らかにされた問題は、スカラシップが理解されていないこと、ましてやそれは教育のスカラシップにはなおさらのことである。教授職はもはや外界へ向けて戸を閉ざすことはできないので、スカラシップの意味はますます多様で複雑な集団によって定義される。十分な理解を得ることは極めて困難になりそうである。必要な治療は、管理者が関係者すべてに対して共通の理解をすることのできる基準と構造を提供することである。これらの基準の意味はチェックリストによって実現される。明確な意味を欠くと、学者の活動を説明することは不可能である。」「スカラシップの意味は時間とともに変化してきたが、本書はこうした変化の説明を行った。」「危険なのは、特定の点からのある文脈のみに関係した皮相的な理解が提供されることである。それは混乱をもたらす。」「スカラシップは元々は教育と関連して理解されてきたが、それは、20世紀の中盤からは、スカラシップを研究として理解することによってとって代わられた。世紀末にはボイヤーが教育のスカラシップをもたらした。一見すると、教育のスカラシップは、スカラシップの新しい見解だと見えたが、本書はそうではないと証明した。新しい用語が誕生したが、それは問題を複雑にした。それはスカラシップの説明を助けるだけでなく、理解を深めることになった。」（141頁）

4. まとめ

以上、ジルの見解を基調において、本書全体の論調を考察した。最後に本書の意義は、次の4点にあると考えられる。

第1は、スカラシップの概念を学習、教育、研究の視点から再検討した意義が大きい。従来、スカラシップは教育から出発して、研究へと変遷を辿り、最近では後者のパラダイムが優勢を示した。こ

れに対して、ボイヤーのスカラシップ再考を手掛かりに、研究と教育の問題、さらには学習の問題を包括したスカラシップ論への展開を分析的に論じた点が重要である。

第2に、欧米の理論や文献を踏まえた考察であるから、最近の欧米の動向が理解できる点に意義がある。欧米といっても、対象になっているのは主として、英国、米国、豪州である。大学教員は個人的に専門分野にコミットする傾向があったが、本書では、英国を中心に専門分野から機関へのコミットが生じている事実を論じている。

第3に、全体に専門職の共通のスカラシップ観があると同時に、専門分野によって独自のスカラシップ観があることも、事例調査によって明らかにしている。その視点は科学社会学の伝統的な視点であり、知識や専門分野を基礎に高等教育研究を実証的に展開している点が注目に値する。

第4に、日本の高等教育研究において、重要な視点を提供していることを看過できない。特に、本書はスカラシップ論を主題としているのであるが、それがFD論の重要な視点であることを重視すべきである。FDの制度化が先行している英国、米国、豪州、とりわけ英国を事例に研究しており、必ずしもボイヤーのスカラシップ概念、特に「教育のスカラシップ」概念が大学教員の間で定着していない現状が実証的に明らかにされている事実は、日本のFDの制度化の現状からみても、注目すべきである。第1段階のFDが進行中と考えられる日本の状況からみると、教育と研究と学習を俎上にのせて議論すること自体、先進的な理論や経験のレベルを示しているのであるが、今後、第2段階へ進行する課題をかかえている日本からは学ぶべき内容となっていると言える。

FD 文献紹介 2

Fave-Bonnet M.-F. Annoot E.編

『高等教育における教育実践：教授，学習，評価』

—Pratiques pédagogiques dans l'enseignement supérieur : enseigner, apprendre, évaluer』
(L'Harmattan, Paris, 2004 頁)

大場 淳[†]

1. 本書の概要と出版の背景

(1) 概要

E Annoot 及び M-F Fave-Bonnet の編集によって 2004 年に出版された『高等教育における教育実践：教授，学習，評価』と題する本書は，大学における教育実践(pratiques pédagogiques)に関する研究成果を収録したものである。本書の内容は，教員による教授，学生による学習，教育評価，情報通信技術の活用に及んでおり，「大学教授法に関する現段階における考察の総括」と編者によって位置付けられている。本書の対象は，高等教育を研究対象とする研究者や学生，あるいは教育実践に関する研究成果を活用し教授法改善を試みようとする全ての大学教員であるとされる。

本書は，序説に続いて，教授実践，学習，評価，情報通信技術の四つの部（全 11 章）が置かれ，その後に結論，参考文献が続くという構成で，14 人の研究者（うち 1 名はベルギーの大学在籍者）が編者・著者として参加している。本書の構成と執筆者は以下の表 1 及び表 2 の通りである。

表 1 『高等教育における教育実践：教授，学習，評価』の構成

序説 (Annoot et Fave-Bonnet)
教授実践
・ 大学における教授実践：研究の適時性と重要性 (Bru)
・ 大学第一期課程の教授：適応の新しい形又は教授する「メティス」について (Altet)
・ 授業の予測と現実の間：DEUG 課程教員による実践と表象(représentation) (Trinquier et Terrisse)
・ 「授業で何が起きているか？」大学における教授実践の概要 (Clanet)
学生における学びの実践
・ 学生における学習 (Romainville)
・ 大学初年次で成功する (Boyer et Coridian)
・ 確実を追求する学生 (Rayou)
・ 個別指導制度(tutorat)又は錯綜した意義 (Annoot)

[†] 広島大学高等教育研究開発センター助教授

<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価不可能な大学 (Lecoïnte) ・ 学習成果の評価 (Michaut) <p>そして、新しい技術？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 技能・技術・対策：手段(instruments)に関する問題 (Albero) <p>結論 (Annoot et Fave-Bonnet)</p> <p>参考文献</p>
--

表2 執筆者一覧 (*は編者)

名前	所属等 (出版当時)
Albero, Brigitte	国立教育研究所(INRP-TECHNE)助教授
Altet, Marguerite	ナント大学教育学教授
Annoot, Emmanuelle*	ル・アーブル大学教育学助教授
Boyer, Régine	国立教育研究所(INRP)助教授
Bru, Marc	トゥルーズ第二大学教育学教授
Clanet, Joël	トゥルーズ第二大学教育学助教授
Coridian, Charles	国立教育研究所(INRP)助教授
Fave-Bonnet, Marie-Françoise*	パリ第十大学教育学教授
Lecoïnte, Michel	トゥルーズ第二大学教育学教授
Michaut, Christophe	ナント大学教育学助教授
Rayou, Patrick	クレティユ大学附設教員養成センター教育学教授
Romainville, Marc	ナミュール大学教育学教授
Terrisse, André	トゥルーズ第三大学教育学教授
Trinquier, Marie-Pierre	トゥルーズ第二大学教育学助教授

(2) 出版の背景

本書が教育実践に関する研究に基づいて著されたことは上に述べたが、当該研究の多くは1990年代後半に行われ発表されたものである。当時のフランスにおける大学を始めとする高等教育機関の状況は、1980年代後半からの大幅な高等教育進学者の増大を受けて、学生が多様化し、従来の教育の在り方が通用しなくなっていく時代であった。この間、特に落伍者の多い第一期、就中DEUG課程の教育を改善するために様々な方策が取り組まれ(大場, 2004a)、また、細々とではあるものの学生支援が充実されてきた(大場, 2004b)。

仏語でFDの意味するところに近い用語である formation pédagogique (教授法教育) が幅広く議論されるようになるのもこの時期である。1995年、大学長会議(CPU)の中に「高等教育のための教授法教育

(formation pédagogique à l'enseignement supérieur)」の委員会が設けられ、「教授法の質(qualité pédagogique)」についての議論を中心として進めることとなった(Gomel, 1998 : 48)。また、1997年、大学において教育評価を行うことを国民教育省が定めたこと(バйл改革)は教員による教育改善活動の活性化に大きく寄与し、その後シンポジウム開催や研究ネットワークの構築等様々な取組が行われた(大場, 2005a)。他方、大学内においても、全学的な教育改善のためのセンター類の普及が進んだ。

本書で取り上げられた研究の多くは、全国教育研究連絡委員会(Comité national de Coordination de la Recherche en Éducation : CNCRE)¹が1997年及び1998年に行った研究計画公募に呼応して行われた研究活動に基づいている(本書8頁、以下本書については頁数のみで表示する)。これらの研究は、学生の多様化を踏まえつつ、教員による教授や学生の学習の日常的な実践を新たな視点から取り上げて分析し、これらの実践の限界や課題を提示したものである(10頁)。

2. 本書の内容

本書には全部で11の章が収録されている。以下に、それぞれについて概要を示すこととしたい。

教授実践

(1) Marc Bru 「大学における教授実践：研究の適時性と重要性」

本書の第1章に当たる本章は、主として本書の主題である教育実践を理解するために必要な基本的事項を解説したものである。Bruは、教員や学生に関する諸統計、大学教育の多様化と学生が直面している履修上の困難、これまでの教授や学習に関する研究や政策の歴史や現状とその評価、新しい情報通信技術が教育に与える影響等について概説した上で、教員の役割が拡大してきたこと、教育実践の改善の必要性、教育学の立場からの研究の重要性等を指摘する。そして、実践を踏まえた今後の研究の進め方についての所見を述べている。

(2) Marguerite Altet 「大学第一期課程の教授：適応の新しい形又は教授する「メティス」について」

高等教育大衆化に伴って多様化(別の言い方をすれば「学力の低下」)した学生に教員がどのような対応をしているかについて、大学第一期教育(DEUG課程)を担当する35人の教員への聞き取り調査を基に行われた研究である。Altetは、教員の大半はその役割の重要性を認識しつつも、伝統的な「よい学生」から程遠いことの多い現代の学生に対して、大学教育において期待される目的を達成することについて常に困難を感じていると述べる。そして、教員はそうした困難に対応するため「適合する器用仕事(bricolages adaptatifs)」を独自に開発し対応しており、そうした事実を踏まえて、現場における教員の創意工夫が重要であることを著者は指摘する。

(3) Marie-Pierre Trinquier et André Terrisse 「授業の予測と現実の間：DEUG課程教員による実践と表象(représentation)」

前章に続いて、本章もDEUG課程教員の実践を取り上げた研究結果である。心理学、社会学、地理学、経営管理、生命科学・地学の計16名の教員への聞き取り調査に基づいて、教育活動において教員が行うことを意図していたこと(prévision)と実際に行われたこと(réalité)を分析し、その相違に着目しつつ研究を進めたものである。そして、その認識の相違が教育効果に影響を与えることを著者は報告している。

(4) Joël Clanet 「授業で何が起きているか？」大学における教授実践の概要」

本書の第1部に当たる「教授実践」の最後の章であるClanetによる本章は、授業の中で起きていることに着目し、研究を行った結果である。当該研究は、第一期課程の教員と学生に対する質問紙調査及び授

業（演習等を含む）の観察を行い、授業が行われる環境、授業時間、授業の目的、授業で行われる教育・学習活動等のほか、ノートをとることを容易にする要因、学生の関心を維持するための手法等についても調査した。この研究によって、例えば、教員が学生の関心を維持するために用いたとされる手法が必ずしも学生側からは評価されていないこと、講義・演習・実習間の教育実践の違いがある一方で共通の実践があること、学問領域間での教育実践の相違等が明らかになっている。

学生における学びの実践

(5) Marc Romainville 「学生における学習」

著者の Romainville は仏語圏ベルギーに位置するナミュール大学に在籍する研究者である。Romainville は、フランスにおいて「教授法(pédagogie)は小学校教育の問題である」(94頁)と言われ大学では全く関心を集めなかった時代に、既に大学における教授法の研究に取り組み、ナミュール大学で大学教授法研究教育センター(Centre de recherche et de formation en pédagogie universitaire)の運営に従事してきた。Romainville による本章は、本書第二部に当たる「学生における学びの実践」の冒頭において、1960年代末からの学生の学習活動に関する研究の歴史やその背景を概説するとともに、1980年代に英語圏の国で提示され、1990年代に仏語圏の国でも認識された学習の七つのモデルを紹介している。そして、このモデルは例示に過ぎないとしつつも、複数のモデルを念頭において学際的な研究が推進されるべきことを指摘する。

(6) Régine Boyer et Charles Coridian 「大学初年次で成功する」

本研究は、それぞれ複数の大学における二つの異なった調査（一つは聞き取り調査、もう一つは質問紙調査）に基づいている。両調査とも DEUG 課程の一年次学生を対象とし、保持するバカロレアや性別、学問領域の相違等を踏まえつつ、学生が大学初年次において成功する要因を探ることを目的としたものである。調査の結果に基づいて、授業への継続的参加や規則正しさが共通して成功の重要な要因となっている半面、学問領域によって異なる要因も数多く認められることが報告されている。

(7) Patrick Rayou 「確実を追求する学生」

本章を執筆した Rayou は、今日の第一期課程学生が、入学後、未知の世界(inconnu)である大学教育を既に知っている世界(connu)、すなわち中等教育の枠組で理解することによって、知識や授業、学習、評価へ対応するに際して、一種の「再確認(réassurance)」を行うよう努めているとする。Rayou は、こうした「新学生(neo-étudiant)」を「延長高校生(lycéen prolongé)」と呼称し、更に、中等教育と同じ手法を用いるようになった教員側の対応も含めて、第一期大学教育の変化を「中等教育化(secondarisation)」と表現した。そして、中等教育化は一種の課題解決方法と受け止められている一方で、第一期課程が待機の時期となり、真の試練がその後には先送りされたことへ警鐘を鳴らしている。

(8) Emmanuelle Annot 「個別指導制度(tutorat)又は錯綜した意義」

編者の一人である Annot による本章は、1997年の第一期課程教育改革(前述バイル改革)で導入された個別指導制度(tutorat)を取り上げたものである。個別指導(制度)とは、Annotによれば「教員と学生間の教育における意思疎通を改善することを目的とした方策」であり、受入れ個別指導(tutorat d'accueil)と方法論・教授法個別指導(tutorat méthodologique et pédagogique)に分けられ、通常上級の大学生によって担われるものである。個別指導制度の成果について、Annotは、特定の学生には効果はあったものの、主対象であった困難状況にある学生には殆ど利用されず、結果としては所期の成果を挙げることができなかつたと述べている。

評価

(9) Michel Lecoïnte 「評価不可能な大学」

本章は、大学における教育評価について取り扱ったものである。Lecoïnte は、1997 年のバйл改革で導入された教育評価が大多数の大学において実行されなかったことを取り上げ、特に学生による評価を導入すべきとしたことが「スキヤンダル」であったと述べている。そして、厳格で直接の管理による評価は教員に耐え難く効果が薄いこと、むしろ、その専門的熟練(pratiques professionnelles)を獲得するための支援方策として評価は位置付けられるべきことを主張する。

(10) Christophe Michaut 「学習成果の評価」

本章は、学生の行動様式及び教育環境等が第一期課程における成功にどのように影響を与えるかについて、3 大学でそれぞれ経営管理、心理学、生命科学・地学の領域で学習する計 1,818 人の学生に対して行われた調査に基づく研究報告である。Michaut は、同じ学問領域における大学間の試験成績の差は、提供される学習支援等よりも試験の難易度に拠るとし、DEUG 試験合格率に基づく大学間を比較した評価を暗に批判している。また、この調査から、学生の属性や学修歴、行動様式が入学後の学習成果に一定の影響を与えることが報告されている²。

そして、新しい技術？

(11) Brigitte Albero 「技能・技術・対策：手段(instruments)に関する問題」

本章は、新しい情報通信技術の発達が教育に与えた影響を取り扱ったものである。Albero は、1990 年代初頭から行われてきた複数の調査結果を基に、資源(物的・人的)の不足が大学における情報通信技術活用の妨げになっている一方で、理論的枠組を欠いていることも障害となっていることを指摘している。すなわち、情報通信技術を用いた教育の在り方を研究するには、複数の学問領域の参加を得て理論的・方法論的枠組が不可欠であるとする。そして、技術革新の結果、大学教授職の見直しは不可欠であり、大学以外の機関が高等教育を主として担うことになる可能性が否定できないことを示唆している。

3. 本書の特色と意義

本稿の最後に、本書の特色や意義について、日本の高等教育の状況も踏まえながら考察を加えることとした。

本書に収録された研究の多くは、大学第一期課程(DEUG 課程)における教育を取り扱ったものである。実際、最初の「教授実践」に含まれる全ての章、次の「学生における学びの実践」でも Romainville による概説である最初の章を除く他の全ての章は当該課程についての研究であり、残る 3 章の研究対象も同様である。これは、フランスの大学において教育上の問題の大半は DEUG 課程に生じることを反映したものであると考えられる。実際、二年度に進級する際の試験に半数以上が不合格となり、留年を含めても最終的に DEUG 課程を修了するのは 7 割程度にしか達していない(大場, 2004a)。

本書に収録された第一期課程についての研究は、日本において近年注目されることになった初年次教育の重要性を改めて認識させてくれるとともに、多様化した学生への対応について様々な示唆を我が国の大学に与えてくれる。本稿でその詳細に入ることは不可能であるが、例えば、学生の属性や学修歴、行動態様に基づいて学生の成功を分析した事例などは大いに参考になるであろう。大学入学後にほぼ全員が学士の学位を得て大学を卒業する状況にある日本では、学生の成功の要因についてはこれまで殆ど顧みられず、この分野での蓄積が極めて少ないからである。なお、フランスでは全国規模の詳細な学生調査(特定の年

次の追跡調査を含む) が国の機関によって行われており、学生の成功に繋がる要因が綿密に分析されていることも付言しておきたい³。

他方、本書で取り上げられた研究の多くにとって、大学の学生の多様化に如何に大学教育が対応しているかが最大の関心事であった。学生の多様化は、従来からある普通バカロレアに加えて技術バカロレアや職業バカロレアが創設され、これらの保持者にも平等に大学の門戸を開かれたことに大きく起因している(大場, 2004a/2005b)。高等教育への進学率が両国とも5割前後であり、同様に学生の多様化が進んでいると考えられるが、フランスの大学における学生の多様化は、偏差値で輪切りにされる日本の大学の学生の多様化と較べても、一つの大学に限った場合は比較にならないほど激しい。この点については、両国の大学を比較研究する際に留意する必要があるだろう。

最後に、本書は教育実践に関するほぼ最新の研究を俯瞰するのに適切な文献であるが、その結論で述べられているように、現在の研究・実践は大学教育に関して山積する問題の解決には程遠く、今後とも複数学問領域からの参加を得た研究を推進していくことが不可欠である(301頁)。フランスにおける当該領域の研究は、英語圏諸国や他の仏語圏諸国と較べても遅れていたものの、2000年代に入って活発になってきた。今後の研究の発達に、これからも着目していくこととしたい。

【注】

1. 1995年の政令第95-674号によって、研究担当大臣(国民教育大臣)の下に、教育研究に関する調査・課題設定・評価を行うことを目的として設置された委員会組織である(議長は担当大臣)。大臣を除く委員は、教育行政担当官7人、教育機関代表7人、有識者12人で、委員会の事務局は国立教育研究所(INRP)が務めた。CNCREは、2000年、政令第2000-32号によって解散された。
2. このうち、バカロレアの成績と進学後の成績との相関についての学問領域による差について、大場(2005b: 85-86)で取り上げた。
3. その一部を大場(2005b)で紹介した。

【参考文献】

- 大場淳(2004a)「フランスの大学における「学力低下」問題とその対応」広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部/第52号, 371-380.
- 大場淳(2004b)「フランスの大学における学生支援—進路指導並びに大学情報・進路指導センター(SCUIO)の活動を中心に—」大学論集第34集, 41-61.
- 大場淳(2005a)「フランスにおける大学教員の教授能力開発」有本章[代表]『大学におけるFD・SD(教員職員資質開発)の制度化と質的保証に関する総合的研究』平成14年度~16年度科学研究費補助金基盤研究A1研究成果報告書, 108-129.
- 大場淳(2005b)「フランスのバカロレアと高等教育の質保証に関する一考察」『高等教育の質保証に関する国際比較研究』(COE研究シリーズ16), 広島大学高等教育研究開発センター, 69-94.
- Gomel M. (1998) *Récit (presque) imaginaire entre préhistoire et futur : quelques images de la longue marche... vers l'évaluation des enseignements. Actes du colloque interuniversitaire sur les méthodes d'évaluation - 2 et 3 juillet 1998* : Université de Poitiers, Poitiers. 42-51.

FD 文献紹介 3

Heather Fry^{*1}, Steve Ketteridge^{*2} & Stephanie Marshal^{*3} 編著

『高等教育の教授学習ハンドブック』

—A Handbook for Teaching and Learning in Higher Education: Enhancing Academic Practice』
(Second Edition, Kogan Page Limited, 2003 年)

加藤 かおり**

1. はじめに

本書は、英国での大学教員のための教授学習 (Teaching and Learning) に関するテキストとして「最も売れている」といわれるハンドブックである。

風評はともかく、本書が、2006 年から新任の教員に取得が義務づけられた高等教育資格課程 (Postgraduate Certificate in Higher Education) における各大学のテキストの参考文献欄に、必ずといってよいほど載っている一冊であることは間違いない¹⁾。

その理由として、インペリアルカレッジロンドンの教育開発センター長のヘザー・フライ氏、ロンドン大学クイーンメリー校の教育・スタッフ開発部長のスティーブ・ケターリッジ氏、ヨーク大学グッドリック校教育副学長兼スタッフディベロプメント部長のステファニー・マーシャル氏が代表編著者であり、その他大学教育開発にかかわる多彩な執筆者が名を連ねているということもあり、プログラム実施側にとって利用しやすいテキストであることがあげられる。

しかし、実際内容を見てみると、本書の第 1 章にもあるように、読者として第 1 に想定されている対象が高等教育研究の専門家ではない多様な専門分野にわたる新任の大学教員であり、教育や心理についてとくべつ学習経験のない人の「学習とは何か」「どうやって学生の学習中心の教育計画をたてればよいのか」というような基本的な問いに対する答えのヒントや、読者自身が取り組むきっかけを与えてくれる。この点では、英国内外を問わず、どのような大学教員が読んでも興味深いものがあるろう。

一方、日本の FD に関わる教員や高等教育研究者にとって、本書は、現在の英国高等教育における教授学習の動向や、アカデミックスタッフ SD (英国での FD) プログラムにおける中心的なトピックについて、その概略を理解するのに役立つ一冊である。

^{*1}Head of the Centre of Educational Development at Imperial College London ^{*2}Director of Educational and Staff Development at Queen Mary University of London ^{*3}Director of Staff Development and Provost of Goodricke College at the University of York.

**新潟大学・大学教育開発研究センター助教授

2. 本書の概要

2.1 全体の概要

本書は、その第1章にもあるように、第1に新任の主に学士課程担当の教員を対象とするテキストとして書かれている。学生はいかにして学ぶのか、彼らの主体的な学習を促す教授とは何か、適切な成績評価や教育計画などを中心に授業担当に必要なポイントが、章ごとに独立した読み物として書かれており、多忙でさまざまなストレスにさらされている教員が、必要なところを必要な時に部分的に取り出して読むことができるように構成されている。所々に、練習問題（Interrogating Practice）や、様々な大学での事例が挿入されているのも役に立つ。

また、単に、教授方法を紹介するというものではなく、さまざまな専門分野における異なる教育的な特徴をふまえつつ、専門的实践、成績評価、授業観察やポートフォリオ作成などにもふれている。経験豊富な教員や、その他高等教育における成人教育の実践家、教授学習のサポートに関わる人々、管理運営者などにも、一般的な教授学習の課題などが概観できる内容となっている。

2.2 構成

本書は、概ね以下のような章立てと項目で構成されている。

1. 本書の利用者ガイド（本書の目的、意義など）

第1部 実践の開発

2. 学生の学習を理解する

歴史的学習観（構成主義他学派の学習観など）と現在、成人学習理論、経験的学習、理解レベルや学習スタイルの研究

3. 教授と学習を組織するーアウトカムベースの教育計画

教授学習の運営、学習成果中心の教育計画とその背景、コース/モジュール設計のモデル、体系的アプローチと学習成果中心の計画

4. 学生評価（成績評価）の原則

成績評価のコンセプトと課題、評価方法、教育の質をモニタリングする、自己評価者になる

5. 学生の動機付けを行う

無動機と達成動機、動機と行動、動機の開発、学生の動機付けを促す

6. 学習のための講義式授業

講義形式の意味、講義形式と他の教授方法との比較、講義形式を効果的にする、学生の問題行動、学生の視点による「良い講義」

7. 少人数グループでの教授・学習

定義づけの背景、グループサイズ、内容、小グループ学習、少人数グループの教育計画、学習者を準備する、グループ開発の状況、学習環境設定、少人数グループでの教授法タイプ、少人数での効果的な教授技術

8. プロジェクト研究および学位論文を指導する

なぜプロジェクト研究や論文指導が必要か、学習戦略の目標、スケジュール管理法

9. 学生のスキルを開発する教授・学習

雇業者の視点、職業社会で必要なスキル、高等教育の対応、大学教育の回答、実践の実行

10. 経験学習を支援する

学術的学習と経験学習，コース設計に経験学習を導入する，大学内の経験を生かす，自然や職場などでの現場経験を生かす，アクションラーニング，オンライン学習，教員の役割，

11. バーチャル空間，現実的学習：バーチャル学習環境（VLEs）への手引き

VLEを一巡する，バーチャルと現実，キャンパスで学習することと家で学習すること，4つの課題，どのVLEか，新任教員から成功した教員へ，学生の文脈で考える，VLEsについて知る必要性，自分の教育方法を見直す，自分の時間を考える

12. 学生の学習を支援する

多様性における学習，学習支援の必要性，スキル開発，学習支援のプロセス，全キャンパスにわたる学生サービス

13. 教育における質と基準を保証する

質と基準に関わる定義および専門用語，高等教育をめぐる国家的背景，質と基準の動向，しつの上および管理における教員の役割

14. 教育評価

評価の文脈，フィードバックの種類と方法，分析と解釈，実行

第2部 教授・学習に関する学術的開発

15. 省察的実践

振り返りとは，初心者から専門家へ，省察的実践家になる，学習スタイルからみる教授法の概念

16. 授業観察

授業観察の意義，観察の観点，プロセス，フィードバック

17. 教授記録（ポートフォリオ）

定義と背景，ポートフォリオの内容，作成手順，使用メディア，ポートフォリオによる評価

第3部 専門分野における教授・学習

専門分野ごとの，教育計画（カリキュラム設計），教授方法（講義形式やグループ学習など），成績評価，学生の学習支援について

18. 実験科学および工学

19. 情報・コンピューター科学

20. 人文社会科学

21. 看護学および助産学

22. 言語学

23. 医学歯学

24. 会計学，ビジネス，経営学

25. 数学，統計学

用語解説

2.3 学生（学習者）中心の学習の理解とアウトカムズベースの教授学習

本書は，どの章もFDにおいて様々な基準やガイドラインを提示する際に役立つ内容となっている。その中でも，特に第2章および第3章は，英国をはじめ欧米で急速に移行しつつある学生中心の学習やアウトカムズベースの教授学習計画について，背景にある理論の理解および実行のための枠組みをわかりやすく提示している。編著者自身がこの章（第2章）だけでも読んでほしいとあげている部分であり，教授学習のワークショップなどでの資料としても用いられている部分でもあることに納得がいく。ここでは，(1)

学生はいかに学習するのかを理解する(第2章)と(2)アウトカムベースの教育計画(第3章)について、概説する。

(1) 学生はいかに学習するのかを理解する

教授学習を行う上で重要なことは、学習者が行動し、知識を得て理解するためには何が役立つのかということ、学生はいかに学ぶのかということに気を配るということである。そのために、ここでは、学生がどのようにして学習するのか、その行動形態について説明できる範囲で、高等教育に役立つ、以下のような一般的な学習モデルや考え方を紹介している。

1) 構成主義 (Constructivism)

学習を理解するための理論において最も卓越しているのが構成主義である。現代の心理学者の多くがこの理論を人間がいかに学習するかを説明するのに用いている。

構成主義が伝えているのは、「私たちが新しい理解や知識を、私たちのもつ古い理解や知識の延長に組み込んで、あるいは合わせることによって学ぶ」²⁾ということである。いわゆる「白紙状態に書き込む」ということはめったにない。もちろん、事前の知識や理解が初歩的であったり、誤っていたりすることはあるが、なんらかの事前の知識や理解に付け加えられた形で、またはそれが変化するという形でしか学習は起こらない。さらにそうした変化が起こった時、理解した事実の記憶を長期間にわたって保持することができる。したがって、講師は新しい知識を伝達する際、学習者の持っている文脈(context)につなげることが大切である³⁾。

2) 成人学習理論

最も有名な成人学習理論にノールズ(Knowles)のアンドラゴジーがある(Andragogy)。そもそも成人の学習をそれ以外の学習と区別できるのかということに議論が分かれるところでもあるうえに、ノールズのアンドラゴジーは長期にわたり幾度もその定義を変えられてきたため複雑で果たして学習理論なのかどうか疑問がある。しかし、彼の提示した成人が学習する際の5つの原理は、その後の成人学習に大きな影響を与えてきた。その原理とは、次の5項目である⁴⁾。

- 人は成熟するにつれて、より自己決定的になる。
- 成人は経験を蓄積しており、それは学習の豊かな資源となる。
- 成人は、彼らが何かを知る必要を経験したとき、学習の準備が整う。
- 成人は子供より科目中心ではない傾向がある。彼らは、ますます問題中心となる。
- 成人にとって、もっとも強い動機は内的である。

これらの原理については、実証性が欠落しているなどの批判があるが、少なくとも高等教育における学生の自立的学習や自己決定学習、問題中心の傾向、内的動機付けの重要性などは、この原理と関連性がある。

3) 経験学習 (Experiential Learning)

経験は、学習プロセスにおいて中心的な役割を果たすことは言うまでもない。経験学習の理論は、理解とは固定的なものではなく、経験によって形成され、再形成されるものであるという概念に基づいている。この理論についての認識は、高等教育における教授方法の多く、例えば課題中心学習、実験学習、実践作業、アクションラーニング、ロールプレイ、その他多くの少人数教育における基盤として必要である。中でも、コルブ(Kolb)の「学習サイクルモデル」は、しばしば修正され、簡易化されながら用いられている理論である。

コルブのモデルは、①具体的な経験、②省察的な観察、③抽象的な概念形成、④積極的な試行活動を学

習が成功するための能力の要素としてあげ、これらが順に循環して確信が生じるというものである。すなわち、学習のサイクルは単に実行（体験）するだけでなく、振り返り、処理し、考察し、一層深く理解するという事を含んでいる。これらの4つの学習能力の要素は、個々の学習者の学習スタイルや、高等教育でいえばその学術研究アプローチのあり方によって、どの部分がより強調されるか異なってくる。例えば、数学のような分野では、抽象的な省察が中心であり、この場合③の抽象概念の形成と②の省察的な観察による振り返りの要素に重心が置かれる。おそらくこの「省察（振り返り）」および「省察的実践」の概念は、高等教育の教員にとって容易ではないので、その理解には支援が必要であるという。振り返る能力は、専門的知識よりも専門のコンピテンスと関連があり、その能力開発は、生涯学習の鍵となる観点でもある⁵⁾。

4)理解レベルと学習スタイルについての研究アプローチ

第2章の最後に、学習成果の質に影響を与える、学習法、理解レベル分類、学習スタイルについての研究を紹介する。

①学習法

深層的な学習法は、たとえば意味の理解や探求、新しい考えと現存する知識との識別や批判的な評価、鍵となるテーマやコンセプトの判断など、学生が学習から最大限の意味を得られるようなアプローチであり、高いレベルの認識へ到達する。

一方、表層的な学習法は、作業をこなす、情報を記憶するなどである。いわゆる「丸暗記」の学習は典型的な表層的学習法である。この学習法では、知識は意味のある枠組みなしに習得される⁶⁾。

②理解レベルの SOLO 分類法

分類学 (taxonomy) は、学習成果 (Outcomes) や達成目標についての研究の基盤となっている理論である。これによると、理解のレベルは前構造的、単一構造、多角構造、理論的構造、拡張構造の5つの階層に分類される。この理解のレベル分類は、学習の達成目標を設定したり、それに基づく評価を行ったりするなど、カリキュラム開発に使われる。

③学習スタイル

学習スタイルについては、最もよく知られているハニー(Honey)とマムフォード(Mumford)の4つの分類、活動家型、熟考家型、理論家型、実用家型について簡略的に紹介されている。

(2) アウトカムズベース (学習目標・成果中心) の教育計画

近年、高等教育における教育学習デザイン方法の主流は、「アウトカムズベースの計画」である。ここでは、アウトカムズベースの方法を用いることの理論的根拠をあげること、科目の学習目標・成果を書いてみることで、学習目標・成果と学生の特徴、科目の内容、教育学習戦略、成績評価とのつながりを明確にすること、学習目標・成果の実用性を評価することを目指す。

1)アウトカムズベースの計画の背景

高等教育質保証協議会 (HEQC) の卒業水準の認定(1997)やデアリングレポート(1997)以降、英国および諸外国においても、教授学習のプロセスを教員および学生に対して、より目に見える形、透明性ある形で作成することの重要性が問われるようになった。

もともと30年以上前から行動心理学を始点に、高等教育における行動目標 (Behavioral Objectives) 設定について議論がなされてきたが、そこでは、教員が何を教えたいのかという意味での学習目的 (Objectives) と学生が成果として何ができるようになるのかという意味での学習成果/目標 (Outcomes) との間で意見が分かれていた。その後、デアリングレポートにおいてアウトカムズが推奨されたことを受

け、こちらを用いることが中心となったのである。ここでのアウトカムズとは、一般目標(Learning Aims)以上の内容であるとともに、特定の目的(Learning Objectives)ではないものと考えられている(ウォーカー, 1994)。

2) 科目設計のモデル, 系統的方法とアウトカムズベースの計画

科目設計の方法には、大別すると、システムアプローチ, 知識中心アプローチ, 問題中心アプローチ, 創造的/経験的アプローチ, 訓練/ワークショップ中心アプローチの5つがある。このうちシステムアプローチが、アウトカムズベースの教授学習方法に最も近い関係にある。

システムアプローチの大きな特徴は、①ステップ A: 目的目標(objectives, Outcomes)の設定から始めて系列的なトピックを考え、②ステップ B: 学生の特徴、例えば事前の知識や学習スタイル、学習動機などを評価し、③ステップ C: 教授学習の計画、D: 実施、E: 学習成果の評価、そして④ステップ F: その結果による教授学習計画の修正、更新という手順にある。このモデルでは、焦点は、教員が伝える内容や教員の知識ではなくて、学生によって達成される成果、学生の知識ニーズにあてられている。このアプローチを用いると、的を射た授業デザインを建設的に行うことができるという。

ここでは、さらにステップ A から F までの段階を踏んで、実践的にシステムアプローチによる教授学習計画を作成できるように、アウトカムズを記述する際用いる述語の例、目的とアウトカムズでの述語の相違、学生の特徴を示すカテゴリーの例などが具体的にあげられている。

3. 総括および日本のFDへの示唆

FDを企画実施する者として、高等教育および成人学習について研究する者として、私自身が本書から学んだことは、まず、英国の高等教育が教育から学習へかつてないほど急速に傾斜していること、その学習観においては「学習成果(アウトカムズ)」中心を高等教育の基準として設定しつつあり、英国のアカデミックスタッフSDでは、この基準の普及に主眼が置かれているということである。

そのほか、学習成果(目標)と目的の相違を明確に示していること、構成主義や成人学習理論を基に「学習者中心」とは、単に参加型などのスタイルというよりも「学習者のもつ文脈」を基点とすることにあることなど、学習に関わるエッセンスを一度に学ぶことができる。

一方、本書は現在の英国の高等教育における教授学習についての理解に役立つだけではない。ここで展開される理論や教育実践のためのヒントをベースにFDのためのワークショップを組み立てることができる。

本書の筆頭編著者であるヘザー・フライ率いるインペリアルカレッジロンドンでの高等教育資格課程のワークショップに参加したところ、そのワークショップ自体が「学習成果中心」のプログラムであり、本書で紹介される「いかに学ぶのか」の学習理論をベースとした深層的アプローチ(Deep Approach)のプログラムとなっていた。実際、これを真似て、小さなワークショップをプログラムし実施してみると、思いがけない参加者の「深い理解」が得られた。その意味では、教員という成人学習者を対象とした学習プログラムとしてのワークショップ型FDを企画実施する立場としても、大変参考になるテキストである。

さらに、本書の編著者および協力者のリストは、英国の、FDはじめ教授学習の支援体制の厚みを物語っており、FDが決して片手間に行われているものではないことがわかる。

同時に、高等教育の専門家とは何かという疑問を投げかける。例えば、代表編著者のヘザー・フライは、以前はロンドン大学教育研究所、通称 IOE という大学院レベルの教育実践専門家養成機関の教員をしていた教授学習実践の専門家であり、インペリアル大学における高等教育資格課程の責任者として、その課程

のプログラム開発および企画実施を行っている。同氏に限らず、英国のアカデミックスタッフSDを担当しているセンターなどの教育専門スタッフの多くは、教授学習の研究者であるとともに、教育実践の専門家である。

加えて、本書の構成をみると、なるほどセンターの教育スタッフには、教授学習の研究者、実践の専門家、各専門分野の教員をつなぐコーディネーターとしての役割があることがわかる。日本におけるこのような高等教育の専門家を養成することの必要性をも感じさせてくれる一冊と言える。

【注】

- 1) 例えば、ロンドン大学教育研究所の Certificate in Teaching and Learning in Higher and Professional Education, インペリアルカレッジロンドンの Certificate of Advanced Study in Learning and Teaching, レスター大学の Postgraduate Certificate in Academic Practice in Higher Education, ロンドン大学ロイヤルハロウェイ校の Postgraduate Certificate in Academic Practice in Teaching and Learning などのハンドブックの参考文献欄にも本書はあげられている。
- 2) 「文脈」は、この後に登場する深層的アプローチや学習者自身が考える学習を組み立てる上で重要な概念となる。既存の知識、経験などを含め、学習者の現在ある状態を学習の出発点と捉える (Brookfield, 1986)。
- 3) 11 頁
- 4) 13 頁
- 5) 振り返り, reflection は, 成人学習における自己変容のためのプロセスであり, 能力としても重視されている (Mezirow, 2000)。高等教育における深層的アプローチ (deep approach), すなわち自分で様々な文脈につなげながら理解し, 考えるための方法として展開されている (Biggs, 2003)。
- 6) この2つのアプローチ概念については, ビッグス (Biggs, 1987) やラムズデン (Ramsden, 1988) が詳しい。

【参考文献】

- Biggs, J. (2003). Teaching for Quality Learning at University, Buckingham: SRHE & Open University Press.
- Brookfield, S.D. (1986). Understanding and Facilitating Adult Learning, Buckingham: Open University Press.
- Brockbank, A., McGill, I. Facilitating Reflective Learning in Higher Education. Buckingham: SRHE & Open University Press.
- Mezirow, J.& Associates (2000). Learning as Transformation, San Francisco: Jossey-Bass.

FD 文献紹介4

Kay Herr Gillespie 編

『ファカルティ・ディベロップメントの手引書:実践の助言, 実例, 方策

—A Guide to Faculty Development: Practical advice, examples, and resources』
(Anker Publishing Company, 2002 年, 290 頁)

天野 智水*・長澤 多代**

1. 本書の特徴と著者

本書は、ファカルティ・ディベロップメントの理論的背景の解説を含めながらも、実践的な提案を主な内容とする実践書である。関連事項の情報源、そのまま利用できる教材も豊富に紹介されている。本書の一部は、1988 年に出版された『新しい専門家のためのハンドブック (A Handbook for New Practitioners)』にもとづいている。想定される読者には、ファカルティ・ディベロップメントをこれから実施する者、実施経験のある者に加えて、ファカルティ・ディベロップメントを促進し理解を深めることに関心をもつ大学の執行部がいる。

本書の出版は Professional and Organizational Development Network in Higher Education (POD Network) の後援を受けている。POD Network は、ファカルティ・ディベロップメントの取り組みを推進する専門家団体であり、1976 年に設立されている。本書の冒頭には、POD Network の綱領が記されている。

編者である Kay Herr Gillespie はコロラド州立大学の名誉教授である。Gilliespie は、この大学の外国語・外国文学部で教鞭をとりながら、1976 年からファカルティ・ディベロップメントを担当している。また、POD Network では、中央委員会の委員を務め、1998 年から 1999 年に総裁を務めている。22 名からなる著者の多くは、高等教育の研究機関、大学の教育支援関係のセンターやファカルティ・ディベロップメントの担当部局に所属している。これらの機関は、一部にカナダを含むものの、そのほとんどが米国である。本書の記述を引用すると、著者たちは「それぞれの実践、調査、理論との結びつきを通してファカルティ・ディベロップメントの分野を形成してきた先駆者であり刷新者」である。本書を通して、ファカルティ・ディベロップメントに従事してきた先達の知識や経験が共有されることが期待されている。

2. 本書の構成

本書は 6 部 24 章から構成される。

* 長崎大学大学教育機能開発センター講師

** 長崎大学大学教育機能開発センター助手

- 第1部 ファカルティ・ディベロップメント・プログラムの準備
- 1章 教員開発, 教育開発, 組織開発: 選択肢とその選択 (Robert M. Diamond)
 - 2章 教育・学習センターを設置・運営するための10原則 (Mary Deane Sorcinelli)
 - 3章 プログラムの種類とプロトタイプ (Delivee L. Wright)
 - 4章 教育開発プログラムの確立: 一事例 (L. Dee Fink)
- 第2部 教育実践の評価
- 5章 カレッジの教育評価を改善する (L. Dee Fink)
 - 6章 コンサルティングのプロセス (Karron G. Lewis)
 - 7章 授業観察: 協働者としての観察者 (Luann Wilkerson; Karron G. Lewis)
 - 8章 小集団による指導法の分析: 指導について学生の認識を高める (Nancy A. Diamond)
 - 9章 現在の知識が過日にあったなら: 1年生コンサルタントのトップ10リスト (Jill D. Jensen)
- 第3部 実践計画
- 10章 専門的資質の開発プログラムを促進する (Susan A. Holton)
 - 11章 成功するワークショップを計画する (Linda R. Hilsen; Emily C. (Rusty) Wadsworth)
 - 12章 キャンパス・ニューズレターの創意工夫 (Laura Border; Linc. Fisch; Maryellen Weimer)
 - 13章 不安の要素を明らかにする: テクノロジーを原則のある子どもの遊びにする (LeAne H. Rutherford)
 - 14章 役立つ配布資料: 積極的なクラスの雰囲気づくりとその維持 (Linda R. Hilsen)
- 第4部 特定の読者に向けて
- 15章 組織における効率性の向上: 学科長との協働 (Ann F. Lucas)
 - 16章 教育能力に乏しい教員の教育改善を図る (Ann F. Lucas)
 - 17章 問題解決型学習 (Richard G. Tiberius)
- 第5部 多様性への言及
- 18章 多文化ファカルティ・ディベロップメント活動の概念化, 設計, そして実施 (Christine A. Stanley)
 - 19章 教室における多様性に言及する方法 (Lee Warren)
 - 20章 レズビアン, ゲイ, トランスジェンダーの人々について (Christine Imbra and Helen Rallis)
- 第6部 ファカルティ・ディベロップメント委員会への指針: 目標, 構造, そして実践
- 21章 ファカルティ・ディベロップメント委員会の基本 (Joyce Povlacs Lunde and Madelyn Meier Healy)
 - 22章 ファカルティ・ディベロップメント委員会に関する質問と回答 (Joyce Povlacs Lunde and Madelyn Meier Healy)
 - 23章 ファカルティ・ディベロップメント委員会チェックリスト (Joyce Povlacs Lunde and Madelyn Meier Healy)
 - 24章 ファカルティ・ディベロップメント委員会のためのリソース (Joyce Povlacs Lunde and Madelyn Meier Healy)

3. 本書の内容

第1部は、ファカルティ・ディベロップメントの意味、対象とする範囲、種類などの基本的事項を紹介している。

第1章は、教育改善が必要になった背景、教育改善のアプローチとその方法を紹介している。まず、教育改善が必要になった背景には、1980年代より米国で発行された各種報告書が大学の学習・教育への関心の低さを指摘してきたこと、これをもとに、学生、両親、州や国家の主導者が教育・学習効果に注目して大学に教育改善のプレッシャーを与えるようになったことがある。大学が教育の質的向上を図るには、個別の取り組みから教育改善に公的な責任をもつ部局の設置まで複数の選択肢があるとしている。一般に、教育の質的向上を図るには、教員開発、教育開発、組織開発の3つのアプローチがある。1つめの教員開発（狭義の Faculty Development : FD）は、教員個人の教育スキルの向上を重視するもので、コンサルティング、ワークショップやセミナー、ピア・レビューなどの方法をもつ。2つ目の教育支援（Instructional Development : ID）は、コースやカリキュラムの改善を背景とする学生の学習を重視するもので、コースやカリキュラムのデザイン・実施・評価、コースやカリキュラムへの情報や教育技術の組み入れなどの方法をもつ。3つ目の組織開発（Organizational Development : OD）は、大学の構造や部局間の関係を重視するもので、学科長や学部長を対象にした組織改善の活動などの方法をもつ。3つのアプローチは、影響の大きさと影響を与えるまでの時間が異なるが、相互に関係している。大学ごとに効果をもつアプローチが異なることから、大学の執行部はどのアプローチを選択するのかを定めることが必要になる。

第2章は、ファカルティ・ディベロップメントのプログラムを創りあげたり、既存のプログラムを強化するための10原則が、さまざまな大学の事例とともに紹介されている。ただ、この10原則は、指令ではなく、新しい取り組みのための指針に過ぎないという断りがある。原則①：教員、ティーチング・アシスタント（TA）、執行部、学生など、あらゆる利害関係者との関係を構築する。原則②：プログラムを執行するために、効果的なリーダーシップとマネジメントを担う人員を確保する。原則③：教員自身がプログラムを提案したり実施すること（faculty ownership）を重視する。原則④：大学執行部、学部・学科長の積極的な関与を促す。原則⑤：プログラムの指針・明確な目標・評価の手順を開発する。原則⑥：大学組織の中に、戦略的に教育支援センターを位置づける。原則⑦：あらゆるニーズを視野に入れながらも、資源やスタッフの強みを活かせるプログラムを提供する。原則⑧：専門分野の枠を超えた教員間の協力関係とコミュニティの形成を促す。原則⑨：アイデア・スタッフ・資源・財政補助等について計画的な協働戦略を他の部局と構築することにより、プログラムを開発・発展させる。原則⑩：プログラムへに貢献した教員を表彰・報償する。

第3章は、プログラムを企画するための基盤を形成する要素を検討し、異なるニーズに対応するプログラムについて説明している。まず、プログラム企画の基盤を形成する要素として、リーダーシップ、大学のコミュニティ、大学内の教員、プログラムの成熟度、資源の利用可能性があるとされている。このうち、理事、リーダー格の教員、ファカルティ・ディベロッパーなどリーダーシップを発揮する人々の経験、関心、専門分野が提供するプログラムを決定することが指摘されている。また、大学ごとにファカルティ・ディベロップメントのニーズや実現の可能性が異なることから、大学のミッション、規模、学生の特性、教員の役割を検討することの重要性が指摘されている。次に、プログラムを企画・実施する組織には、大学内のセンター、複数の大学による協働プログラム、特定の目的をもつセンター、プログラム開発機構があるとして、それぞれについて米国やカナダの大学や専門機関が紹介されている。

第4章は、ある中規模の州立大学が教育開発プログラムを準備するときに役立ったアイデアと活動に

ついて、具体例とともに説明をしている。最初に、教育開発プログラムを準備するにあたって有益だった5つの因子をあげている。この5つの因子には、①新しいアイデアや試行的プログラムを生み出す支援グループの存在、②新しいアイデアを試みる上でリスクの少ない環境、③大学の教育状況の理解と必要なプログラムの検討、④教員から信頼を得るための教育支援基盤の整備、⑤大学執行部の支援がある。

第2部は、教育効果を評価し向上させるさいに生じる重要な問題について実践的な方策を示している。

第5章は、最初に授業評価関係の先行研究を整理し、授業評価のあり方を、授業の本質、評価の視点、授業の質的な評価、自己改善のための評価、個人の意思決定のための評価の点から検討している。この中で、評価には4つの視点があるとしている。①投入資本 (input) には、学生の性質もしくは教員の性質があり、②過程 (process) には、コースの決定とクラスにおける態度がある。③成果 (product) には、学生の学習の量とタイプがあり、④文脈 (context) には、授業を取り巻く物理的・社会的・制度的・個人的要因があるとしている。

第6章は、教員の指導法にもっとも影響を与えると言われる個々の教員を対象とするコンサルティング (individual consultation) について、相談者を得る方法、コンサルタントの役割、コンサルタントに必要なスキルを検討している。コンサルタントの役割には、データ収集・管理者、促進者 (facilitator)、教員の支援システム、カウンセラー、情報源があるとしている。コンサルタントに必要なスキルには、聴き取り、データ収集、クラス内の観察、データの分析補助、相談者に自信を与えること、共感、ファカルティ・ディベロップメントおよび教育関係の文献の知識があるとしている。

第7章は、教育改善もしくは評価のための協働的な授業観察 (collaborative observation) について、授業観察の実施プロセスと授業観察の限界を述べている。授業参観の協働者はファカルティ・ディベロップパーである。授業観察のプロセスは、事前相談、観察・記録、事後相談からなる。授業観察のデータは教育と学習の問題を部分的に捉えるに過ぎないために、更なる情報源として、学生の成績、学生による授業評価、教員以外の観察者によるさまざまな場面における観察、ビデオによる録画、シラバスを含む教材のレビューが重要になることが指摘されている。

第8章は、小集団に分けられた学生による教員の指導分析 (Small Group Instructional Diagnosis: SGID) のプロセスとその成果を紹介している。SGIDの手順は、インタビューの場の設定、インタビューの実施、情報の組織化、フィードバックの実施、学生へのフィードバックを目的とした指導計画の作成からなる。インタビューの実施では、6-8名からなる学生が授業に関する複数の質問について話し合う。次に、少数意見を重視しながらも、グループ内の総意でひとつの回答を決める。最後に、クラス全体の話し合いをもとに、質問毎にひとつの回答が決定され、クラスの総意として採用される。

第9章はコンサルタントに修得すべき10の秘訣をカウントダウン形式で紹介している。⑩実施内容や支援の範囲など、自分の立場の限界を知る。⑨依頼者や状況に個別に対応できるように準備する。⑧クラスにおける観察対象を明確にし、記録のとり方に習熟する。⑦依頼者がコンサルタントに期待することに気づく。⑥授業評価を学期の半ばで実施する。⑤どのような授業であっても、成功している点を見つけて賛美する。④教員自身が改善点に気づくように促す。③秘密を厳守する。②教員の意向が反映された授業をコンサルタントが支援する。①教員との協働的な関係を築き上げる。

第3部は、ファカルティ・ディベロップメントに取り組むにあたって一般的にみられるプログラムの特徴を示している。

第10章はプログラムの広報のあり方を紹介している。具体的には、年度末に翌年度のプログラムのパ

ンフレットと年間の行事予定表を全教員に配布すること、案内を繰り返し送付すること、キャンパスのニューズレターに関連記事を掲載することがある。

第 11 章は、教職員を対象とするワークショップを成功させるために、ニーズの把握とテーマの選択から、企画立案、実施内容と方法、評価にいたるプロセスに必要な留意点を具体的に解説している。付録として、ワークショップを実施する際の業務事項のチェックリストがある。

第 12 章はニューズレターを発行する目的と効果的な作成法を示している。ニューズレターを発行する目的は、教員、大学執行部、TA に教育改善に関する情報を提供することにある。教育者を対象とするニューズレターの目的には、効果的な指導法の情報を提供すること、指導法や学習スタイルについて意見を交換すること、優秀賞を獲得した教員や TA を紹介すること、新しい指導法を発表する場を教員に提供することがある。

第 13 章は教員がテクノロジー環境の変化に対応するための支援策を示している。教員がテクノロジーに抱く怖れには、時間をとられること、能力がないようにみられること、どこから始めればいいのか、誰にたずねればいいのかわからないこと、誤った選択をしてしまうことがある。これらの具体的な解決策として、遊びの要素を加える、テクノロジーを学習するためのコミュニティをつくる、学生が教員にテクノロジーについて解説することが提案されている。

第 14 章は、小規模のクラスにおいて積極的な雰囲気をつくるための方策を提案している。具体的な方策として、「始業前に教室に到着して、準備をしながら学生と談笑する」、「科目の目標や学生に期待することを明確に伝える」、「アイ・コンタクトをとる」などがある。

第 4 部は学科長や問題解決型学習に関心をもつ者といった、特定の人々にアイデアを提供するための章から構成されている。

第 15 章は学科長とディベロップメントの関係を述べている。学科長は学科の質的向上のために教員を動機付けるリーダーシップ、知識、スキルを身につけていなければならない。しかし、4,500 名の学科長を対象とした調査からは、彼/彼女らはそれらに欠けていることが分かった。ファカルティ・ディベロッパーは学科長と協力関係を構築し支援を行うことが必要である。そのためにファカルティ・ディベロッパーがとるべき具体的な方法として、学科長のリーダーシップを開発するワークショップを開催するよう執行部に働きかけること、学科長の勉強会を主催すること、そしてその勉強会で教育に関する経験や専門知識を検討材料として提供することによって勉強会を促進すること、が述べられている。

第 16 章はファカルティ・ディベロップメントのためのワークショップに参加しない教員への対応策が述べられている。教員の中には、テニユア取得という動機付けがなければワークショップに参加しないものがあるが、教育効果の改善を図ることが自分の職務ではないと感じている学科長も少なくないと思われる。そうした抵抗感をもつ人々を引き付けるためには工夫が必要である。まずは学部長との信頼関係を構築し、それを背景として学科長の信頼を得て当該学科の教員のニーズ・アセスメントを実施する。教育業績の低い学科を最初にアセスメントの対象とすると警戒感をもたれることがあるので、教育業績の高い学科を最初に対象とするのがよい。ニーズ・アセスメントは教員がどのようなワークショップに関心をもっているか、その優先順位はどうであるかを調べる。次に実際のタイムリーな、そして焦点を絞った具体的な目標をかかげたワークショップを設ける。そしてワークショップ終了時には、学生の学習成果を向上させるのに役立つようなことを学んだか、あるいはどのトピックが最もよかったかを調査することが述べられている。

第 17 章は医学部における問題解決型学習を扱っている。そして、ファカルティ・ディベロッパーはそ

の理念を把握し、教員がその理念を理解する手助けをしなければならないと述べられている。

第5部は多様性をキーワードに、概念のフレームワークや実践的なアプローチを提供する章から構成されている。

第18章は多文化に対応したファカルティ・ディベロップメントを実施するためのアプローチ方法について述べている。今日の教員は伝統的な学生だけではなく、人種、性別、年齢、性的関心（同性愛など）、障害の有無といった点で多様な学生に対応した教育のあり方を検討することが必要である。この必要性に応じたファカルティ・ディベロップメントのデザインが示されている。

第19章でも同じく教室における学生の多様性に焦点をあて、この問題に関する議論を展開するために筆者が実施した3つの方法を述べている。1つめは事例研究で、教室で起こった出来事を再現した記録をもとに、自分たちであればどのような行動をとるかを議論するものである。2つめはファカルティ・ディベロップメントの場を事例とした体験学習で、参加教員にその場で起こったことで気付いたことを検討するものである。例えば男性が女性よりも多く発言しているとか、白人が議論を支配しているとか、有色人種の人々が攻撃的な発言をしているといったことが発見できるかもしれない。3つめは階級に関するワークショップで、ワークショップに参加した教員たちに自分たちが所属していると考えている階級のことと、それによるメリットとデメリットについて議論してもらうものである。これにより教員が階級の問題に意識的になり、複数の階級からなる学生たちとどのように関わっていくかについてのより良い選択肢を与えることが可能となると述べられている。

第20章はレズビアン、ゲイ、トランスジェンダーの人々に関するものである。これらの人々については、人種や文化の多様性についての理解が深まっていることに比べて、まだ十分な理解がされているとはいえない。この問題に関するワークショップの内容が提案されている。

第6部はファカルティ・ディベロップメント・プログラムの実行に不可欠な構造、すなわちファカルティ・ディベロップメント委員会に関する章より構成されている。

第21章はファカルティ・ディベロップメント委員会の性格、目標、構造、活動および機能について述べている。ファカルティ・ディベロップメントを担当する部署やセンターがある場合、しばしば委員会はセンターへの助言機能をもつことになり、センター関係者は委員会の議長やメンバーとなる。両者は協働してイベントを実施し、予算を共有することもある。委員会の目標は、教育と学習の環境を改善するあらゆることを組織的に検討することにある。委員会の活動としては、ファカルティ・ディベロップメントに関する予算配分と、ワークショップ等の具体的なファカルティ・ディベロップメントの実施があげられる。

第22章はファカルティ・ディベロップメント委員会の立ち上げに関心をもつ人々から筆者たちに寄せられた典型的な質問と、それらへの回答が述べられている。質問は、①部局長や管理者はファカルティ・ディベロップメントを開始するために何ができるか、②ファカルティ・ディベロップメントは教員の評価にどのように関係するか、③ファカルティ・ディベロップメントを主導した中心的な管理者が去った場合はどうするか、④委員会の動機付けをどのように行うか、⑤ファカルティ・ディベロップメントへの参加率をどうやったら向上させることができるか、⑥委員会はどこまでの仕事をすることができるか、⑦教員が変化に懐疑的な場合や、反対の立場をとった場合、委員会は何ができるか、⑧委員会と教員組合の関係はどうあるべきか、⑨委員会が存在している場合、ファカルティ・ディベロップメントのための調整機関やセンターが必要であるか、⑩ファカルティ・ディベロップメント活動を評価する場合の最低基準はどのようなものか、という内容である。

第 23 章にはファカルティ・ディベロップメント委員会のあり方を問うチェックリストが掲載されている。その項目は、①委員会を構成するメンバーの身分（メンバーシップ）、②学内における委員会の位置付け、③ニーズ・アセスメントの実施状況、④予算、⑤機能、⑥プログラム、となっている。

第 24 章はファカルティ・ディベロップメントに役立つリソースとして、「スタッフ、プログラム、および組織開発協議会（The National Council for Staff, Program, and Organizational Development）」等の組織や、高等教育関係の出版物を紹介している。

4. おわりに

本書を通じて強調されていることを以下の 4 点にまとめる。

第 1 に、ファカルティ・ディベロップメントに対する教員のオーナーシップを尊重することである。すなわち、ファカルティ・ディベロップメントへの教員の自発的・積極的参加がファカルティ・ディベロップメントの成功の鍵だということである。

第 2 に、ファカルティ・ディベロッパーの役割として、促進者 (facilitator) や情報提供者 (resource finder) という言葉が使われていることが興味深い。ファカルティ・ディベロッパーは教育の達人でもカリスマ的指導者というわけではない。ファカルティ・ディベロッパーが教員の教育活動を改善するのではない。教員自身が教育改善を改善するのである。教員が自らの問題に気づき、改善できる環境を整備し、提供するのが、ファカルティ・ディベロッパーや教育支援センターに求められる役割である。

第 3 に、ファカルティ・ディベロップメントの実施にあたって、ファカルティ・ディベロップメントを担当するセンターとその他の部局との協働が重視されている。具体的には、情報関係のセンター、語学センター、研究支援センター、附属図書館などの部局がある。教員個人の教育改善を図るために、教育支援センターを越えた組織的な支援体制が整備されることによって、大学規模の教育支援体制の整備が目指されている。また、個々の大学内の支援にとどまらず、他大学との協働、POD Network による支援など、より広い範囲で教育支援体制の整備が目指されていることがうかがえる。

第 4 に、ファカルティ・ディベロッパーには大学や教員の多様なニーズに応じたプログラムの実施が求められている。そのためには、さまざまな支援のネットワークを活用する必要がある。本書は、この多様性に応えようとするファカルティ・ディベロッパーのための情報源である。本書は、関連する多様な情報源も紹介しているために、より広い情報源にアクセスするための情報の窓口となっている。

FD 文献紹介5

Jerry G. Gaff, Anne S. Pruitt-Logan, Richard A. Weibl,
and Participants in the Preparing Future Faculty Program 著

『大学教授職への要請とその構築—大学間の連携と協働—

—Building the Faculty We Need: Colleges and Universities Working Together』
(Association of American Colleges and Universities &
The Council of Graduate Schools, 2000 年, 86 頁)

福留 東士*

1. 本書の特徴と選定意図

本書は、米国で 1993 年から開始された大学教授職準備プログラム (Preparing Future Faculty Program, 以下 PFF と略記) の概要と特徴をまとめたものである。PFF は大学教員になることを志す大学院生を主たる対象に、大学教員に求められる心構えや能力などを組織的・体系的に身に付ける機会の提供を目的に開設された全米レベルのプログラムである。本書の発行元でもある AAC&U (Association of American Colleges and Universities) と CGS (The Council of Graduate Schools) とが全国レベルの実施組織となり、Pew Charitable Trusts や NSF (National Science Foundation) 他 の資金援助を受けて開始され、すでに 10 年以上にわたる取り組みが続けられている。

米国では大学院生によるティーチング・アシスタント (TA) の役割や位置づけがわが国とはかなり異なる。米国では、TA が教壇に立って講義を行うし、その担う責任も大きい。博士課程を持つ大学の多くは、学内の教授・学習等のセンターや各デパートメント単位で TA の研修プログラムを持ち、TA はそれを受けた上で教壇に立つのが一般的である。本書が紹介する PFF プログラムは、各大学の TA 養成プログラムの取り組みに基盤を置いているが、それらを体系化するとともに、大学間の組織化を図ることによって、将来の大学教員を養成するという取り組みに対してさらなる広がりや新たな視点を与える重要な試みであるといえる¹⁾。

2. 本書の構成

本書の構成は以下の通りである。

第 1 章 PFF に対する新たなビジョン

* 一橋大学 大学教育研究開発センター講師

これまでに何をしてきたのか？今後いかにそれを超えていくか？
基本的な理念
全国的プログラムとしての PFF：第1 フェーズ（1993 年～1996 年）
PFF クラスターの構造
PFF：第2 フェーズ（1997 年～2000 年）
自然科学・数学分野の PFF：第3 フェーズ（1998 年～2001 年）
人文・社会科学分野の PFF：第4 フェーズ（1999 年～2002 年）
その他の PFF プログラム

第2章 PFF の主要3要素

クラスター：大学間の新たなパートナーシップ
 クラスターの構成
 運営委員会
 クラスターの活動
メンタリングの新たなかたち
大学教員の果たす中核的な役割
 研究者養成大学で
 パートナー機関で
 PFF に対する大学教員の見解

第3章 学生たちの経験

大学院生たちの声
大学院生に対する調査結果
大学教員市場と卒業生による報告
さらなる包括的な取り組みに向けた需要の喚起
プログラム参加に伴う課題

第4章 将来的な課題の検討

PFF の継続
 クラスターの継続
 博士課程プログラムへの PFF の統合
 PFF を大学内へ浸透させる
 大学での実践の変革
 財政的支援の提供
さらに包括的であるために
 大学教員の多様化
 多様な学生を教育する能力の育成
「大学教員になることの文化」を変革する
 PFF を他大学へ広める
 専門職としての規範への尊厳を高める
 大学界の姿勢と実践を変革する
 優れた準備を受けた教員に対する需要を喚起する
 PFF 卒業生を国の資源にする
 全米オフィスを維持する

第5章 結論と今後求められる活動

組織変革の戦略としての PFF
求められる大学教授職に関する見解
今後求められる活動

3. 本書の概要

3.1 第1章:PFF の基本理念とこれまでの活動

はじめに、PFF プログラムの背景と基本理念、これまでの活動に関する概要がまとめられている。基本理念は以下のようなものである。教育能力の養成の重要性を主張することは、研究活動の重要度を減じるものとして捉えられがちである。しかし、PFF が目指すのは、研究に代わって教育の比重を高めるようなことではなく、専門職としての大学教授職の定義自体を拡大することにある。そこでは、研究能力が最も根本的な資質として求められ、それに加えて、教育とサービスに関する能力を身に付けることが重要であるというものである。従来のように研究能力のみに重きを置く大学教授職像は19世紀のドイツ大学に起源を持つものであるが、いまや21世紀型の教授職像が次第に明確になりつつある。それは、より広範で包括的な学術活動の担い手としての教授職であり、そのような理念と時代的要請に即した大学教員の養成が図られなければならないというのである。

博士課程の教育では、研究者、教育者、大学やデパートメントに貢献する者という3つの側面を満たすかたちで大学教員の養成が捉えられなければならない。例えばTA制度は、単に教員の科目負担を埋め合わせるための存在ではなく、現代の大学教員に求められる能力をより本質的に習得するための機会として、計画性を持って提供されるべきである。

しかし、上のような認識は、現在の博士課程での教育に十分に反映されているとはいえず、そのアウトプットである Ph. D. 取得者を雇用する大学との間にミスマッチが生じている。大学教員の養成は通常、博士課程を保持する研究大学の内部で完結する活動となっているが、研究大学の外にも将来の大学教員が学ぶべき素材は豊富に存在している。PFF の活動の基盤をなす理念は、大学間のパートナーシップと連携・協力 (cooperation) であり、これらの理念は第2章で詳細に論じられるクラスター制度とメンター制度の考え方に象徴されている。

PFF プログラムのこれまでの活動を簡単にまとめておく。PFF は1993年にPew Charitable Trustsによる資金援助を元に開始された。現在までに次頁の表にまとめるような4つのフェーズを経てきている。

第1フェーズではプログラムの理解の共有とクラスターの基盤固めが行われた。クラスターとは、研究者養成機能を有する研究大学を中核として、総合大学、リベラルアーツカレッジ、コミュニティカレッジなどの多様な高等教育機関によって構成され、プログラムの活動にとって基本的な単位となるものである。第2フェーズでは、各クラスターにおけるPFFプログラムの充実と第1フェーズの経験に基づくプログラムの拡張・普及が図られた。第3フェーズ、第4フェーズでは、専門分野に特化した、より具体的なプログラムの展開が図られており、そこでの特徴は、各分野の専門学協会とパートナーシップを取り結んでいることである²⁾。

表 PFF プログラムの活動フェーズ

時期区分	目的	資金提供者	PFF への参加
1993-1997 年	モデルとなるプログラムの構築	Pew Charitable Trusts	17 クラスター
1997-2000 年	プログラムの制度化と普及	Pew Charitable Trusts	15 クラスター
1998-2000 年	自然科学と数学分野でのモデル・プログラムの開発	National Science Foundation	20 のデパートメントとクラスター
1999-2002 年	人文・社会科学分野でのモデル・プログラムの開発	民間資金による	24 のデパートメントとクラスター

出所) 本書 11 頁より作成。

3. 2 第2章:PFF の主要3要素

第2章では、PFF プログラムの3つの特徴的な要素が取り上げられ、解説されている。3つの要素とは、クラスター制度、大学院生へのメンタリング制度、そして大学教員がPFFに果たす役割である。

すでに述べたPFFにおけるクラスターとは、多くの場合、地理的に近接する研究大学と多様な高等教育機関とがパートナーシップを結ぶことで構成される、プログラムの活動の中心をなす単位のことである。研究大学に属する大学院生がパートナー機関を訪れ、フォーマル、インフォーマルの両方を含めたさまざまな活動に触れ、また自ら参加することによって、各機関タイプの特徴を体感し、自らの志向性とのマッチングを図るのである。各クラスターはそれぞれの事情や要請に応じ、最も合理的なプログラムのあり方を模索する。そのため、PFF プログラムはクラスターの数だけその形態が存在し、典型的な姿を描くことは難しい。しかし、以下のようなかたちで共通の特徴がいくつかみられる。研究大学は大学教育等に関する科目やフォーラムの機会を提供し、大学院生が各種能力を磨く手助けをする。研究大学内のデパートメントはその分野の教育に特化した科目を提供するとともに、各分野独自の教員のあり方を説き、より具体的なレベルでの教育経験を積むことを支援する。一方、パートナーとなった機関は、大学院生と一緒に活動する助言者(メンター)を割り当てる。大学院生は自身の大学に研究上のアドバイザーがいるわけだが、他機関のメンターは研究以外の活動を含め、一般的な助言と教育に当たるとともに、当該機関やその機関が属する大学群の特質を学生が理解するための手助けを行う。

通常、大学は機関ごとにさまざまな資源を巡る競争関係に置かれている。この競争関係を前提とすると、機関を超えて持続的なパートナーシップを取り結ぶのは困難であるようにも思える。また、タイプの異なる機関の間では文化的な相違も大きい。しかし、機関間のパートナーシップはPFFの独自性の中核をなす。相互の理解を深め、共同体としての信頼と尊敬を徐々に構築するプロセスがプログラムの成功には不可欠であった。同時にそこには、研究大学とそれ以外の高等教育機関の双方が、PFFの発展によって同時に利益を得ることができるという構造が存在することも重要である。パートナー機関の要請を反映したプログラムを構築し、それに基づく資質や能力を大学院生らが身に付けることによって、彼らは希望する職場を得る確実性を高めることができるようになり、それは研究大学にとっての利益につながる。そして、パートナー機関にとっては、自身の役割をよく理解し、それにマッチした教員を獲得する可能性が高まるのである。また、このパートナーシップをできるだけスムーズに持続させるため、各クラスターには運営委員会が設けられている。

いまひとつ、PFFの特質の中核をなすのがメンター制度である。大学院生はコースワークなど、フォーマルなプログラムを求めているが、彼らの多くがより強く求めているのは、さまざまな問題について語

り合うことのできる、教育経験の豊富な教員との結びつきである。自分の属する大学内部の特定の利害関係から離れることで、率直にさまざまなことを相談できるというメリットもある。研究上のアドバイザーと大学院生との関係はえてしてヒエラルキカルなものになりがちだが、このメンター制度ではむしろ同僚的な関係が成立しやすい。また、もうひとつの重要な点は、大学院生に助言することを通じてメンター自身もさまざまなことを学ぶことができるということである。パートナー機関のメンターらはほとんどが、大学院生と触れ合うことを楽しみ、かつ自らの刺激にもなっていると考えている。

以上の中核的な2つの特質をうまく機能させるには、プログラムをどのような組織立てによって構成し、持続的な活動に高めていくかという点で工夫が求められる。研究大学の内部でのイニシアティブを取るのが中央組織なのか、デパートメントなのか、教授・学習等のセンターなのかなどの学内的な調整の課題、パートナー機関との連携の形態など、プログラムごとの個性を反映して方法は様々ではない。

3. 3 第3章:学生たちの経験

第3章では、PFF プログラムに参加した学生・卒業生の見解や調査結果を中心に、PFF プログラムに対する評価について述べられている。これらの見解や調査結果はPFF の活動に対してきわめてポジティブである。多くの学生・卒業生が、PFF が大学教授職の役割や他機関の現状について具体的に学ぶ貴重な機会となり、就職先を得る際にも大きな効果を発揮したと述べている。もっともプログラムへの参加当初からプログラムの価値を理解できるわけではないし、プログラムの意義について疑念を持つ学生や大学教員も一部存在する。だが、多くの学生は、プログラムへのコミットが深まる中でその意義を認識し、修了生らが大学教員市場で優位な立場に立っているのを見て、教員側の疑念も払拭されるようになるという。プログラムへのコミットメントは時間と労力を要するものであり、博士論文の完成を重要な課題としている大学院生にとってそれをこなすのは容易ではない。しかし、プログラム提供側もさまざまな工夫を凝らすことにより、ほとんどの学生はプログラムへの参加が Ph. D. に至る時間を伸ばすことにはならなかったと答えている。また、一部の学生は、プログラムへの参加によって、学位を獲得し就職することへのモチベーションが高まり、かえって学位に至る時間が短くなったと答えている。

もうひとつ注目すべきはPFF オフィスの行った調査結果の中で、大学院生らがどのような機関に就職したいかという質問に対して回答した内容である。回答者の45%がリベラルアーツカレッジを選び、研究大学と答えた者は21%に過ぎなかった。研究大学の教員は、大学院生は研究大学への就職を希望し、またそれが彼らに最もふさわしいキャリアであると考える傾向が強いが、PFF の展開によって、そのような通説に対する新たな見解が生まれてきている。

3. 4 第4章:将来的な課題の検討

以上みてきたように、PFF プログラムは大きな発展を遂げ、また成果を挙げてきた。しかし、依然として本質的な課題が残されてもいる。第4章では、PFF の将来的な課題が大きく3点にわたって述べられている。1点目は、PFF をいかにして持続的な活動に高めていくかという課題である。これについては、クラスターの維持、PFF の博士課程プログラムへの統合、PFF を特定のデパートメントを超えて学内に広く普及させること、機関レベルの実践を変えていくこと、財政的支援の提供などが課題として挙げられている。

2点目はPFF の包括性を高めることである。ここでは特に、人種の問題に触れられており、大学教員の地位が人種的に平等なものであり、また多様化の進む学生層を適切に教育する上で、教員の人種的・民族的な多様性を高めること、また学生の多様性に対する教員の理解を深める必要性が述べられている。

3点目の課題は、大学教員をいかに養成するかという点に関する「文化」を変革することである。そのための戦略として、PFF を多くの高等教育機関に広めること、大学教授職を専門職として捉えその規範に対する尊厳を高めていくこと、大学界全体に及ぶ姿勢や実践を変革していくこと、優れた資質・能力を身に付けた教員に対する市場の需要を喚起すること、PFF の修了者を国の資源と捉え生かしてゆくこと、そして、資金援助が終了した後でも PFF のための全国的なオフィスを何らかのかたちで維持していくことの必要性が述べられている。

3.5 第5章:結論と今後求められる活動

第5章は、以上に述べてきたことを踏まえた結論部分に当たる。まず、学術振興や研究者養成に携わる諸団体において、近年、博士課程教育の変革の必要性が広範に論じられていることが紹介されている。その上で、PFF が研究・教育・サービスという諸活動間の統合を目指す包括的な性格を持つものであること、また今後、大学教員は専門分野のみに帰属意識を持つのではなく、従事する高等教育機関の視点を重視する必要があるということが述べられており、PFF がこれらの主張を実践するための取り組みであることが改めて強調されている。

4. インプリケーション

以上にみてきた PFF の取り組みは、わが国の今後の同様の取り組みに対して非常に大きな示唆を与えてくれるように思われる。わが国でもここ10年ほど、大学院生をティーチングアシスタント (TA) として雇用し、彼らが大学教育に携わる機会を持つことを支援する動きが拡大している。しかし、現在までのところ、TA の多くは教員の授業運営の補助的業務 (教材の作成補助、レポート・試験の採点補助など) のみに従事する場合が多い。TA 制度拡大のいまひとつの目的は大学院生の経済面の支援にあり、この点では、(十分とはいえないものの) ある程度の効果を挙げていると思われる。しかし、大学院生が大学教員となる準備を行うという観点からみると、各大学における現在の TA 制度の運用は十分なものとはいえない。多くの場合、場当たりの運用が中心であり、大学院生の能力育成という観点からこの制度が位置づけられることはほとんどなかった。しかし、それでは、単に大学院生を教壇に立たせる機会を設ければよいのかというと、必ずしもそうではない。教員でもなく、何の準備も行っていない者を教壇に立たせるというのは、学生に対して責任ある教育を行うという本来あるべき大学の姿勢に反するし、そのような機会が、大学で教える上で何が必要なのかを認識するきっかけにはなっても、それを習得する機会とはいえないからである。

しかし、考えてみると、このことは TA 制度の運用という点のみに限られた話ではない。大学教員は「教育者」としての訓練を受けない場合が通常であるし、「研究者」としての資質や可能性を認められて大学に雇用され、体系的な準備も受けないまま教壇に立ち、学生たちを目の前にしてはじめて自分が「教育者」として存在していることに気が付く。かりに「教育者」としての使命を大学教員が負っていることを強く認識していた場合でも、教員になる前に、学生に対して講義を行い、教室内外で学生と接することがどういうものであるかを体感できる機会は少ないし、やはり就職してから試行錯誤をはじめ、ほぼ我流で、徐々に自分なりのペースとスタイルをつかんでいくのが通常である。

もちろんどんな職業であっても、就職後に現場での実践を積むことによって職能形成が図られていくのは通常のことである。しかし同時に、就職前に、例えば大学教員の役割として何が求められるのかを知っておくことは、大学院生から教員への移行をよりスムーズに行わせるものとなるだろう。また、大学教授

職としての使命を負うことがどのようなことを意味するのかについて具体的に考えてみることは、その職業を目指す自分自身の将来を相対化する上で良い機会となるはずである。大学院生が増加している現在、本当に職業としての大学教員が自分に適したものなのかどうかを再考する機会も必要であろう。

さらに、PFF は、個別大学の内部にとどまらず、全国にわたる多様な高等教育機関の間の連携と協働の上に成り立っているという点がきわめて示唆的である。わが国においても、現在は大学多様化の時代である。多くの大学院生は伝統的な大学のあり方が支配的な研究大学で研究者としての訓練を受ける。しかし、大学の個性や特色の多様化が進む現代、大学への就職を自分の個性と大学の個性とのマッチングとして捉える視点をもっと普及してもよいかもしれない。そのためには、どのようなタイプの大学がどのような特色を持ち、どのような取り組みを行っているのかを知ると同時に、それらに照らしながら自分自身の好みや特性がどのような大学にフィットしているのかを考える機会があってもよい。しかし、従来から大学は、研究大学を頂点とする偏差値ランクの序列型ピラミッド構造の中でしか捉えられず、外からはそれ以上の特徴は見えにくいのが一般的である。しかし、少し目を凝らしてみれば、さまざまな大学で大学教育の発展に対して真剣な取り組みが種々行われていることに気が付く。

これらは、大学教員としてのキャリアをスタートさせたばかりの筆者の、まさに「実感」に属する問題意識であった。本書を通してみた PFF プログラムでは、すでにかなり具体的なレベルの活動が組織的・体系的に実践されており、これらの問題意識に対して貴重な視点を与えてくれている。

【注】

- 1) PFF についてはすでに日本でも紹介がなされている。和賀崇「アメリカの大学における大学教員準備プログラム—ファカルティ・ディベロップメントとの関連に注目して—」『大学教育学会誌』第 25 巻第 2 号、2003 年、83-89 頁。
- 2) 第 3、第 4 フェーズにおける取り組みに関しては、それぞれ以下の文献が出版されている。Anne S. Pruitt-Logan, Jerry G. Gaff, and Joyce E. Jentoft, *Preparing Future Faculty in the Sciences and Mathematics: A Guide for Change*, Council of Graduate Schools & The Association of American Colleges and Universities. 2002; Jerry G. Gaff, Anne S. Pruitt-Logan, Leslie B. Sims and Daniel D. Denecke, *Preparing Future Faculty in the Humanities and Social Sciences: A Guide for Change*, Council of Graduate Schools & The Association of American Colleges and Universities. 2003.

FD 文献紹介6

John A. Centra 著

『省察重視の教育評価－教育力を高め、教育効果を検証する

—Reflective Faculty Evaluation: Enhancing Teaching and Determining Faculty Effectiveness』
(San Francisco: Jossey-Bass Publishers, 1993 年)

吉永 契一郎*

1. 著者のプロフィール

著者の John A. Centra は、ETS (Educational Testing Service) に17年間勤務した後、シラキュース大学教育学部において高等教育講座の主任教授を長く務めた。現在は、名誉教授である。彼の研究活動は、教育評価・FD・教授法・学生調査など多岐にわたる。本書は、*Determining Faculty Effectiveness* (1980) の続編であり、すでに日本のFD研究においても盛んに引用がなされている。

2. 本書の構成

Preface (序文)

1. The Role of Evaluation in Developing Teaching Effectiveness
(教育効果を高めるための評価)
2. Approaches to Teaching and Implications for Evaluation
(多様な教授法と評価への示唆)
3. Student Evaluations of Teaching: What Research Tells Us
(授業評価について研究結果)
4. Using Student Evaluations: Guidelines and Benefits
(授業評価を使うためのガイドラインとその効果)
5. Teachers' Self-Reports and Portfolios
(教員の自己評価とポートフォリオ)
6. Critical Roles of Colleagues and Department Chairs
(同僚と学科長の役割)
7. Determining Effectiveness in Research and Service
(研究と行政に対する評価)
8. Legal Considerations in Faculty Evaluation

*東京農工大学大学教育センター助教授

(教員評価に関わる法的問題)

9. Closing Reflections on Determining Faculty Effectiveness (教員評価再考)

Resource A: Available Student Rating Instrument (授業評価のサンプル)

Resource B: Sample Forms for Classroom Observation and Colleague Evaluation
(授業観察のための評価書)

References (参考文献)

各章の終わりには、Summary (まとめ) がついているので、これを読むだけで、本書の全貌はつかめる。

3. 本書の内容の概要

(序文)

- ・教育評価には、教育改善のための評価 (formative evaluation) と査定のための評価 (summative evaluation) の二種類がある。そして、いずれの評価においても、大切なのは、その結果が、教員自身のより深い省察(Reflection)へとつながることである。この点において、短期的な視点や評価項目に表れる成果ばかりを強調することは、授業改善につながらない(pp. xiv-xv)。

(第1章)

教育と研究のバランス

- ・教育・研究・行政のうち、研究以外は学問ではないとされるが、ボイヤーが述べるように、他の二つも学問となり得る(p. 2)。
- ・教育重視を唱える大学の姿勢にも関わらず、多くの教員が研究を重視するのは、教員評価において、研究の占める割合が相変わらず高いことによる(pp. 3-4)。
- ・Formative evaluation を別の目的に使うことは、協力者を消極的にさせる。しかしながら、現実的には、時期を分けて summative evaluation のためにも使わざるを得ない(pp. 5-6)。
- ・何を評価するか、どのように評価するかは大きな問題である。相対評価およびそれに基づいた査定は教員の意欲を低下させることが多い(p. 7)。
- ・教育改善のためのモデル(pp. 9-15)
授業評価の受容+検討+改善+意欲=最大の効果
教員は、内面的な価値観で動機付けられるものであり、外面的な褒章によってではない。
- ・TA トレーニング(pp. 15-18)。

(第2章)

教授法の歴史と形態

- ・講義形式の授業には欠陥や批判が多いものの、未だに支配的な授業形態である(pp. 21-24)。
- ・Chickering と Gamson(1987)による主体的な学習のための優れた事例(pp. 24-25)
具体的で現実生活に即した設定を与えること
シミュレーションやロール・プレイや実験を行うこと
調査や個人研究を行わせること
学生の成果を授業で発表させること

- ・学習目的に応じた授業形態(pp. 26-28)。
- ・講義形式での工夫(pp. 28-29)。
- ・共同学習と個別学習システム(pp. 29-33)。
- ・教員自身によって問題行動とされる項目の因子分析結果(pp. 35-36)。
 道徳心の欠如
 恣意的な成績評価
 マナーの欠如
 無計画な授業
- ・ある大学と心理学における教育ガイドライン(pp. 36-37)。
- ・教育は科学であると同時に職人芸でもある。技術の適用には、職人芸が必要とされる(pp. 37-38)。
- ・よい授業の特徴
 Lowman(1984)によると、効果的な授業には、知的な側面と人間的な触れ合いの側面があるとしている。
 効果的な授業は、教員、学生、分野、レベルによって異なる(pp. 40-41)。
- ・著者自身の定義「効果的な授業とは、適切な手順によって、学生自身に有意義な学習を行わせることである(p. 42)。」
- ・三つの学習理論(pp. 43-45)
 行動主義(ドリル型)
 認知主義(思考型)
 主体主義(意味追求型)

(第3章)

授業評価の歴史とすでに得られている知見

- ・授業形態が講義形式であるために、授業評価も講義形式を前提として作られたものが多い(pp. 47-48)。
- ・授業評価の本格化は1960年代(p. 50)。
- ・Cohen(1951)によると、授業評価と学生の学習成果との相関関係は0.45である(p. 51)。
- ・Feldman(1976, 1984)による授業評価項目の分類(pp. 54-56)。
- ・著者自身(1979)による授業評価項目の分類(p. 57)
 1. 授業構成・計画
 2. 学生と教員の接触
 3. 明確さ・コミュニケーション
 4. 学習量・難易度
 5. 成績・試験・宿題
 6. 学生の学習・自己評価
- ・信頼度が90%を超えるには、最低25名の学生が必要(p. 58)。
- ・同じ科目の教員による差は大きく、同じ教員の科目による差も大きい(p. 59)。
- ・「多くの学生をある時、だますことはでき、少しの学生を常にだますこともできる。
 しかし、すべての学生を常にだますことはできない(p. 60)」
- ・授業評価と学生の成果の相関関係は、0.5程度であり、授業の難易度はほとんど関係がない(p. 61)。
- ・学生による授業評価は、専門家による評価とも一致する(p. 63)。

- ・学生による授業評価は、卒業生による評価とも一致する(p. 64)。
- ・授業評価を左右する要因(pp. 66-78)。
 - クラスサイズ・科目・必修/選択・授業が行われる時間・難易度・学生の種類・教員の個性・教員の地位・研究力・甘い成績評価・姓・人種・魅力・評価の方法
 これらの要因の中で、科学系の科目は評価が低いこと、よい授業とよい人間性は重なる部分もあるが、同じではないこと、教育力と研究力の相関は0.12であること、必ずしも成績評価の甘い教員がよい評価を得るわけではないこと、授業評価はかなりの程度、教員の熱意に反応することなどがあげられる。

(第4章)

授業評価の活用

- ・カリフォルニア大学では、78%の教員が授業評価に基づいて教育改善を行っている(p. 81)。
- ・中間授業評価を行うと、そうでない場合に比較して、13%、期末授業評価が向上した(p. 83)。
- ・パークレーにおける退職教授メンター制度(p. 84)。
- ・自由記述は、教員のコミュニケーション力に言及したものが多(p. 85)。
- ・「ワン・ミニット・ペーパー(p. 86)」
 - 学んだことと疑問に思うこと
- ・テニュア審査は、相変わらず研究業績中心であるが、授業評価の結果は、年次昇給に使われている(p. 89)。
- ・授業評価のガイドライン(pp. 89-93)
 1. 学生も教員もその目的を、予め知らされること
 2. 教育評価を授業評価のみに依存しないこと
 3. 教育評価は、複数の科目の授業評価に基づくこと
 4. 十分な数の学生を確保すること
 5. 科目の特性を考慮に入れること
 6. 比較のデータを用いること
 7. 小さな差異を誇張しないこと
 8. 昇進や昇格審査に当たっては、総合的な項目を使うこと
 9. 診断目的に活用すること
 10. 実施形式を確立すること
 11. 教員が授業評価に対して応答すること
 12. 形式主義に陥らない

(第5章)

教育の自己評価

- ・教員は自らの教育成果を過大評価しがちである(p. 95)。
- ・教員の年次計画書(pp. 97-98)
- ・ティーチング・ポートフォリオによる教育評価(pp. 99-110)
- ・授業分析(pp. 111-113)

(第6章)

同僚や学科長の役割

- ・教員は、申請書や論文について、同僚の意見を求めることはあっても、授業について相談することは稀である(p. 116)。
- ・同僚による評価は、授業観察のみによるものではない(p. 117)。
- ・Cohen と Mckeachie (1980)による、同僚評価項目 (p. 118)
 1. 授業内容の熟知度
 2. 授業内容の選択
 3. コースの組み立て方
 4. コースの目的
 5. 教材の適切性
 6. 評価方法
 7. 教授方法
 8. 熱意
 9. 学生の成果
 10. 学科への協力
- ・学生と同僚による評価の相関は0.55である。同僚による評価は、研究については正確であるが、教育やサービスについてはそれほどではない(p. 119)。
- ・Root (1987)によれば、同僚による評価は三人で十分である (p. 120)。
- ・Formative Colleague Evaluations (pp. 121-128)
メンター制度・教員ペア・大学院生による評価・同僚による学生に対する聞き取り・異分野の同僚からの評価・学科長による面接
- ・Summative Colleague Evaluations (pp. 128-133)
テニユア審査のための教育評価委員会・評価書による同僚評価
- ・まとめ (pp. 133-134)
同僚による評価の重要性・授業観察外の評価の重要性・教育改善のための協力関係・適切な分野からの人選・省察につながる評価

(第7章)

教授職の再定義

- ・大学の種別によるテニユア審査項目 (p. 137)
- ・論文数と引用数の相関は0.72である。ただし、引用数に依存した評価には問題も多い(p. 138)。
- ・Feldman (1987)によると、研究力と教育力の相関は、0.12である (p. 141)。
- ・独創的な研究と優れた研究成果を統合する能力は異なる (p. 143)。
- ・論文数は分野によって異なり、さらに教員の年代によっても異なる (pp. 143-145)。
- ・Merton (1973)による科学の規範 (p. 146)
 1. 公開性
 2. 利他性
 3. 懐疑性
 4. 普遍性
- ・ボイヤー(1990)は、論文数以外に学問的業績を評価する必要性を提唱した (pp. 147-151)。
The Scholarship of Discovery

The Scholarship of Integration

既存の研究成果の整理

The Scholarship of Application

理論と実践の融合

The Scholarship of Teaching

教員の理解と学生の学習をつなぐ営み

- ・ボイヤーが述べる具体例 (pp. 153-154)

Integration

教科書・教材・カリキュラム開発

Application

コンサルティング・技術支援・政策評価

Teaching

教育評価のためには、自己評価・学生による授業評価・同僚による評価が必要

- ・ボイヤーの提言 (p. 154)
 1. 学部生に研究活動を行わせること
 2. 研究成果を教育に反映すること
 3. 卒業研究の推奨
 4. 研究と教育の統合
- ・社会貢献の評価項目 (p. 156)

(第8章)

評価をめぐる法的問題

- ・アドミニストレーターは法律家と相談すること (p. 160)。
- ・雇用契約・憲法上の権利・差別・守秘義務 (pp. 161-171)。
- ・評価をめぐる注意事項 (pp. 171-172)
 - 大学の方針明確にすること
 - 評価活動に教員自身も関わること
 - 大学は、契約や規定に則った行動を取ること
 - 評価は正確かつ率直に行うこと
 - 人事に関わる事項は、職務に関することにとどめ、差別をしない
 - あらゆる決定は、教員の具体的な行為に基づく
 - 評価に対する教員の意見も聞く
 - 評価の手続きを開示する
 - 評価は分野によって異なる
 - 教授法について多様性を認める
 - できるだけ裁判は避ける

(第9章)

評価における学生の視点

- ・教授法と学生の学習について決定的な相関はない (p. 173)。

- ・ Bressler の忠告(p. 175)
問題は、「いかに優れた授業をするか」ではない。
- ・ 「すべての効果が測定できるわけではなく、測定できることすべてに効果があるわけではない」
(p. 176)

資料

- ・ 授業評価の書式(pp. 179-204)
- ・ 授業観察・同僚評価の書式(pp. 205-216)

参考文献(pp. 217-235)

4. 本書に関する紹介者の感想

すでに出版から10年以上が経っている本書であるが、教育評価に対する基本的な姿勢については今でも十分に色あせない内容を持つ。むしろ、その内容は、授業評価や教員評価について、一面的な理解のまま、実施のみが急速に広がりを見せた日本の大学にとって、授業評価の「思想」に目を向けることの必要性を訴えている。特に、授業評価に対する今でも見られる、「学生の評価は信頼できるか」などという疑問に対して、これまでの研究成果を丁寧に整理している。

FDの専門家として、著者があくまで重視するのは、教員の自発的な改善意欲である。そして、教授法と学習成果の複雑さを念頭に置いた上で、授業評価や同僚評価を対話の材料にすることを提唱している。そのため、相対的な褒章システムなど協調関係を崩すような制度には批判的であり、真に教育上の問題を抱えた教員に対しては、専門家の手助けを得るように勧めている。

また、著者は、アメリカの大学が研究至上主義に支配されている実情については、歴史的に見れば、ある種の流行であり、ボイヤーに依拠して、学問の定義を広げること、教育活動を研究活動同様、創造的で高度に知的な作業であるとしていることも参考になる。

本書には、日本の大学と異なるアメリカの大学の事情が垣間見える。まずは、人事や教員評価、査定において絶大な権限を持つ学科長の存在し、年間プランに沿って、各教員の活動が掌握されているという事実である。アメリカで、教育支援センターのような場が、教員に対するカウンセリングの場となっているのは、このように、教育上の弱点を意識化させるような学科長との面談があるからであり、希望者のみが、大人数のFDに参加する日本の大学とは大きく事情が異なる。

また、アメリカにおいては、大学類型がはっきりしており、短大やリベラル・アーツ・カレッジなど、比較的研究業績にとらわれずに、教育業績を評価できる大学が存在していることも本書からうかがえる。この点は、明らかに教育中心であると思われる日本の大学においても、研究業績のみを尊重する傾向とは対照的である。

さらに、授業評価や教員評価については、特に、テニユア審査との関連で、訴訟が起こっていることが報告されているが、これは、日本が他山の石とすべきものである。訴訟社会アメリカにおいても、裁判の際には、教員、大学の双方が傷つくとされ、当事者が十分ルールに合意した上での評価の大切さが理解できる。

さて、本書以降の進展についても触れておきたい。著者の予想以上に、教育支援センターの設立は、アメリカでも近年相次いでおり、何らかの組織が、大学や学部を設置されている。そして、テニユア審査に

における教育業績の比重も徐々に上がってきており、ポスト・テニユア・レビューにおいては、教育力のない教員の解雇も見られる。

また、ウェブ・サイトやメールを使った教育活動は、爆発的な広がりを見せており、教育の双方向性・公開性を加速している。本書の段階では、教育改善活動は、あくまで教員個人が主体であるとの印象を与えるが、MITにおける物理教育プログラム＝TEAL (<http://icampus.mit.edu/projects/TEAL.shtml>)などは、教材のライブラリー化を推進しており、これまで教員個人のノウハウに依存していた授業から、組織的な教育活動へと変化しようとしている。

最後に、教育活動にとって、最も影響の大きい問題に触れておきたい。それは、大学の財政悪化に伴うテニユア権のない教育専任型教員の増加である。教育に限らず、大学教員の雇用の軽量化・厳選化はあらゆる部分で進んでおり、今後も長期的な検証が必要とされる場所である。

【参考文献】

相原総一郎、「アメリカ高等教育におけるテニユアと契約大学教員」、『大学論集』、第34集、2003年、77-92頁。

Boyer, E. L., *Scholarship Reconsidered: Priorities of the Professoriate*. Lawrenceville, N.J.: Princeton University Press, 1990.

E. L. ボイヤー（有本章訳）、『大学教授職の使命：スカラーシップ再考』、玉川大学出版部、1996年。

Finkelstein, Martin, Robert K. Seal, Jack H. Schuster, *The New Academic Generation: A Profession in Transition*, Baltimore and London: The Johns Hopkins University Press, 1998.

第 二 部

ファカルティ・ディベロップメント に関する文献目録

凡 例

(1) 本書は、伊藤彰浩編『ファカルティ・デベロップメントに関する文献目録および主要文献紹介』広島大学大学教育研究センター、1990年、の続編である。

(2) 収録した文献は、1990年以降のファカルティ・ディベロップメントに関連した和文・英文の図書、雑誌論文、各種報告書、などである。

和文文献は、著書は『国立国会図書館蔵書検索システム』(<http://opac.ndl.go.jp/Process>)中の「書誌一般検索」を、論文は「雑誌記事索引検索」を用いて、大学教育の改善および大学教授職に関する文献を検索した。

また、英文文献は、洋書に関しては国立情報学研究所の総合目録データベース『NACSIS Webcat』(<http://webcat.nii.ac.jp/webcat.html>)を、論文に関しては、米国の教育省が支援して構築されている『ERIC(the Education Resources Information Center) Database』(<http://www.eric.ed.gov/>)を用いて、Faculty Development に関する文献 (FD, SD, Staff Development, Professional Development を含む) を検索した。

なお、和文著書に関しては2003年刊行分まで、和文論文に関しては2005年刊行分まで、英文著書に関しては2002年刊行分まで、英文論文に関しては2005年刊行分までを対象とした。

(3) 各文献の記載は、単行図書類 (各種報告書、パンフレットを含む) に関しては、著者名、文献名、発行地 (英文文献のみ)、発行所・発行年、頁数の順とし、雑誌論文に関しては、著者名、文献名、掲載雑誌名、巻号、発行年・掲載頁の順とした。また、文献の配列は、まず、和書、和雑誌、洋書、洋雑誌の順に大きく分類し、その中を、発行年順に配列した。同年発行の文献は著者のアイウエオ順 (英文文献はアルファベット順) とした。

本文献目録の編集は大膳 司が主に担当した。なお、文献データの収集や分類方法等に関して、共同研究プロジェクトのメンバーおよび大学教育研究センター資料室のライブラリアンから様々の協力を得た。記して感謝したい。

【和 文 著 書】

- 有本章 大学教育の改善に関する調査研究 広島大学大学教育研究センター 1990年。
- 有本章 諸外国のFD/SDに関する比較研究 広島大学大学教育研究センター 1991年。
- 関 正夫 大学教育改革の方法に関する研究 広島大学大学教育研究センター 1990年。
- 山野井敦徳 大学教授の移動研究—学閥支配の選抜・配分のメカニズム 東信堂 1990年。
- 和光大学「大学入門期教育の実践的研究」グループ 大学の授業研究のために あゆみ出版 1990年。
- 麻生 誠 日本の学歴エリート 玉川大学出版部 1991年。
- 井門富二夫 大学のカリキュラムと学際化 玉川大学出版部 1991年。
- 桜井 邦朋 大学教授 地人書館 1991年。
- 名古屋大学教育学部 大学の授業方法・授業形態の改善と充実 名古屋大学教育学部 1991年。
- 日本科学者会議大学問題委員会 大学教育の創造をめざして 日本科学者会議大学問題委員会 1991年。
- 日本体育学会体育原理専門分科会 大学教育改革と保健体育の未来像 不昧堂出版 1991年。
- 鷺田 小弥太 大学教授になる方法 青弓社 1991年。
- L. エルトン (香取草之助訳) 高等教育における教授活動—評定と訓練 東海大学出版会 1992年。
- 荻谷 剛彦 アメリカの大学・ニッポンの大学 玉川大学出版部 1992年。
- 新堀 通也 私語研究序説—現代教育への警鐘 玉川大学出版部 1992年。
- C. J. サイクス[他] 大学教授調査 化学同人 1993年。
- 浅野 誠 大学の授業を変える 16章 大月書店 1994年。
- 有本章 大学評価と大学教授職 広島大学大学教育研究センター 1993年。
- 海野 力 私大教授 近代文芸社 1993年。
- 金子 元久 卒業生からみた広島大学の教育 広島大学大学教育研究センター 1994年。
- 名越 智博 FD 活用ハンドブック ナツメ社 1993年。
- 立命館大学教育科学研究所 大学教育改革の視点と展望 立命館大学教育科学研究所 1993年。
- 和光学園実践シリーズ出版委員会 大学教育の新しい展開を目指して 星林社 1993年。
- 有本章編 「学問中心地」の研究—世界と日本にみる学問的生産性とその条件 東信堂 1994年。
- 川又 淳司 大学の授業研究 水曜社 1994年。
- 田中 慎也 どこへ行く?大学の外国語教育 三修社 1994年。
- 林義樹 学生参画授業論—人間らしい「学びの場づくり」の理論と方法 学文社 1994年。
- B. G. デイビス他 (香取草之助監訳) 授業をどうする!—カリフォルニア大学パークレー校の授業改善のためのアイデア集 東海大学出版会 1995年。
- 有本章 学部教育とカリキュラムの改革 広島大学大学教育研究センター 1995年。
- ウィルガ・M. リヴァーズ[他] 変革期の大学外国語教育 桐原書店 1995年。
- 香取草之助監訳 授業をどうする!カリフォルニア大学パークレー校の授業改善のためのアイデア集 東海大学出版会 1995年。
- 絹川 正吉 大学教育の本質 ユーリーグ 1995年。
- 関 正夫 日本の大学教育の現状と課題 広島大学大学教育研究センター 1995年。
- 大学の理工系分野における創造的人材の育成のための産学懇談会 創造的人材育成のための大学教育の改善についての緊急提言 文部省高等教育局

- 1995年。
- 竹内 洋 卒業生からみた京都大学の教育 広島大学大学教育研究センター 1995年。
- 広島大学大学教育研究センター 大学教授職の現在 広島大学大学教育研究センター 1995年。
- 森田 保男, 大槻博 実践的の大学教授法 PHP 研究所 1995年。
- 山崎 博敏 大学の学問研究の社会学ー日本の大学間および大学内の分業を中心に 東洋館出版社 1995年。
- E. L. ボイヤー (有本章訳) 大学教授職の使命ーカラーシッピング再考 玉川大学出版部 1996年。
- E. L. ボイヤー[他] アメリカの大学・カレッジ 玉川大学出版部 1996年。
- W. B. カーノカン (丹治めぐみ訳) カリキュラム論争ーアメリカ一般教育の歴史 玉川大学出版部 1996年。
- 荒井 克弘 大学のリメディアル教育 広島大学大学教育研究センター 1996年。
- 有本 章&山崎博敏 学部教育の改革と学生生活 広島大学大学教育研究センター 1996年。
- 有本 章&江原 武一編 大学教授職の国際比較 玉川大学出版部 1996年。
- 池井望・西川富雄 大学生・教授の生態ー現代学生かたぎと教授の生態 雄渾社 1996年。
- 川成 洋編 だけど教授は辞めたくない ジャパンタイムズ 1996年。
- 川成 洋編 だから教授は辞められないー大学教授解体新書 ジャパンタイムズ 1995年。
- 島根大学自己評価等委員会, 島根大学教養教育運営委員会 学生アンケート調査からみた島根大学における大学教育の現状と課題 島根大学 1996年。
- 塚原 修一&小林 信一 日本の研究者養成 玉川大学出版部 1996年。
- 島飼 玖美子, 進藤久美子 大学英語教育の改革 三修社 1996年。
- 長崎大学自己評価総括委員会 大学教育改善への工夫と努力 長崎大学 1996年。
- 長崎大学自己評価総括委員会 より良い授業への試み 長崎大学 1996年。
- 浪田 克之介, 栗原豪彦 大学英語教育の現状と展望 北海道大学言語文化部 1996年。
- 立命館大学教育科学研究所 大学の教育自己評価と教授能力開発に関する基礎的研究 立命館大学教育科学研究所 1996年。
- 琉球大学自己評価委員会 琉球大学における教育の現状と改革の取組み 琉球大学 1996年。
- 和光大学授業研究会 語りあい見せあい大学授業 大月書店 1996年。
- P. ブルデュー (石崎暗己・東松秀雄訳) ホモ・アカデミクス 藤原書店 1997年。
- 赤堀 侃司 ケースブック大学授業の技法 有斐閣 1997年。
- 天野 郁夫 大学に教育革命を 有信堂高文社 1997年。
- 有本 章 学生像と授業改革 広島大学大学教育研究センター 1997年。
- 一般教育学会 大学教育研究の課題 玉川大学出版部 1997年。
- 河合 靖 北海道大学外国語教育の現状と課題 北海道大学言語文化部 1997年。
- 京都大学高等教育教授システム開発センター 開かれた大学授業をめざして 玉川大学出版部 1997年。
- 高等教育研究会編 大学教員の任期制と高等教育の将来構想 ぎょうせい 1997年。
- 清水 畏三, 井門富二夫 大学カリキュラムの再編成 玉川大学出版部 1997年。
- 諏訪 部真, 望月昭彦, 白畑知彦 英語の授業実践 大修館書店 1997年。
- 大学英語教育学会九州・沖縄支部研究プロジェクトチーム このままでよいか大学英語教育 松柏社 1997年。
- 館昭 大学改革ー日本とアメリカ 玉川大学出版部 1997年。
- 広島大学大学教育研究センター 大学教育と高校教

- 育 広島大学大学教育研究センター 1997年。
- 藤井 かよ 大学「象牙の塔」の虚像と実像 丸善 1997年。
- S. G. クランツ[他] 大学授業の心得 玉川大学出版部 1998年。
- 有本 章 教養的教育からみた学部教育改革 広島大学大学教育研究センター 1998年。
- 経済学教育学会 大学の授業をつくる 青木書店 1998年。
- 経済教育学会 大学の授業をつくる一発想と技法 経済学教育学会 1998年。
- 神立 春樹 大学の授業 大学教育出版 1998年。
- 寺崎 昌男 大学の自己変革とオートノミー一点検から創造へ 東信堂 1998年。
- 別府 昭郎 ドイツにおける大学教授の誕生—職階制の成立を中心に (明治大学人文科学研究所叢書) 創文社 1998年。
- 皆村 武一, 采女博文 教育改革の方向と大学教育 高城書房 1998年。
- 安川 寿之輔 大学教育の革新と実践 新評論 1998年。
- 琉球大学自己評価委員会 琉球大学における教育活動の現状と問題点 琉球大学 1998年。
- B. R. クラーク (潮木守一監訳) 大学院教育の研究 東信堂 1999年。
- S. ロスブラット (吉田文・杉谷裕美子訳) 教養教育の系譜 玉川大学出版部 1999年。
- 伊藤 秀子 ガイドブック大学授業の改善 有斐閣 1999年。
- 岩崎 哲郎 大学における授業の改善をめざして—教職科目「生活科教材研究」の実践 東北大学出版会 1999年。
- 宇佐 美寛 大学の授業 東信堂 1999年。
- 静岡大学農学部自己評価委員会 教官側から見た教育の実態と学生アンケートによる学生生活の評価 静岡大学農学部 1999年。
- 大学セミナー・ハウス企画室 教える授業から学ぶ授業へ、その2 大学セミナー・ハウス 1999年。
- 大学セミナー・ハウス 大学力を創る:FDハンドブック 東信堂 1999年。
- 大字セミナー・ハウス編 大学力を創る・FDハンドブック 東信堂 1999年。
- 竹内 洋 学歴貴族の栄光と挫折 (日本の近代化12) 中央公論社 1999年。
- 寺崎 昌男 大学教育の創造 東信堂 1999年。
- 西川 純 実証的教育研究の技法 大学教育出版 1999年。
- 西堀 ゆり 外国語教育におけるマルチメディア活用 北海道大学言語文化部 1999年。
- 日本私立大学連盟 大学の教育・授業をどうする 東海大学出版会 1999年。
- 日本私立大学連盟 大学の教育・授業の変革と創造 東海大学出版会 1999年。
- 北海道大学高等教育機能開発総合センター点検評価委員会 より良き高等教育を求めて 北海道大学高等教育機能開発総合センター 1999年。
- 安岡 高志他 授業を変えれば大学は変わる プレジデント社 1999年。
- 山田 雄一郎 新英語教育講義 広島修道大学総合研究所 1999年。
- 立命館大学教育科学研究所 外国語教育におけるFD研究 立命館大学教育科学研究所 1999年。
- P. J. パーマー[他] 大学教師の自己改善 玉川大学出版部 2000年。
- 岩田 年浩 教授が変われば大学は変わる 毎日新聞社 2000年。
- 梶田 叡一他 新しい大学教育を創る 有斐閣 2000年。
- 群馬県立女子大学自己点検・評価運営委員会 学生による授業評価の試み 群馬県立女子大学 2000年。
- 中島 恒雄 二十一世紀の大学教育改革 ミネルヴァ書房 2000年。
- 森信 茂樹 大学教授物語—ニューアカデミズムの

- 創造を 時評社 2000年。
- 山形大学教養教育研究委員会 教養教育の改善と大学教育 山形大学教養教育研究委員会 2000年。
- 山野井 敦徳 大学教員の公募制に関する研究 広島大学大学教育研究センター 2000年。
- 和歌山大学自己点検・評価委員会 より良き大学教育を求めて 和歌山大学 2000年。
- B. D. シャクリー (田中耕治監訳) ポートフォリオをデザインするー教育評価への新しい挑戦 ミネルヴァ書房 2001年。
- D. W. ジョンソン, R. T. ジョンソン, K. A. スミス [他] 学生参加型の大学授業 玉川大学出版部 2001年。
- 池田輝政二戸田山和久・近田政博・中井俊樹 成長するティップス先生・授業デザインのための秘訣集 玉川大学出版部 2001年。
- 京都大学工学部新工学教育プログラム実施検討委員会 ディベート形式による工学部FDシンポジウム 京都大学高等教育教授システム開発センター 2001年。
- 京都大学高等教育教授システム開発センター 大学授業のフィールドワーク 玉川大学出版部 2001年。
- 小林 道夫 ITと教育 御茶の水書房 2001年。
- 島田 博司 大学授業の生態誌 玉川大学出版部 2001年。
- 清水 一彦 大学教育の再生をめざす 紫峰図書 2001年。
- 全カリの記録編集委員会 立教大学〈全カリ〉のすべて 東信堂 2001年。
- 大東文化大学学生による授業評価実施委員会 学生による授業評価と大学教育. 2000年度 大東文化大学 2001年。
- 竹内 洋 大学という病ー東大紛争と教授群像 中央公論新社 2001年。
- 東京学芸大学出版会設立準備会「これからの教育と大学」制作委員会 これからの教育と大学 東京学芸大学出版会 2001年。
- 鳥取大学評価委員会 大学教育の現状と課題 鳥取大学 2001年。
- 日本私立大学連盟研修企画委員会 大学の教育・授業の未来像 東海大学出版会 2001年。
- 渡辺 利雄 英語を学ぶ大学生と教える教師に 研究社 2001年。
- B. G. デイビス (香取草之助監訳 光澤舜明・安岡高志・吉川政夫訳) 授業の道具箱 東海大学出版会 2002年。
- B. R. クラーク (有本章監訳) 大学院教育の国際比較 玉川大学出版部 2002年。
- 浅野 誠 授業のワザー挙公開 大月書店 2002年。
- 井下 千以子 高等教育における文章表現教育に関する研究 風間書房 2002年。
- 井上 和幸, 河村正彦 イギリスの紳士教育と新大学の教育組織 徳山大学総合経済研究所 2002年。
- 大阪大学全学共通教育機構教育方法研究委員会・研修専門委員会 大学教育を問う 大阪大学全学共通教育機構 2002年。
- 大庭 宣尊 成人の生涯学習ニーズと高等教育機関の交差可能性 広島修道大学総合研究所 2002年。
- 岡部 光明 大学生の条件大学教授の条件ー慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスから 慶應義塾大学出版会 2002年。
- 小原 芳明 ICTを活用した大学授業 玉川大学出版部 2002年。
- 絹川 正吉 ICUリベラルアーツのすべて 東信堂 2002年。
- 教授方法調査研究会 わかりやすい講義をめざして 富士書店 2002年。
- 京都大学高等教育教授システム開発センター 大学授業研究の構想 東信堂 2002年。
- 桜井 邦朋 続々大学教授 地人書館 2002年。
- 島田 博司 私語への教育指導 玉川大学出版部 2002年。
- 島田 博司 メール私語の登場 玉川大学出版部 2002年。
- 寺崎昌男&絹川正吉監修 立教大学〈全カリ〉のすべて:ノベラル・アーツの再構築 東信堂 2002年。

寺崎 昌男 大学教育の可能性 東信堂 2002年。

波多野 進 大衆社会における大学教育 晃洋書房
2002年。

林義樹 学生参画授業論-人間らしい「まなび」と「く
らし」の探求 学文社 2002年。

三尾 忠男, 吉田文 FD(ファカルティ・ディベロップ
メント)が大学教育を変える 文葉社 2002年。

峯石 緑 大学英語教育における教授手段としての
ポートフォリオに関する研究 溪水社 2002年。

有本 章 大学のカリキュラム改革 玉川大学出版
部 2003年。

岩居 弘樹 大阪大学における CALL とドイツ語教育
大阪大学言語文化部 2003年。

小川 秀樹編 学術研究者になるには-人文・社会科
学系 ベリカン社 2003年。

京都大学高等教育研究開発推進センター 大学教育
学 培風館 2003年。

高等教育情報センター編 教員評価制度の導入と大
学の活性化-授業評価から業績評価・FDへの展開
地域科学研究会 2003年。

山地 和也&佐賀 啓男 高等教育と IT-授業改善へ
のメディア活用とFD 玉川大学出版部 2003年。

鈴木 佑治 英語教育のグランド・デザイン 慶應義
塾大学出版会 2003年。

早田 幸政 大学・カレッジ教育評価実例ハンドブッ
ク エイデル研究所 2003年。

廣川 和市 21世紀における大学教育 沖縄国際大
学公開講座委員会 2003年。

吉田 文 アメリカ高等教育における2ラーニング-
日本への教訓 東京電気大学出版局 2003年。

ラリー・キーン, マイケル・D・ワガナー[他] 大学
教員「教育評価」ハンドブック 玉川大学出版部
2003年。

【和 文 論 文】

- 矢延 洋泰 教育改革の試み—大学の枠を超えたゼミ
(どうする大学教育<特集>) 経社 430 1990年
35~38頁。
- 岡屋 昭雄 総合科目からのメッセージ(大学教育改革
-1<特集>) 香川大学一般教育研究 40 1991年
91~117頁。
- 小山 修 一般教育と専門教育—札幌大学教養課程
カリキュラム改革を中心に(大学審答申と大学改革—どう
対応するか<特集>) 日本の科学者 26 12
1991年 718~724頁。
- 香川大学一般教育部大学教育研究室;稲田道彦 一
般教育等の授業実態に関するアンケート調査(大学教育
改革-1<特集>) 香川大学一般教育研究 40
1991年 119~153頁。
- 木原 溥幸[他] 一般教育集中コース制カリキュラムについて
(大学教育改革-1<特集>) 香川大学一般教育研
究 40 1991年 15~47頁。
- 木村 学[他] 一般教育授業改善への提案—討論を
通じての「総合」—一般教育総合科目での試み(大
学教育改革-1<特集>) 香川大学一般教育研究
40 1991年 49~74頁。
- 式部 久 これからの学部教育の在り方—大学設置
基準改正とのかわり方で(動きはじめた大学改革<
特集>) 文部時報 1380 1991年 26~29頁。
- 高橋 明郎 初修外国語としての中国語教育—本学
[香川大学]の現状と問題(大学教育改革-1<特集
>) 香川大学一般教育研究 40 1991年 75~90
頁。
- 日本科学者会議名古屋大学工学部班 大学の教育研
究条件の現状と改革—名古屋大学工学部の場合
(大学審答申と大学改革—どう対応するか<特集>)
日本の科学者 26 12 1991年 731~736頁。
- 藤原 章司 他 “Faculty Development”と体育-3-大
学体育の新しい試み 香川大学一般教育研究 通
号 39) 1991年。
- 堀地 武 一般教育制度「生殺し」の問題—大学審議
会答申に関する今後の課題のひとつとして(大学
教育改革-1<特集>) 香川大学一般教育研究 40
1991年 3~14頁。
- 吉田 寛治 情報化に対応した短期大学教育(動きは
じめた大学改革<特集>—事例紹介) 文部時報
1380 1991年 41~43頁。
- 氏家 良博 大学改革と一般教育の必要性—理科を
例として 日本の科学者 27 9 1992年 542~
547頁。
- 岡村 甫 改革の進む工学系大学院—東京大学工学
系研究科(工学系大学院における教育研究の進展<
特集>—事例紹介) 大学と学生 336 1993年
22~25頁。
- 早田 幸政 大学のカリキュラムと教育の理念・目的(大学
の今日的状況と改革のゆくえ(今日の焦点)) 季
刊教育法 92 1993年 129~134頁。
- 渡辺 英夫 大学におけるフランス語教育—現状と改革
の方策 香川大学一般教育研究 43 1993年 1
~16頁。
- 井下 理 学生参加による教育改革の事例研究—「学
生による授業調査」と「キャンパスライフ満足度調査」を通
して(大学改革の社会学<特集>) 教育社会学研究
55 1994年 37~54頁。
- 川上 博 自己点検・評価に基づく教育活動の改善—
徳島大学工学部の事例(大学教育の改善<特集>—
事例紹介) 大学と学生 349 1994年 11~16頁。
- 高野 二郎 カリキュラム改革へ向けて—カリキュラム開発とシ
バス及び授業評価—東海大学(大学改革の進展<特
集>—事例紹介) 文部時報 1414 1994年 32~
35頁。
- 示村 悦二郎 大学教育の改善のために(大学教育の
改善<特集>) 大学と学生 349 1994年 5~10
頁。
- 須田 力 FD(Faculty Development)への取り組み-4-
大学体育で教える体力 体育の科学 44 12
1994年 1023~1026頁。
- 田坂 興亜 明日の大学教育をめざして—ICUのバ
ル・アーツ教育(大学教育の改善<特集>—事例紹介)
大学と学生 349 1994年 32~36頁。
- 徳山 郁夫 FD(Faculty Development)への取り組み
-2-普遍教育としての「スポーツ・健康科学」—
知の見直し 体育の科学 44(10) 1994年。
- 西村 淳;本間重雄 教育改革に対する姿勢と学生に

- 提供するサービス・シブスの作成と新任教員説明会の実施—群馬大学(大学改革の進展<特集>—事例紹介) 文部時報 1414 1994年 28~31頁。
- 橋本 義雄 入学者の多様化に対応した教育方法の改善—豊田工業大学の事例(大学教育の改善<特集>—事例紹介) 大学と学生 349 1994年 27~31頁。
- 百鬼 史訓 FD(Faculty Development)への取り組み—3-本学[東京農工大学]保健体育科目のカリキュラム改革とFDへの取り組み—剣道授業のFDへの取り組み 体育の科学 44 11 1994年 929~933頁。
- 松岡 信之 FD(Faculty Development)への取り組み—1-大学体育とFD 体育の科学 44 9 1994年 767~771頁。
- 吉原 正彦 特色あるカリキュラム—開学2年目の夏を迎えて—青森公立大学の事例(大学教育の改善<特集>—事例紹介) 大学と学生 349 1994年 22~26頁。
- Joseph Katz 著 ; Mildred Henry 著 ; 加沢 恒雄 訳 解説 ファカルティ・ディベロップメントと学生の学習指導のための質問調査アプローチ 広島工業大学研究紀要 通号 29) 1995年。
- 浅野 誠 大学教師の授業改善の発展段階—広瀬信実践によせて(教育実践の創造) 教育 45 7 1995年 69~71頁。
- 石川 英一 教育改革の理念と教育改革の進め方、行ってきたこと—群馬大学の場合(大学改革の進展<特集>) 大学と学生 360 1995年 10~14頁。
- 大室 律子 看護学教育の改革に向けて—大学・短期大学に適用される指定規則の在り方(まとめ)の解説を中心に(看護等医療技術教育<特集>) 大学と学生 364 1995年 27~31頁。
- 高木 文夫 香川大学におけるドイツ語教育の改革の方向について—私的メモ 香川大学一般教育研究特集号 1995年 95~107頁。
- 国分 進; 小島栄樹 FDの管理データを素材としたC言語とアセンブリ言語の学習プログラム(教員養成 特集・教員の研修—北海道教育大学函館校 1995年5月13日(土)) 日本教育工学会研究報告集(日本教育工学会編) 1995年 35~40頁。
- 佐賀 啓男 ; 山本 銀次 ; 安岡 高志 他 高等教育におけるファカルティ・ディベロップメントと教授デザイン: 事例研究とFD活動の状況調査 研究報告(メディア教育開発センター) 通号 85) 1995年。
- 鈴木 博 メディアと大学教育改革—1-東京大学における英語教育カリキュラムの改革とメディア 教育メディア研究(日本視聴覚・放送教育学会編集委員会編) 2 1 1995年 62~64頁。
- 津田 惟雄 教育改革と4年一貫教育のカリキュラム(大学改革の進展<特集>—事例紹介) 大学と学生 360 1995年 19~21頁。
- 星野 英紀 教育方法改善に向けた取り組み—大正大学のばあい(大学改革の進展<特集>—事例紹介) 大学と学生 360 1995年 26~28頁。
- 堀地 武 大学教育改革の評価と大学の組織原理(一般教育から教養教育へ—その展望と課題<特集>) 香川大学一般教育研究 特集号 1995年 1~25頁。
- 前島 康男 大学改革の課題と大学教育実践—授業観の転換を 日本の科学者 30 7 1995年 369~373頁。
- 森田 敏照 教養部改組を契機とした新しい教養教育の充実—大阪大学全学共通教育について(大学改革の進展<特集>—事例紹介) 大学と学生 360 1995年 22~25頁。
- 山極 隆 高等学校と大学との接続(高校教育改革の推進<特集>) 大学と学生 365 1995年 13~16頁。
- 米沢 和彦 単位互換制度の積極的活用と地域の大学教育の活性化—熊本地区の場合(大学改革の進展<特集>—事例紹介) 大学と学生 360 1995年 32~34頁。
- 相磯 秀夫 教育改革—慶応義塾大学・湘南藤沢キャンパスにおける試行(教育—創造性豊かな人材を育てる)(いかに描くか魅力ある日本<特集>—GRAND DESIGN for JAPAN in the 21st Century) Keidanren(経済団体連合会編) 44 1 1996年 61~63頁。
- 浅野 誠 <大学改革と大学教育>大学「生き残り」と大学教育実践の創造; ERR 教育(教育科学研究会編) 46 13 1996年 97~105頁。
- 有本章 FDの構造と機能に関する専門分野の視点 大学論集 通号 26) 1996年。
- 石川 英一 群馬大学における教養教育改革(教養教育改革—各大学の取組) 大学資料(文部省大学学術局) 129・130 1996年 1~17頁。

- 井下 理 大学改革と教育環境監査—「SFC キャンパス・アメニティ・モラル」調査」から(今月のテーマ 学生からみた大学改革—最近の調査から) IDE(民主教育協会編) 379 1996年 8～13頁。
- 石原 静子 <シリーズ・大学改革と大学教育>大学授業の改革; ERR 教育(教育科学研究会編) 46 9 1996年 86～96頁。
- 慈道 裕治 立命館大学における教養教育改革(教養教育改革—各大学の取組) 大学資料(文部省大学学術局) 129・130 1996年 144～152頁。
- 伊藤 秀子;三尾忠男;藤田恵璽[他] 大学の授業改善-2-調査・分析研究と実践報告<中間報告2>『教授学習過程の映像化による大学の授業改善の研究』研究報告(文部省国立大学共同利用機関放送教育開発センター編) 93 1996年 1～4, 1～169頁。
- 梅宮 新田 私の教授方法とその改善—教養選択科目「講座:女性学」における教授法改善の試み(高等教育におけるファカルティ・ディベロップメントと教授デザイン—事例研究とFD活動の状況調査-2-) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号 94) 1996年。
- 大阪大学総務課 大阪大学全学共通教育(教養教育改革—各大学の取組) 大学資料(文部省大学学術局) 129・130 1996年 48～74頁。
- 大山 紀美栄 教授法改善のためのメディア利用(高等教育におけるファカルティ・ディベロップメントと教授デザイン—事例研究とFD活動の状況調査-2-) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号 94) 1996年。
- 加沢 恒雄 大学における英語教育改善の試み—“ESP”理論の研究と教材開発(高等教育におけるファカルティ・ディベロップメントと教授デザイン—事例研究とFD活動の状況調査-2-) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号 94) 1996年。
- 梶田 叡一 新・学びと育ちの現場(フィールド)-5-大学における教員研修(FD) 総合教育技術(小学館) 51 10 1996年 88～91頁。
- 喜多村 和之;吉本圭一;伊藤彰浩[他] 大学教育の内容・方法の改善・評価に関する研究—大学教育改革の現状と課題 大学教育改革の事例報告 付属資料等 研究報告(文部省国立大学共同利用機関放送教育開発センター編) 90 1996年 1～235頁。
- 絹川 正吉 国際基督教大学におけるリベラル・アーツ教育(教養教育改革—各大学の取組) 大学資料(文部省大学学術局) 129・130 1996年 103～114頁。
- 木村 秀雄 東京大学教養学部における教養教育(教養教育改革—各大学の取組) 大学資料(文部省大学学術局) 129・130 1996年 18～30頁。
- 金元 哲夫 東京理科大学の教育改革と教養教育(教養教育改革—各大学の取組) 大学資料(文部省大学学術局) 129・130 1996年 133～143頁。
- 高野 二郎 東海大学における教養教育の実施状況(教養教育改革—各大学の取組) 大学資料(文部省大学学術局) 129・130 1996年 115～132頁。
- 佐賀 啓男 教授デザイン研究の発展と主な教授デザイン理論(高等教育におけるファカルティ・ディベロップメントと教授デザイン—事例研究とFD活動の状況調査-2-) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号 94) 1996年。
- 佐賀 啓男 教授デザイン研究の発展と主な教授デザイン理論(高等教育におけるファカルティ・ディベロップメントと教授デザイン—事例研究とFD活動の状況調査-2-) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号 94) 1996年。
- 佐々 加代子 保育者養成短期大学における教授法改善について—必修科目, 言葉の事例から(高等教育におけるファカルティ・ディベロップメントと教授デザイン—事例研究とFD活動の状況調査-2-) 研究報告(文部省国立大学共同利用機関放送教育開発センター編) 94 1996年 63～100頁。
- 佐藤 東洋士 桜美林大学の教養教育への試みと展望(教養教育改革—各大学の取組) 大学資料(文部省大学学術局) 129・130 1996年 95～102頁。
- 小桐 間徳 米国における授業評価—コロンビア大学(大学改革の進捗状況) 大学資料(文部省大学学術局) 131 1996年 56～58頁。
- 武井 敦夫 財務情報教育における教授デザイン及び会計教育に関するFDについて—コンピュータリテラシーの教育を含めて(高等教育におけるファカルティ・ディベロップメントと教授デザイン—事例研究とFD活動の状況調査-2-) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号 94) 1996年。
- 谷沢 明 教授法改善のためのメディア利用と授業の評価調査—愛知淑徳大学「民俗学」においての試み(高等教育におけるファカルティ・ディベロップメントと教授デザイン—事例研究とFD活動の状況調査-2-) 研究報告(文部省国立大学共同利用機関放送教育開発センター編) 94 1996年 121～135頁。
- 寺崎 昌男 <シリーズ・大学改革と大学教育>大学のガキ

- キレム改革を考える；ERR 教育(教育科学研究会編) 46 8 1996年 89～97頁。
- 丹羽 孝 私たちの大学改革とカキレム一試行的経験を総括して(特集・教育改革と学生) 大学と教育(東海高等教育研究所編) 17 1996年 51～61頁。
- 橋本 伸也 大学教育改革と大学における教育評価 京都府立大学学術報告 人文(京都府立大学) 48 1996年 131～152頁。
- 堀田 明男 新カリキュラム編成・運用とシラバス(高等教育におけるファカルティ・ディベロップメントと教授デザイン一事例研究とFD活動の状況調査-2-) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号 94) 1996年。
- 前田 高雄 工学部基礎物理学のFDとしての一つの試み一講義, 演習, 実験の有機的結合について(高等教育におけるファカルティ・ディベロップメントと教授デザイン一事例研究とFD活動の状況調査-2-) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号 94) 1996年。
- 松山 敏剛 シラバスの構成, 作成過程, 実地的な意義, 効果と問題点一佐賀医科大学看護学科における「人間科学」 「男性と女性」の場合(高等教育におけるファカルティ・ディベロップメントと教授デザイン一事例研究とFD活動の状況調査-2-) 研究報告(文部省国立大学共同利用機関放送教育開発センター編) 94 1996年 166～173頁。
- 水谷 惟恭 東京工業大学における全学科目(教養科目)の枠組み, 内容, 実施方法(教養教育改革一各大学の取組) 大学資料(文部省大学学術局) 129・130 1996年 31～47頁。
- 三井 利夫 大学病院と関連教育病院等における医学教育改善のとりくみ一筑波大学における連携医療群(特集/21世紀の命と健康を守る医療人の育成を目指して) 大学と学生(文部省高等教育局学生課編) 376 1996年 43～47頁。
- 宮本 友弘；望月 要 FD ワークショップの実施と評価一1995年度ワークショップ(高等教育におけるファカルティ・ディベロップメントと教授デザイン一事例研究とFD活動の状況調査-2-) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号 94) 1996年。
- 望月 要；芝崎 順司；宮本 友弘 FD セミナー室整備状況と今後の課題一メディア技術とFD(高等教育におけるファカルティ・ディベロップメントと教授デザイン一事例研究とFD活動の状況調査-2-) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号 94) 1996年。
- 森 忠三 私の教育方法の改善一保母をめざす女子大生に対する NANDA の看護診断の講義と学生の反応(高等教育におけるファカルティ・ディベロップメントと教授デザイン一事例研究とFD活動の状況調査-2-) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号 94) 1996年。
- 渡辺 裕 ボランティア企業実習等学外での体験学習を取り入れた授業(特集/大学改革の進捗状況一事例紹介) 大学と学生(文部省高等教育局学生課編) 374 1996年 10～12頁。
- 秋田 宏；小嶋 三男 ファカルティ・ディベロップメントの一環としての授業評価の試み Eos 10(1) 1997年。
- 池田 克巳；市村光；下島孝裕[他] ロールプレイとそのビデオ映像化による自己評価(大学の授業改善-3-教授学習過程の映像化による大学の授業改善の研究) 研究報告(文部省国立大学共同利用機関放送教育開発センター編) 103 1997年 49～64頁。
- 伊藤 秀子 授業実践に関する調査(2)(大学の授業改善-3-教授学習過程の映像化による大学の授業改善の研究) 研究報告(文部省国立大学共同利用機関放送教育開発センター編) 103 1997年 3～19頁。
- 稲田 朝次 福岡地区大学の新课程について([一般教育学会]第 19 大会関係論文一シボジウム 2 大学設置基準「大綱化」以降の大学改革によって一般教育・教養教育はどのように変わったか, 従来の大学教育の問題点を打開していく教養教育の改革ははかられてきたか) 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 19 2 1997年 41～43頁。
- 大隅 紀和 学部学生の自学自習方式によるグループ演習の構成と展開一「教育実践基礎演習」の事例から(大学の授業改善-3-教授学習過程の映像化による大学の授業改善の研究) 研究報告(文部省国立大学共同利用機関放送教育開発センター編) 103 1997年 65～75頁。
- 大隅 紀和 教員養成の教育方法革新(FD)を考慮したグループ演習の構成と展開一「教育実践基礎演習 1」の構成と実施を中心に 京都教育大学紀要 A, 人文・社会通号 90) 1997年。
- 大島 晃 大学改革と大学部の可能性一上智大学の教養教育, 専門教育と研究者養成(今月のテーマ《問われる文学部》) IDE(民主教育協会編) 390 1997年 22～27頁。

小笠原 正明 教養教育における「北大方式」の今後
([一般教育学会]第19大会関係論文—シボジウム2
大学設置基準「大綱化」以降の大学改革によって一
般教育・教養教育はどのように変わったか、従来の
大学教育の問題点を打開していく教養教育の改革
ははかられてきたか) 大学教育学会誌(「大学教
育学会誌」編集委員会編) 19 2 1997年 29～
32頁。

木村 友久 知的財産権教育を支援するマルチメディア教
材について—教材作成及び教材の構造に関する報
告(大学の授業改善—3—教授学習過程の映像化によ
る大学の授業改善の研究) 研究報告(文部省国立
大学共同利用機関放送教育開発センター編) 103
1997年 77～107頁。

日下 和信 大学の授業と授業改善(大学の授業改善
—3—教授学習過程の映像化による大学の授業改善
の研究) 研究報告(文部省国立大学共同利用機関
放送教育開発センター編) 103 1997年 109～117
頁。

国際大学 活用されている学生の授業評価(特集 大
学改革と点検・評価) 文部時報(文部省編) 1450
1997年 35～37頁。

志柿 光浩 ビデオ記録による教授・学習活動のフィード
バックの実際—いかにして授業ビデオの撮影と再生
を手軽に行うか(大学の授業改善—3—教授学習過程
の映像化による大学の授業改善の研究) 研究報
告(文部省国立大学共同利用機関放送教育開発セン
ター編) 103 1997年 119～127頁。

志田 昇 シリーズ・大学改革と大学教育—非常勤講師
からみた任期制の問題点 教育(教育科学研究会
編) 47 6 1997年 92～99頁。

清水 一彦 大学設置基準の変遷と一般教育の展開
(大学の使命—改革・評価の理念—第1部 大学改革
と大学の自治) 季刊教育法(エイデル研究所編)
111 1997年 34～44頁。

菅井 勝雄;前迫孝憲;山内祐平[他] 日常研究活動
の文脈におけるメディアリテシー(研究能力)の育成(大
学の授業改善—3—教授学習過程の映像化による大
学の授業改善の研究) 研究報告(文部省国立大学
共同利用機関放送教育開発センター編) 103 1997
年 29～42頁。

杉浦 宏昌 演習を中心とした時事商業英語授業の
基本的展開方法について(大学の授業改善—3—教授
学習過程の映像化による大学の授業改善の研究)
研究報告(文部省国立大学共同利用機関放送教育
開発センター編) 103 1997年 129～134頁。

杉本 秀彦 カリキュラム改革とシラバス—中央大学理工学部
の場合(シラバス(授業計画)—各大学の取組) 大学
資料(文部省大学学術局) 132・133 1997年 14
～24頁。

高橋 和久 文学部教育についての独り言—東京大
学の改革(今月のテーマ《問われる文学部》) IDE(民
主教育協会編) 390 1997年 32～37頁。

高橋 真司 新しい秩序の形成と大学教育の改革
([一般教育学会]第19大会関係論文—シボジウム1
グローバル化の中の“地域”と大学教育—教養
教育の役割を中心に) 大学教育学会誌(「大学教
育学会誌」編集委員会編) 19 2 1997年 22～
26頁。

滝上 凱令 神戸大学における一般教育の現状と課
題([一般教育学会]第19大会関係論文—シボジウム
2 大学設置基準「大綱化」以降の大学改革によっ
て一般教育・教養教育はどのように変わったか、従
来の大学教育の問題点を打開していく教養教育の改
革ははかられてきたか) 大学教育学会誌(「大学
教育学会誌」編集委員会編) 19 2 1997年 33
～36頁。

土屋 基規 <シリーズ・大学改革と大学教育>神戸大
学の大学改革—発達科学部の発足を中心に; ERR 教
育(教育科学研究会編) 47 1 1997年 101～
110頁。

中村 行秀 <シリーズ・大学改革と大学教育>教養教育
の危機と大学教員の責任; ERR 教育(教育科学研
究会編) 47 3 1997年 99～107頁。

西岡 進 シリーズ・大学改革と大学教育—私立大学の
今日的状況と任期制問題 教育(教育科学研究会
編) 47 7 1997年 100～109頁。

西義 武 社会人一般教育化学におけるビデオ活用法
(大学の授業改善—3—教授学習過程の映像化によ
る大学の授業改善の研究) 研究報告(文部省国立大
学共同利用機関放送教育開発センター編) 103 1997
年 135～141頁。

星野 昭彦 「教育方法・技術」の講義に対する自己点
検(2)(大学の授業改善—3—教授学習過程の映像化
による大学の授業改善の研究) 研究報告(文部省
国立大学共同利用機関放送教育開発センター編) 103
1997年 43～47頁。

湊 小太郎 ハイビジョンと広帯域 ISDN 実験網を用いた
大学医学部間遠隔講義の実践的研究(大学の授業
改善—3—教授学習過程の映像化による大学の授業
改善の研究) 研究報告(文部省国立大学共同利用

- 機関放送教育開発センター編) 103 1997年 143～157頁。
- 館 昭 設置基準「大綱化」以降の大学教育改革—学部教育から学士課程教育へ(「一般教育学会」第19大会関係論文—シンポジウム2 大学設置基準「大綱化」以降の大学改革によって一般教育・教養教育はどのように変わったか、従来の大学教育の問題点を打開していく教養教育の改革ははかられて 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 19 2 1997年 37～40頁。
- 湯本 和子 ノート・テキング 指導による「英語学」の授業改善(大学の授業改善—3-教授学習過程の映像化による大学の授業改善の研究) 研究報告(文部省国立大学共同利用機関放送教育開発センター編) 103 1997年 159～201頁。
- 吉田 雅章 大学生の学習方略の授業間の差異について(大学の授業改善—3-教授学習過程の映像化による大学の授業改善の研究) 研究報告(文部省国立大学共同利用機関放送教育開発センター編) 103 1997年 21～28頁。
- 吉村 良一 「生涯学習」と大学教育—立命館大学における社会人受け入れの経験から(小特集 生涯学習に向けての教育システム改革) 大学時報(日本私立大学連盟) 46 253 1997年 78～83頁。
- 渡瀬 信之 教育改革の中におけるシラバス—東海大学の場合(シラバス(授業計画)—各大学の取組) 大学資料(文部省大学学術局) 132・133 1997年 25～36頁。
- 赤堀 侃司 大学授業改善の特徴と技法の共有化(第2回大会関係論文研究交流部会—2-『学生のための授業開発—いま何が問題か』) 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 20 2 1998年 63～66頁。
- 温井 信正 大学改革の中の非常勤講師問題—大阪電気通信大学にみる教育改革と非常勤講師問題(特集 大学改革の中の非常勤講師問題) 日本の科学者(日本科学者会議編) 33 5 1998年 239～243頁。
- 阿部 博之;清成忠男;野口正一 大学改革の現状と企業に求めること(「特集」企業の求める人材と今後の教育改革) Keidanren(経済団体連合会編) 46 9 1998年 14～17頁。
- 天野 郁夫 講演 大学の教育改革と人材養成(特集 21世紀の大学像と今後の改革方策について) 大学と学生(文部省高等教育局学生課編) 404 1998年 43～63頁。
- 有本章 学問的生産性とFDの関係—大学改革の視座 広島大学大学教育研究センター大学論集(広島大学大学教育研究センター) 29 1998年 1～22頁。
- 石田 博幸 ビデオ分析を主とした大学の授業改善(高等教育におけるメディア活用と教員の教授能力開発—1.内外の事例研究と関連基礎分野レビュー 教員のメディア活用能力を向上させるための研修プログラムの研究開発—第3部 メディアを利用した授業事例と方向性) 研究報告(メディア教育開発センター編) 5 1998年 201～213頁。
- 岩崎 重剛;小谷 多喜雄 第20回大会関係論文 フォーラム授業中の学生のやる気と満足度の調査とその結果を生かすFD活動の試み—MF法を利用した授業評価自動処理システムの活用について 大学教育学会誌 20(2) 1998年。
- 大野 拓行 香川大学経済学部における教員の教育面における自己評価について(特集/大学におけるカリキュラム改革等の進捗状況—事例紹介) 大学と学生(文部省高等教育局学生課編) 396 1998年 22～26頁。
- 櫻井 公人 教育ノウハウ・データベース構築の意義—FDとしての授業評価、シラバスとの関連で(研究部会報告 大学教育研究部会) 大学教育研究所年報 1) 1998年。
- 山地 弘起 大学教員の受難—FDは敵か味方か(高等教育におけるメディア活用と教員の教授能力開発—1.内外の事例研究と関連基礎分野レビュー 教員のメディア活用能力を向上させるための研修プログラムの研究開発—第1部 高等教育とFD(ファルティ) 研究報告(メディア教育開発センター編) 5 1998年 3～10頁。
- 高沢 紀恵 国際基督教大学におけるFD活動(特集/大学におけるカリキュラム改革等の進捗状況—事例紹介) 大学と学生(文部省高等教育局学生課編) 396 1998年 27～30頁。
- 竹内 常一 国学院大学における一般教育と教職教育の改革(特集/教員養成の危機) 教育(教育科学研究会編) 48 5 1998年 21～25頁。
- 立田 ルミ メディア利用による大学の授業改善の研究—ネットワーク、プレゼンテーション・ツールを活用した授業 メディア教育研究(文部省大学共同利用機関メディア教育開発センター編) 1 1998年 143～155頁。
- 田中 郁三 学位授与と機構から見た教育改革への希望(特集/大学におけるカリキュラム改革等の進捗状況) 大学と学生(文部省高等教育局学生課編) 396 1998年 2～5頁。

田中 昌弥 《教員養成の現状と苦悩》国立教員養成系大学「改革」の現状と問題点—北海道教育大学札幌校の場合(特集/教員養成の危機) 教育(教育科学研究会編) 48 5 1998年 6~10頁。

都築 繁幸 Faculty Development 研究と障害学生への配慮—アメリカ・カナダにおける学習障害学生への援助サービスを中心に(高等教育におけるメディア活用と教員の教授能力開発—1.内外の事例研究と関連基礎分野レビュー 教員のメディア活用能力を向上させるための研修プログラムの研究開発)—(第2部 海外におけるメディア活用) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号5) 1998年。

二杉 孝司 「学生による授業評価」とFD活動(1997年度課題研究集会[大学教育の未来像]関係論文—シボジウム1 第8課題研究FD活動の具体的展開) 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 20 1 1998年 21~24頁。

原 一雄 FD活動の今後の研究課題と実践方法(1997年度課題研究集会[大学教育の未来像]関係論文—シボジウム1 第8課題研究FD活動の具体的展開) 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 20 1 1998年 31~36頁。

原 一雄；岡村 二郎 FD談義1:FDとは何か—FDの歴史とメディア利用(高等教育におけるメディア活用と教員の教授能力開発—1.内外の事例研究と関連基礎分野レビュー 教員のメディア活用能力を向上させるための研修プログラムの研究開発)—(第1部 高等教育とFD(ファカルティ・ディベロップメント)) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号5) 1998年。

広瀬 洋子 米国における大学教育とFDの変遷(高等教育におけるメディア活用と教員の教授能力開発—1.内外の事例研究と関連基礎分野レビュー 教員のメディア活用能力を向上させるための研修プログラムの研究開発—第1部 高等教育とFD(ファカルティ・ディベロップメント)) 研究報告(メディア教育開発センター編) 5 1998年 11~23頁。

松岡 信之 FD・個人的取り組みから組織的取り組みへ(1997年度課題研究集会[大学教育の未来像]関係論文—シボジウム1 第8課題研究FD活動の具体的展開) 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 20 1 1998年 25~30頁。

水谷 惟恭 東京工業大学における在学生及び卒業生による授業評価について(特集/大学におけるカリキュラム改革等の進捗状況—事例紹介) 大学と学生(文部省高等教育局学生課編) 396 1998年 31~35頁。

師岡 文男 大学改革の要「ファカルティ・ディベロップメント」—各種大学教育研修会に参加して ソフィア(上智大学) 46 4 1998年 462~469頁。

八代 尚宏 消費者本位の教育サービスへ—経済学から見た教育改革(特集 大学教育の改革と活性化) ソフィア(上智大学) 47 1 1998年 45~59頁。

山本 浩；楠原彰；菅原勉[他] シボジウム 大学の教育を考える(特集 大学教育の改革と活性化) ソフィア(上智大学) 47 1 1998年 3~44頁。

吉田 雅章 遠隔学習の萌芽と教師の役割(高等教育におけるメディア活用と教員の教授能力開発—1.内外の事例研究と関連基礎分野レビュー 教員のメディア活用能力を向上させるための研修プログラムの研究開発—第3部 メディアを利用した授業事例と方向性) 研究報告(メディア教育開発センター編) 5 1998年 161~178頁。

渡邊 光雄；吉田 雅己；山地 弘起 他 FD談義2:教員の職能とFDのあり方(高等教育におけるメディア活用と教員の教授能力開発—1.内外の事例研究と関連基礎分野レビュー 教員のメディア活用能力を向上させるための研修プログラムの研究開発)—(第1部 高等教育とFD(ファカルティ・ディベロップメント)) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号5) 1998年。

Hans Karle International Standards in Medical Education and Faculty Development (PaPaSME'99 Proceedings) — (Special Lecture) 医学教育 30(4) (通号178) 1999年。

John D. Hamilton Faculty Development—An Imperative for Medical Education (PaPaSME'99 Proceedings) — (Panel Discussion(1)) 医学教育 30(4) (通号178) 1999年。

Kelley M. Skeff The Improvement of Teaching:A Faculty Development Challenge (PaPaSME'99 Proceedings) — (Panel Discussion(1)) 医学教育 30(4) (通号178) 1999年。

LuAnn Wilkerson ; David M. Irby Strategies for Improving Teaching Practices:A Comprehensive Approach to Faculty Development (PaPaSME'99 Proceedings) — (Keynote Address(1)) 医学教育 30(4) (通号178) 1999年。

Ricardo R. Santi ; Manuel M. Sibulo Faculty Development—Present Status and Future Directions(The DLSU and Philippine Perspectives) (PaPaSME'99 Proceedings) —

- (Panel Discussion(2)) 医学教育 30(4) (通号 178) 1999年。
- 阿部 和厚 北海道大学からみた日本の大学改革の動向と課題(メディアを利用した高等教育のコスト効果に関する研究—平成9年度・10年度研究成果報告—平成10年度成果報告) 研究報告(メディア教育開発センター編) 11 1999年 283~291頁。
- 阿部 和厚 北海道大学におけるFD—教育機関としての戦略(FDの課題と展望—FD—大学での取り組み) IDE(民主教育協会編) 412 1999年 23~29頁。
- 有本章 ファカルティ・ディベロップメントの歴史と展望(FDの課題と展望) IDE 通号 412) 1999年。
- 池上 徹彦 大学教育改革と企業人教員(今月のテーマ 社会人教員—社会人教員と大学) IDE(民主教育協会編) 411 1999年 49~54頁。
- 石垣 雅也 第16分科会報告 青年—その「模索」と「挑戦」—大学生の学び(子どもの現実から、私たちの教育実践・教育改革を—第38回教育科学研究会全国大会報告) 教育(教育科学研究会編) 49 12 1999年 113~117頁。
- 井下 理 ファカルティ・ディベロップメントの課題(FDの課題と展望) IDE 通号 412) 1999年。
- 石村 雅雄 京都大学におけるFD実践およびFD研究(FDの課題と展望—FD—大学での取り組み) IDE(民主教育協会編) 412 1999年 36~41頁。
- 伊勢井 敏子 英語音声学の授業とメディアの活用について(大学授業の自己改善法—1997年度授業改善の実践報告) 研究報告(メディア教育開発センター編) 7 1999年 9~14頁。
- 稲垣 忠彦 基調講演「大学授業をどう変えるか—研究から実践へ」(第5回大学教育改革フォーラム 大学授業をどう変えるか—研究から実践へ—Faculty Developmentを超えて) 京都大学高等教育研究(京都大学高等教育教授システム開発センター編) 5 1999年 115~121頁。
- 梅宮 新偉 栄養士養成コースにおける情報活用能力育成の試み(大学授業の自己改善法—1997年度授業改善の実践報告) 研究報告(メディア教育開発センター編) 7 1999年 139~160頁。
- 江崎 陽一郎 教育大学の改革をめぐって、今徹底されなければならないこと 大学と学生(文部省高等教育局学生課編) 409 1999年 2~5頁。
- 大塚 雄作 研修シリーズ「大学授業の自己改善法」の今後(大学授業の自己改善法—1997年度授業改善の実践報告) 研究報告(メディア教育開発センター編) 7 1999年 220~225頁。
- 大塚 雄作;三尾忠男 毎回授業評価調査の試みとその活用法(大学授業の自己改善法—1997年度授業改善の実践報告) 研究報告(メディア教育開発センター編) 7 1999年 181~188頁。
- 大野木 裕明 自ら学習目標を設定し評価する授業の試み—心理学的な観察法に関連する科目について(大学授業の自己改善法—1997年度授業改善の実践報告) 研究報告(メディア教育開発センター編) 7 1999年 73~79頁。
- 大山 泰宏 問題提起「相互行為分析の観点から」(第5回大学教育改革フォーラム 大学授業をどう変えるか—研究から実践へ—Faculty Developmentを超えて) 京都大学高等教育研究(京都大学高等教育教授システム開発センター編) 5 1999年 139~145頁。
- 小笠原 正明;阿部和厚;石川健三[他] 「大学入試改革の研究会」報告—高校と大学の教育をどう接続するか 高等教育ジャーナル(北海道大学高等教育機能開発総合センター編) 6 1999年 113~125頁。
- 織田 揮準 学生からのフィードバック情報を取り入れた授業実践(大学授業の自己改善法—1997年度授業改善の実践報告—1997年度研修『大学授業の自己改善法』 合同説明会講演記録より[含 質疑応答]) 研究報告(メディア教育開発センター編) 7 1999年 207~219頁。
- 加藤 幸次 FD—大学における授業改善 ソフィア 47(4) (通号 188) 1999年。
- 鎌田 弘 「学生の自己効力感の向上」を目標とした授業改善方略の試み(大学授業の自己改善法—1997年度授業改善の実践報告) 研究報告(メディア教育開発センター編) 7 1999年 15~27頁。
- カ、ウリアム よりよい教育をめざして—セメスター制、成績評価の方法等について(特集 大学におけるカリキュラム改革等について) 大学と学生(文部省高等教育局学生課編) 407 1999年 6~12頁。
- 川嶋 太津夫 大学教員の倫理とファカルティ・ディベロップメント—大学教育への意味と意義(特集 大学教育の倫理) 社会と倫理 通号 7) 1999年。
- 川本 哲郎 大学コンソーシアム京都のFD事業(FDの課題と展望—FD—団体・機関での活動) IDE(民主教育協会編) 412 1999年 61~66頁。

- 岸浪 建史；阿部 和厚；植木 迪子 他 学部教育改善とファカルティー・ディベロップメント 高等教育ジャーナル 通号 5) 1999 年。
- 絹川 正吉 大学教員評価システム([大学教育学会]第21回大会関係論文シンポジウム(1)FD等の課題及びファカルティーの活動の在り方—大学設置基準の努力義務規定等との関わり) 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 21 2 1999年 21～25頁。
- 楠原 彰 日本私立大学連盟のFDワークショップ(FDの課題と展望—FD—団体・機関での活動) IDE(民主教育協会編) 412 1999年 41～45頁。
- 小出 秀文 日本私立大学協会のFD活動(FDの課題と展望—FD—団体・機関での活動) IDE(民主教育協会編) 412 1999年 45～50頁。
- 佐賀 啓男 メディア教育開発センターのFD事業(FDの課題と展望) — (FD—団体・機関での活動) IDE 通号 412) 1999年。
- 山村 嘉己 大学における語学教育([1998年度課題研究集会]セッション(4)課題研究(11)外国語教育の改革) 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 21 1 1999年 41～45頁。
- 山地 弘起 問題提起「コミュニケーション分析の観点から」(第5回大学教育改革フォーラム 大学授業をどう変えるか—研究から実践へ—Faculty Developmentを超えて) 京都大学高等教育研究(京都大学高等教育教授システム開発センター編) 5 1999年 127～133頁。
- 山地 弘起 メディアFDの枠組—予備的なニーズ調査と研修プログラム提案から(高等教育におけるメディア活用と教員の教授能力開発(3)メディア活用の展開と教員支援—教員のメディア活用能力を向上させるための研修プログラムの研究開発)—(第5部 メディアFDの今後に向けて) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号 9) 1999年。
- 山地 弘起；メディア教育開発センターDB企画会議マルチメディアを活用した高等教育の国内先端事例(高等教育におけるメディア活用と教員の教授能力開発(3)メディア活用の展開と教員支援—教員のメディア活用能力を向上させるための研修プログラムの研究開発)—(第5部 メディアFDの今後に向けて) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号 9) 1999年。
- 杉谷 祐美子 戦後東京工業大学改革過程における教養教育の成立—その背景と条件 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 21 1 1999年 64～71頁。
- 須曾野 仁志 「大福帳」を取り入れた「教育情報処理」の授業実践と授業評価の試み(大学授業の自己改善法—1997年度授業改善の実践報告) 研究報告(メディア教育開発センター編) 7 1999年 97～104頁。
- 大作 勝 メディア利用による人文系学生への自然科学教育の改善—安田女子大学での実践例から メディア教育研究(文部省大学共同利用機関メディア教育開発センター編) 2 1999年 57～67頁。
- 高林 克日己 医学部における講義形態と学生の反応(大学授業の自己改善法—1997年度授業改善の実践報告) 研究報告(メディア教育開発センター編) 7 1999年 105～112頁。
- 立田 ルミ メディア利用教育のためのファカルティー・ディベロップメント—教員全員のコンピュータ利用をめざして(高等教育におけるメディア活用と教員の教授能力開発(3)メディア活用の展開と教員支援—教員のメディア活用能力を向上させるための研修プログラムの研究開発)—(第2部 メディア活用と教員支援) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号 9) 1999年。
- 田中 耕治 問題提起「教授学の観点から」(第5回大学教育改革フォーラム 大学授業をどう変えるか—研究から実践へ—Faculty Developmentを超えて) 京都大学高等教育研究(京都大学高等教育教授システム開発センター編) 5 1999年 134～138頁。
- 田中 每実 公開授業の実践と授業改善(大学授業の自己改善法—1997年度授業改善の実践報告—1997年度研修『大学授業の自己改善法』合同説明会講演記録より[含 質疑応答]) 研究報告(メディア教育開発センター編) 7 1999年 189～205頁。
- 寺崎 昌男 アカデミック・フリーゲームと大学審議会答申([大学教育学会]第21回大会関係論文シンポジウム(1)FD等の課題及びファカルティーの活動の在り方—大学設置基準の努力義務規定等との関わり) 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 21 2 1999年 26～28頁。
- 寺島 隆吉 大学における教育実践、その研究の重要性 岐阜大学教育学部研究報告 教育実践研究 1) 1999年。
- 徳野 理 学生による授業評価支援システムと通信票(大学授業の自己改善法—1997年度授業改善の実践報告) 研究報告(メディア教育開発センター編) 7 1999年 113～137頁。

鳥飼 玖美子 全学に支えられた外国語教育改革—立教大学の場合(〔1998 年度課題研究集会〕セッション(4) 課題研究(11) 外国語教育の改革) 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 21 1 1999年 37~40頁。

永末 和子 ヒアリングとグループによる課題解決と発表形式による授業法(大学授業の自己改善法—1997年度授業改善の実践報告) 研究報告(メディア教育開発センター編) 7 1999年 39~60頁。

丹羽 泉 東京外国語大学における専攻語教育と進級要件—教育目標との関連から(特集 大学におけるカリキュラム改革等について) 大学と学生(文部省高等教育局学生課編) 407 1999年 13~19頁。

野入 直美 学生コメントの利用と大教室講義における双方向コミュニケーション(大学授業の自己改善法—1997年度授業改善の実践報告) 研究報告(メディア教育開発センター編) 7 1999年 61~72頁。

野坂 尊子 女性にとっての戦後高等教育改革—新制大学創設期における家政学教育の出発/大阪市立大学・東北大学・広島大学(フォーラム) 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 21 2 1999年 130~136頁。

畑地 正憲 山口大学におけるFD(FDの課題と展望—FD—大学での取組み) IDE(民主教育協会編) 412 1999年 32~36頁。

浜田 道代 名古屋大学における教養教育改革の過去・現在・未来(今月のテーマ「教養教育再考」) IDE(民主教育協会編) 407 1999年 29~34頁。

原 一雄 FD活動の在り方と今後の実践課題—努力義務規程は果たして必要か(〔大学教育学会〕第21回大会関係論文—シンポジウム(1)FD等の課題及びファカルティの活動の在り方—大学設置基準の努力義務規定等との関わり) 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 21 2 1999年 13~17頁。

原 一雄 大学教育学会のFD研究活動(FDの課題と展望—FD—団体・機関での活動) IDE(民主教育協会編) 412 1999年 66~70頁。

原 一雄; 吉岡 公美子; 安岡 高志 他 座談会FD活動と授業創造 大学時報 48(268) 1999年。

房岡 秀郎; 大野 完 医学系単科大学の教養教育におけるゼミ授業の改善とFD活動 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 21 1 1999年 95~99頁。

平野 真 学生による教材製作を取り入れた授業とその効果(大学授業の自己改善法—1997年度授業改善の実践報告) 研究報告(メディア教育開発センター編) 7 1999年 1~7頁。

又坂 常人 大学におけるボランティア活動の授業科目への取り入れについて(資料 大学におけるカリキュラム改革について) 大学資料(文部省大学学術局) 143・144 1999年 121~124頁。

宮腰 賢 大学センターハウスのFD事業(FDの課題と展望—FD—団体・機関での活動) IDE(民主教育協会編) 412 1999年 56~61頁。

森崎 弘 大学における起業家精神涵養教育の課題(特集 大学におけるカリキュラム改革等について) 大学と学生(文部省高等教育局学生課編) 407 1999年 55~63頁。

館 昭 大学の自己評価・大学評価システムとFD(〔大学教育学会〕第21回大会関係論文—シンポジウム(1)FD等の課題及びファカルティの活動の在り方—大学設置基準の努力義務規定等との関わり) 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 21 2 1999年 18~20頁。

館 昭 日本の大学における成績評価改革とアメリカのGPA制度(特集 GPA制度—責任ある大学教育のために) 大学時報(日本私立大学連盟) 48 269 1999年 40~43頁。

安岡 高志 東海大学のFDの取組み—単位の充実から問題発見・解決型の人材育成をめざして(FDの課題と展望—FD—大学での取組み) IDE(民主教育協会編) 412 1999年 19~23頁。

山内 正平 「教える責任」と「学ぶ責任」(〔1998年度課題研究集会〕セッション(1) 課題研究(8)FD活動の具体的展開) 大学教育学会誌 21(1) (通号 39) 1999年。

山室 和也 教育改革のための学生による授業評価システム活用について—札幌国際大学短期大学部の事例から(メディア教育研究(文部省大学共同利用機関メディア教育開発センター編) 2 1999年 69~79頁。

湯本 和子 メディアを活用した英語学の授業評価(大学授業の自己改善法—1997年度授業改善の実践報告) 研究報告(メディア教育開発センター編) 7 1999年 161~179頁。

吉田 雅章 和歌山大学におけるFD—FD後発校における暗中模索(FDの課題と展望—FD—大学での取組み) IDE(民主教育協会編) 412 1999年 29

～32頁。

吉田 雅巳; 斎藤彩 学生が発信する大学授業改善の取り組み 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 21 1 1999年 78～83頁。

米谷 淳 問題提起「行動分析の観点から」(第5回大学教育改革フォーラム 大学授業をどう変えるか—研究から実践へ—Faculty Developmentを超えて) 京都大学高等教育研究(京都大学高等教育教授システム開発センター編) 5 1999年 122～126頁。

渡辺 光雄 利用目的に応じたメディア機能の拡張—ユーザプログラミングを育む Faculty Developmentを考える(高等教育におけるメディア活用と教員の教授能力開発(3)メディア活用の展開と教員支援—教員のメディア活用能力を向上させるための研修プログラムの研究開発)—(第1部 メディアと高等教育) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号9) 1999年。

MamolaClaire Defining and Enhancing Faculty Development ([FD(大学における教育機能開発)に関する]シンポジウム報告—当日報告資料)[英文] 上智大学教育学論集(上智大学教育学科) 35 2000年 57～70頁。

TabachnickB. Robert Improving University Teaching: Practices at the University of Wisconsin-Madison ([FD(大学における教育機能開発)に関する]シンポジウム報告—当日報告資料)[英文] 上智大学教育学論集(上智大学教育学科) 35 2000年 51～55頁。

青木 貴子 学生発表を主体とした講義(大学授業の自己改善法—1998年度 授業改善の実践報告—第1部 実践レポート) 研究報告(メディア教育開発センター編) 14 2000年 13～19頁。

阿部 和厚 北海道大学における全学支援教育改革: 現実的戦略(シンポジウム 21世紀に向けての学部(学士課程)教育の再構築—4 大学の改革方策) 大学教育研究(神戸大学大学教育研究センター編) 別冊7 2000年 5～11頁。

阿部 和厚; 西森 敏之; 小笠原 正明 他 北海道大学 FD マニュアル (特集 ファカルティ・ディベロップメント) 高等教育ジャーナル 通号7) 2000年。

有本章 講演 FD の必要性和授業評価 研究センター報 通号26) 2000年。

有本章 FD の制度化における社会的条件の役割 大学論集 31 2000年。

池上 岳彦 全学的セメスター制への展望 (特集 教養教育からみた新大教育の現在・未来(第1回全学FD)) 大学教育研究年報 通号5) 2000年。

石田 恒好 大学審議会答申を読んで(特集 変革期の大学教育はどうあるべきか: 大学審議会答申『21世紀の大学像と今後の改革方策について—競争的環境の中で個性が輝く大学』(1998年10月26日)を読んで) 教育研究所紀要(文教大学教育研究所紀要委員会編) 9 2000年 23～29頁。

石村 雅雄 相互研修の立場から(記録 第6回大学教育改革フォーラム FDをどう組織するか—相互研修の共同体へ向けて—実践報告を受けて) 京都大学高等教育研究(京都大学高等教育教授システム開発センター編) 6 2000年 216～223頁。

伊藤 元信 授業改善の成果と問題点—言語聴覚士の教育を通して(大学授業の自己改善法—1998年度 授業改善の実践報告—第1部 実践レポート) 研究報告(メディア教育開発センター編) 14 2000年 89～112頁。

猪上 徳雄; 岸 道郎; 原 彰彦 他 シラバスの内容を如何にして充実するのか (特集 ファカルティ・ディベロップメント) 高等教育ジャーナル 通号7) 2000年。

梅宮 新偉 「コンピュータを使うゼス」を育てる—プレゼンテーション演習による情報活用能力の育成(大学授業の自己改善法—1998年度 授業改善の実践報告—第1部 実践レポート) 研究報告(メディア教育開発センター編) 14 2000年 141～151頁。

梅本 勝博; 大串正樹 大学教育における総合的学習の必要性—知識創造の視点から ([大学教育学会]2000年度大会—研究交流部会2 『総合的学習』の始動と知識創造としての授業の構想) 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 22 2 2000年 69～73頁。

大塚 雄作 メディア教育開発センターの実践(記録 第6回大学教育改革フォーラム FDをどう組織するか—相互研修の共同体へ向けて—実践報告) 京都大学高等教育研究(京都大学高等教育教授システム開発センター編) 6 2000年 208～215頁。

大塚 雄作 授業評価支援システムの活用(大学授業の自己改善法—1998年度 授業改善の実践報告—第2部 1998年度研修『大学授業の自己改善法'98』講座 A(シンポジウム)「大学の授業評価を考える」講演記録より) 研究報告(メディア教育開発センター編) 14 2000年 203～209頁。

- 大塚 雄作;山地弘起;杉本均[他] 質疑(大学授業の自己改善法—1998年度 授業改善の実践報告—第2部 1998年度研修『大学授業の自己改善法’98』講座A(シンポジウム)「大学の授業評価を考える」講演記録より) 研究報告(メディア教育開発センター編) 14 2000年 211~223頁。
- 大塚 雄作;波多野和彦;三尾忠男[他] SCS 研修『授業評価と授業改善』とその評価—新しいメディア環境における教授・学習の視座(大学授業の自己改善法—1998年度 授業改善の実践報告—第1部 実践レポート) 研究報告(メディア教育開発センター編) 14 2000年 171~181頁。
- 加地 芳子;榊原典子;稲木昇子[他] 一貫性を考慮した家庭科カリキュラム構想とその改善に関する研究(第2報)基本カリキュラムを活用した京都教育大学各附属学校におけるカリキュラム 京都教育大学教育実践研究年報(京都教育大学教育学部附属教育実践研究指導センター) 16 2000年 169~189頁。
- 片野 尚子 映像視聴による歯科臨床予備実習の実践—メディア教育開発センターの研修を活用して(大学授業の自己改善法—1998年度 授業改善の実践報告—第1部 実践レポート) 研究報告(メディア教育開発センター編) 14 2000年 32~42頁。
- 加藤 幸次 FD(大学における教育機能開発)に関するシンポジウムの開催([FD(大学における教育機能開発)に関する]シンポジウム報告) 上智大学教育学論集(上智大学教育学科) 35 2000年 47~49頁。
- 河村 能夫 インターシップの現状と課題:大学コンソーシアム京都の事例(1999年度[大学教育学会]課題研究集会—シンポジウム2 大学教育のありかたについて—インターシップを軸に) 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 22 1 2000年 28~33頁。
- 絹川 正吉 これからの大学を目指して—ICUの『ファカルティ・ディベロップメント(FD)』の課題キリスト教と諸学 15 2000年。
- 木村 豊;荻 美津夫 総合科目群・再編成への提言—人文・社会・自然系列から主題系列区分へ(特集 教養教育からみた新大教育の現在・未来(第1回全学FD)) 大学教育研究年報 通号5) 2000年。
- 小泉 俊三 ファカルティ・ディベロップメントと教育改革の潮流(特集 作業療法の教育研究とファカルティ・ディベロップメント) 作業療法ジャーナル 34(11) 2000年。
- 神津 忠彦 教育機能開発(ファカルティ・ディベロップメント)の意味とその在り方(特集/医療人養成教育の改革の現状と展望) 大学と学生 428) 2000年。
- 成教育の改革の現状と展望) 大学と学生 428) 2000年。
- 小平 憲子 大学におけるファカルティ・ディベロップメントの現状と課題(特集 作業療法の教育研究とファカルティ・ディベロップメント) 作業療法ジャーナル 34(11) 2000年。
- 小林 昌二 教育改革プログラムと新潟大学の教育改革(特集 大学教育改革と地域・高校生へのメッセージ(第9回ワークショップ)) 大学教育研究年報(新潟大学大学教育開発研究センター編) 5 2000年 75~77頁。
- 小林 昌二 新潟大学の実践(記録 第6回大学教育改革フォーラム FDをどう組織するか—相互研修の共同体へ向けて—実践報告) 京都大学高等教育研究(京都大学高等教育教授システム開発センター編) 6 2000年 204~207頁。
- 小林 直司 総説および解説 Faculty Developmentの課題と展望 新潟工業短期大学研究紀要 通号19) 2000年。
- 小林 雅之 わが国におけるFD研究の実践と課題([FD(大学における教育機能開発)に関する]シンポジウム報告—当日報告資料) 上智大学教育学論集(上智大学教育学科) 35 2000年 71~78頁。
- 斉藤 義明 千葉大学の17歳入学の意義について(特集 大学教育改革と地域・高校生へのメッセージ(第9回ワークショップ)) 大学教育研究年報(新潟大学大学教育開発研究センター編) 5 2000年 78~80頁。
- 櫻井 勇;井内 康輝;熊坂 一成 他 教育業績評価基準 医学教育 31(4) (通号184) 2000年。
- 島宗理 教育心理学の授業における反応カードの活用(大学授業の自己改善法—1998年度 授業改善の実践報告—第1部 実践レポート) 研究報告(メディア教育開発センター編) 14 2000年 53~59頁。
- 下村 明子 看護教育における体験学習の意義について(大学授業の自己改善法—1998年度 授業改善の実践報告—第1部 実践レポート) 研究報告(メディア教育開発センター編) 14 2000年 127~139頁。
- 杉浦 宏昌 ワークシートを使った英語講読授業の改善法(大学授業の自己改善法—1998年度 授業改善の実践報告—第1部 実践レポート) 研究報告(メディア教育開発センター編) 14 2000年 61~69頁。
- 杉本 均 ティーチング・ポートフォリオと大学授業改善(大学授業の自己改善法—1998年度 授業改善の実践報告—第2部 1998年度研修『大学授業の自己改善

- 法' 98』講座A(シボジウム)「大学の授業評価を考へる」講演記録より) 研究報告(メディア教育開発センター編) 14 2000年 195~201頁。
- 鈴木 佳秀 文系の立場から(特集 大学教育改革と地域・高校生へのメッセージ(第9回ワークショップ)) 大学教育研究年報(新潟大学大学教育開発研究センター編) 5 2000年 91~94頁。
- 瀬田 智恵子 FDのためのSCS活用—ある授業交流の実験がもたらしたもの(特集 ファカルティ・ディベロップメント) 高等教育ジャーナル 通号7) 2000年。
- 大黒 一司 専修学校におけるファカルティ・ディベロップメントの現状と課題(特集 作業療法の教育研究とファカルティ・ディベロップメント) 作業療法ジャーナル 34(11) 2000年。
- 高島 秀之 高等教育における遠隔教育の動向と可能性(特集 変革期の大学教育はどうあるべきか: 大学審議会答申『21世紀の大学像と今後の改革方策について—競争的環境の中で個性が輝く大学』(1998年10月26日)を読んで) 教育研究所紀要(文教大学教育研究所紀要委員会編) 9 2000年 69~75頁。
- 武石 宣子 FD活動への多角的なアプローチ—全学共通評価項目の取り組みからオリジナル評価項目への発展 和泉短期大学研究紀要 通号21) 2000年。
- 竹中 晃子 事例報告:生化学特論(専攻科)における授業方法改善の試み 名古屋文理短期大学紀要 通号25) 2000年。
- 田中 每実 問題提起(記録 第6回大学教育改革フォーラムFDをどう組織するか—相互研修の共同体へ向けて) 京都大学高等教育研究(京都大学高等教育教授システム開発センター編) 6 2000年 190~194頁。
- 田中 每実 教養教育の授業改善を巡って—公開実験授業の経験から(特集 教養教育からみた新大教育の現在・未来(第1回全学FD)) 大学教育研究年報 通号5) 2000年。
- 田中 每実; 今井重孝; 赤堀侃司[他] 大学カリキュラム改革と授業改善 京都大学高等教育研究(京都大学高等教育教授システム開発センター編) 6 2000年 1~34頁。
- 谷武 幸 神戸大学における全学教育の現状と課題(シボジウム21世紀に向けての学部(学士課程)教育の再構築—4大学の改革方策) 大学教育研究(神戸大学大学教育研究センター編) 別冊7 2000年 24~26頁。
- 田村 武夫 教養教育の履修基準の見直し—茨城大学(大学におけるカリキュラム改革について(事例紹介)) 大学資料(文部省大学学術局) 146 2000年 81~83頁。
- 辻 敬一郎 名古屋大学における共通教育の現状と課題(大学におけるカリキュラム改革について(事例紹介)) 大学資料(文部省大学学術局) 146 2000年 84~88頁。
- 徳井 厚子 SCSを利用した多文化クラスの大学間交流授業の試み(大学授業の自己改善法—1998年度授業改善の実践報告—第1部 実践レポート) 研究報告(メディア教育開発センター編) 14 2000年 21~30頁。
- 徳野 理 講義形式の授業と学生の疑似体験「混授業」との比較(大学授業の自己改善法—1998年度授業改善の実践報告—第1部 実践レポート) 研究報告(メディア教育開発センター編) 14 2000年 153~170頁。
- 永尾 智; 滝川 一幸 大学における外国語のための自学自習支援システムの調査研究—香川大学教育改善に関する調査の一環として 香川大学教養教育研究(香川大学教養教育調査研究委員会編) 5 2000年 1~66頁。
- 長瀬 徹郎 カスタマーオリエントドを志向した授業の取り組み(大学授業の自己改善法—1998年度 授業改善の実践報告—第1部 実践レポート) 研究報告(メディア教育開発センター編) 14 2000年 113~125頁。
- 中留 武昭 改善・改革につなげる大学の自己点検・評価の省察—九州大学教育学部のケースにおいて季刊教育法(エイトル研究所編) 125 2000年 107~114頁。
- 長野 剛 九州大学の場合: 全学共通教育の観点からカリキュラムと実施体制を中心に(シボジウム21世紀に向けての学部(学士課程)教育の再構築—4大学の改革方策) 大学教育研究(神戸大学大学教育研究センター編) 別冊7 2000年 18~22頁。
- 奈良 雅之; 小原 晃; 錦織 由紀 フォーラム 大学体育実技における授業の目標と成績評価に関する調査研究—学校類型による比較検討 大学教育学会誌 22(2) (通号42) 2000年。
- 新潟大学大学教育開発研究センター—理学部教育改善検討委員会 理学部における教育改善の実験的試み—「理学部の教育に関する討論会」について 大学教育研究年報 通号5) 2000年。

- 西村 秀雄 フォーラム 教師-学生間での情報の共有による講義の建設的改善—インターネットを利用した双方向型授業の試み 大学教育学会誌 22(2) (通号 42) 2000 年。
- 野坂 尊子 戦後高等教育改革における家政教育の再編成—高知女子大学の事例を中心として 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 22 2 2000 年 112~119 頁。
- 橋本 信也 Faculty Development を考える 国際学院埼玉短期大学研究紀要 (通号 21) 2000 年。
- 畑地 正憲 山口大学の実践(記録 第6回大学教育改革フォーラム FD をどう組織するか—相互研修の共同体へ向けて—実践報告) 京都大学高等教育研究(京都大学高等教育教授システム開発センター編) 6 2000 年 195~203 頁。
- 原 一雄 授業評価の意味について—何のために、誰が、何を、何時、何処で、どのように(大学授業の自己改善法—1998 年度 授業改善の実践報告—第2部 1998 年度研修「大学授業の自己改善法'98」講座 A(シボジウム)「大学の授業評価を考える」講演記録より) 研究報告(メディア教育開発センター編) 14 2000 年 187~193 頁。
- 福田 康一郎 事例紹介 千葉大学医学部におけるカリキュラム改革について(特集/医療人養成教育の改革の現状と展望) 大学と学生(文部省高等教育局学生課編) 428 2000 年 13~16 頁。
- 藤岡 完治 教師論の立場から(記録 第6回大学教育改革フォーラム FD をどう組織するか—相互研修の共同体へ向けて—実践報告を受けて) 京都大学高等教育研究(京都大学高等教育教授システム開発センター編) 6 2000 年 224~229 頁。
- 藤田 利久 「自分の授業を振り返る」学生参画型の授業を目指して(大学授業の自己改善法—1998 年度 授業改善の実践報告—第1部 実践レポート) 研究報告(メディア教育開発センター編) 14 2000 年 71~88 頁。
- 星宮 望 東北大学における全学教育の現状と課題(シボジウム 21 世紀に向けての学部(学士課程)教育の再構築—4 大学の改革方策) 大学教育研究(神戸大学大学教育研究センター編) 別冊7 2000 年 13~17 頁。
- 細井 克彦 大学院教育の課題と展望(特集 大学院はどこへ?) 日本の科学者(日本科学者会議編) 35 5 2000 年 197~201 頁。
- 松尾 清一 事例紹介 スーパーローテ方式による卒後臨床研修を導入して—充実した卒後臨床研修の実現に向けた名古屋大学医学部附属病院の取り組み(特集/医療人養成教育の改革の現状と展望) 大学と学生(文部省高等教育局学生課編) 428 2000 年 50~54 頁。
- 松村 佳子;北弘志;松川利広[他] FD に関する調査研究—カリフォルニア大学バークレー校、東海大学でのインクベ—調査を中心に 教育実践研究指導センター研究紀要(奈良教育大学教育学部附属教育実践研究指導センター編) 9 2000 年 189~199 頁。
- 丸山 文裕 学生による教員評価は大学教育改善に有効か 大学教育研究(神戸大学大学教育研究センター編) 8 2000 年 1~7 頁。
- 水島 恵一 大学改革と文教大学の今日(特集 変革期の大学教育はどうあるべきか:大学審議会答申『21 世紀の大学像と今後の改革方策について—競争的環境の中で個性が輝く大学』(1998 年 10 月 26 日)を読んで) 教育研究所紀要(文教大学教育研究所紀要委員会編) 9 2000 年 15~21 頁。
- 光元 聰江 異文化共生による FD 活動の試み 岡山大学教育学部研究集録 (通号 113) 2000 年。
- 宮前 珠子 大学院におけるファカルティ・ディベロップメント(特集 作業療法の教育研究とファカルティ・ディベロップメント) 作業療法ジャーナル 34(11) 2000 年。
- 森 忠三 臨床心理学科におけるインフォーマル・コンソートの講義と学生の反応(大学授業の自己改善法—1998 年度 授業改善の実践報告—第1部 実践レポート) 研究報告(メディア教育開発センター編) 14 2000 年 1~11 頁。
- 山内 乾史 何のための FD か?—イギリスとの比較(特集 ファカルティ・ディベロップメント) 高等教育ジャーナル (通号 7) 2000 年。
- 山内 乾史 FD/SD の比較的考察(上)イギリス 近代 (通号 85) 2000 年。
- 山内 乾史 FD/SD の比較的考察(下)アメリカ合衆国 近代 (通号 86) 2000 年。
- 山内 正平 千葉大学における FD プログラムとその課題—普遍教育の活性化に向けて(1999 年度[大学教育学会]課題研究集会—シボジウム1 FD 活動の具体的展開) 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 22 1 2000 年 14~17 頁。
- 山田 礼子 アメリカのプロフェッショナル・スクールにおける教育の

- 実際(公開研究会報告 第32回公開研究会報告「生涯学習社会と大学改革」) 大学研究(筑波大学大学研究センター編) 20 2000年 61~73頁。
- 吉岡 公美子 立命館大学におけるFD活動—教育学科学研究所プロジェクト「外国語教育におけるFD研究」の歩み(1999年度[大学教育学会]課題研究集会—シンポジウム1FD活動の具体的展開) 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 22 1 2000年 9~13頁。
- 吉田 重光; 川崎 貴生; 戸塚 靖則 北海道大学歯学部における学部学生教育とファカルティ・ディベロップメント(特集 ファカルティ・ディベロップメント) 高等教育ジャーナル 通号 7) 2000年。
- 吉田 雅章 和歌山大学におけるFD(ファカルティ・ディベロップメント)の実践報告 京都大学高等教育研究(京都大学高等教育教授システム開発センター編) 6 2000年 155~164頁。
- 吉村 尚久 FD活動の組織化の輪をいかに広げるか(1999年度[大学教育学会]課題研究集会—シンポジウム1FD活動の具体的展開) 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 22 1 2000年 18~21頁。
- 若林 一平 学びのガシスをめざして—「多様化・個性化」を越えて(特集 変革期の大学教育はどうあるべきか:大学審議会答申『21世紀の大学像と今後の改革方策』について—競争的環境の中で個性が輝く大学』(1998年10月26日)を読んで) 教育研究所紀要(文教大学教育研究所紀要委員会編) 9 2000年 61~67頁。
- 脇田 里子; 越智洋司; 矢野米雄 Web利用によるオンバス講義の授業改善(大学授業の自己改善法—1998年度 授業改善の実践報告—第1部 実践レポート) 研究報告(メディア教育開発センター編) 14 2000年 44~52頁。
- 渡辺 信二 教養教育改革, 途上からの報告—立教大学「全学共通カリキュラム」の場合(大学におけるカリキュラム改革について(事例紹介)) 大学資料(文部省大学学術局) 146 2000年 77~80頁。
- 渡辺 勇一 学生の勉学意欲を維持する授業の工夫(特集 教養教育からみた新大教育の現在・未来(第1回全学FD)) 大学教育研究年報 通号 5) 2000年。
- 逸見 彰彦 国際学大学院共同講座の授業評価と改善—広領域啓発型連合大学院講座IT化への試論的考察(大学授業の自己改善法—1999年度授業改善の実践報告(メディアを活用した学習方法の最適化に関する研究開発)) 研究報告(メディア教育開発センター編) 21 2001年 89~102頁。
- 大橋 英五 大学改革と教養教育の将来 大学時報(日本私立大学連盟) 50 279 2001年 10~15頁。
- 小笠原 昭彦; 小玉 香津子; 生田 克夫 他 シラバスの向上と学生の授業評価による教育改善について—名古屋市立大学看護学部におけるファカルティ・ディベロップメントの試み(名古屋市立大学看護学部における自己点検・評価特集) 名古屋市立大学看護学部紀要 2 2001年。
- 小笠原 正明 大学教育改革現地報告:ポートランド州立大学の教養教育と理科系教育 高等教育ジャーナル(北海道大学高等教育機能開発総合センター編) 9 2001年 31~39頁。
- 沖 清豪 授業評価による授業改善の可能性と課題(大学授業の自己改善法—1999年度授業改善の実践報告(メディアを活用した学習方法の最適化に関する研究開発)) 研究報告(メディア教育開発センター編) 21 2001年 139~145頁。
- 小山 悦司 倉敷芸術科学大学の実践と組織(2000年度課題研究集会 シンポジウム2-2「大学全入時代における教養と教養教育—教養教育の実践と組織」) 大学教育学会誌 23(1)(通号 43) 2001年。
- 香川大学教育学部附属教育実践総合センター教育実習カリキュラムの改善に関する研究プロジェクト 教育実習カリキュラムの改善に関する調査・研究(1)3年次教育実習終了生へのアンケート調査の結果を中心に(特集:[香川大学教育学部附属]教育実践総合センター研究プロジェクト報告 研究論文・実践報告) 香川大学教育実践総合研究(香川大学教育学部附属教育実践総合センター編) 3 2001年 81~93頁。
- 香川大学教育学部附属教育実践総合センター教育実習カリキュラムの改善に関する研究プロジェクト 教育実習カリキュラムの改善に関する調査・研究(2)附属校園教官を対象としたアンケート調査(特集:[香川大学教育学部附属]教育実践総合センター研究プロジェクト報告 研究論文・実践報告) 香川大学教育実践総合研究(香川大学教育学部附属教育実践総合センター編) 3 2001年 95~105頁。
- 香川大学教育学部附属教育実践総合センター教育実習カリキュラムの改善に関する研究プロジェクト 教育実習カリキュラムの改善に関する調査・研究(3)教育実習の今後のあり方と学部・附属校園の連携(特集:[香川大学教育学部附属]教育実践総合センター研究プロジェクト報告 研究論文・実践報告) 香川大学教育実践総合研究

- (香川大学教育学部附属教育実践総合センター編) 3
2001年 107～115頁。
- 川口 昭彦 教養教育改革論(今月のテーマ 大学の教養教育とは?) IDE(民主教育協会編) 426 2001年 37～42頁。
- 川崎 徹郎; 蓮井敏; 西森敏之[他] 大学の数学教師の授業改善に関する意識—日本数学会のある調査より 高等教育ジャーナル(北海道大学高等教育機能開発総合センター編) 9 2001年 1～9頁。
- 上林 美保子 ハワイ大学における看護教育(Japanese Faculty Development Program 研修報告) 岩手県立大学看護学部紀要 3 2001年。
- 久保田 賢一 メディア活用における問題分析と教員支援としてのFD(高等教育におけるメディア活用と教員の教授能力開発(4)メディアを活用する教員支援のための提案(教員のメディア活用能力を向上させるための研修プログラムの研究開発))—(教育支援/教員支援・授業デザイン・学習支援) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号26) 2001年。
- 熊野 敬子 高等教育機関教員のメディアFDをめぐる背景と展望(高等教育におけるメディア活用と教員の教授能力開発(4)メディアを活用する教員支援のための提案(教員のメディア活用能力を向上させるための研修プログラムの研究開発)) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号26) 2001年。
- 古宮 昇 フォーラム 将来の大学教員に教え方を教える:米国内ズーリ大学コロンビア校心理学部における教育実習 大学教育学会誌 23(1)(通号43) 2001年。
- 佐賀 啓男 高等教育機関教員のメディアFDをめぐる背景と展望(高等教育におけるメディア活用と教員の教授能力開発(4)メディアを活用する教員支援のための提案(教員のメディア活用能力を向上させるための研修プログラムの研究開発)) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号26) 2001年。
- 酒井 一郎 グループ学習方式による経営学講義—学習パフォーマンスと要因分析(大学授業の自己改善法—1999年度授業改善の実践報告(メディアを活用した学習方法の最適化に関する研究開発)) 研究報告(メディア教育開発センター編) 21 2001年 115～129頁。
- 篠原 久姫子 初回・毎回・最終アンケートに基づく授業改善の試み(大学授業の自己改善法—1999年度授業改善の実践報告(メディアを活用した学習方法の最適化に関する研究開発)) 研究報告(メディア教育開発センター編) 21 2001年 13～22頁。
- 清水 一彦 グラブルジャー制度の導入(教育改革と「21世紀・日本の教育」読本—教育改革国民会議「教育を変える17の提案」を検討する—一人ひとりの才能の伸長と創造性に富む日本人の育成—大学にふさわしい学習を促すシステムを導入する) 教職研修総合特集(教育開発研究所編) 144 2001年 140～143頁。
- 清水 一彦 少人数教育の実施とティーチング・アシスタント制度の充実(教育改革と「21世紀・日本の教育」読本—教育改革国民会議「教育を変える17の提案」を検討する—一人ひとりの才能の伸長と創造性に富む日本人の育成—大学にふさわしい学習を促すシステムを導入する) 教職研修総合特集(教育開発研究所編) 144 2001年 136～139頁。
- 清水 一彦 成績評価制度の導入と落第・退学制(教育改革と「21世紀・日本の教育」読本—教育改革国民会議「教育を変える17の提案」を検討する—一人ひとりの才能の伸長と創造性に富む日本人の育成—大学にふさわしい学習を促すシステムを導入する) 教職研修総合特集(教育開発研究所編) 144 2001年 144～147頁。
- 深山 晶子 インターネットを利用した科学技術英語教育(大学授業の自己改善法—1999年度授業改善の実践報告(メディアを活用した学習方法の最適化に関する研究開発)) 研究報告(メディア教育開発センター編) 21 2001年 171～179頁。
- 菅井 勝雄; 西森 年寿 高等教育におけるメディア利用のパラダイム(高等教育におけるメディア活用と教員の教授能力開発(4)メディアを活用する教員支援のための提案(教員のメディア活用能力を向上させるための研修プログラムの研究開発))—(メディアとFD) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号26) 2001年。
- 杉浦 宏昌 語彙力を高めるための英語授業展開の工夫—ワークシートを使ったトレーニングの効率化(大学授業の自己改善法—1999年度授業改善の実践報告(メディアを活用した学習方法の最適化に関する研究開発)) 研究報告(メディア教育開発センター編) 21 2001年 23～32頁。
- 関内 隆 第2回東北大学全学教育教育研修(FD)の概要と成果 年報(東北大学大学教育研究センター) 8) 2001年。
- 園田 碩哉 ワークシートを活用した授業の展開(大学授業の自己改善法—1999年度授業改善の実践報告(メディアを活用した学習方法の最適化に関する研究開

- 発)) 研究報告(メディア教育開発センター編) 21
2001年 147~156頁。
- 田代 和久 大学改革とメディア([大学教育学会 2001
年度第23回大会]—研究交流部会1:遠隔教育の現
状と問題点) 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」
編集委員会編) 23 2 2001年 45~49頁。
- 辻 知章 卓上実験を併用した材料力学教育の試み
(大学授業の自己改善法—1999年度授業改善の実
践報告(メディアを活用した学習方法の最適化に関す
る研究開発)) 研究報告(メディア教育開発センター編)
21 2001年 33~42頁。
- 徳野 理 徳徳帳情報を生かした参加型学習の拡充
(大学授業の自己改善法—1999年度授業改善の実
践報告(メディアを活用した学習方法の最適化に関す
る研究開発)) 研究報告(メディア教育開発センター編)
21 2001年 43~55頁。
- 中垣 紀子 小児看護教育における授業評価—教授・
学習評価支援システムの活用(大学授業の自己改善法
—1999年度授業改善の実践報告(メディアを活用した
学習方法の最適化に関する研究開発)) 研究報告
(メディア教育開発センター編) 21 2001年 57~70頁。
- 浪川 幸彦 大学生の学力低下と理数系教育改革の
試み(特集・大学全入時代の教育実践を問う) 大
学と教育(東海高等教育研究所編) 29 2001年
34~48頁。
- 布原 佳奈;平田純里;岡田由香[他] CAIによる母性
看護学実習の認知領域における学習支援の検討—
個人内特性と学習意欲との関連(大学授業の自己
改善法—1999年度授業改善の実践報告(メディアを
活用した学習方法の最適化に関する研究開発)) 研
究報告(メディア教育開発センター編) 21 2001年 157
~164頁。
- 野坂 尊子 戦後高等教育改革期における「家政学」
理解—「家政学部設置基準」の制定過程に見る 大
学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編)
23 2 2001年 110~120頁。
- 橋本 健夫 大学教員の教授能力向上のための研修
システムの導入とその課題(高等教育におけるメ
ディア活用と教員の教授能力開発(4)メディアを
活用する教員支援のための提案(教員のメディア
活用能力を向上させるための研修プログラムの研
究開発))—(メディアとFD) 研究報告(メディア
教育開発センター) 通号 26) 2001年。
- 波田 重熙 高等学校改革と高等教育への接続の問
題[含 中国語文](神戸大学創立90周年記念事業国
際シンポジウム 日本と中国の高等教育に関する国際
比較研究—第1部 高等学校改革と高等教育への接
続の問題) 大学教育研究(神戸大学大学教育研究
センター編) 別冊9 2001年 12~32頁。
- 浜名 篤 大学教育学会 2000年度課題研究会シンポ
ジウム(1)単位制度の運用—その効用と展望 大学設
置基準改正後に単位制度はどこまで改善されたか
大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編)
23 2 2001年 105~109頁。
- 原 一雄 FD論と研修形態(高等教育におけるメ
ディア活用と教員の教授能力開発(4)メディアを
活用する教員支援のための提案(教員のメディア
活用能力を向上させるための研修プログラムの研究
開発))—(メディアとFD) 研究報告(メディア
教育開発センター) 通号 26) 2001年。
- 原 一雄 フォーラム 入学者選抜方法の原理と効用
を質す 大学教育学会誌 23(1) (通号 43) 2001
年。
- 張[キ] 中国における高校教育の改革と大学教育と
のつながりについて[含 中国語文](神戸大学創
立90周年記念事業国際シンポジウム 日本と中国の高
等教育に関する国際比較研究—第1部 高等学校改
革と高等教育への接続の問題) 大学教育研究(神
戸大学大学教育研究センター編) 別冊9 2001年 1
~11頁。
- 広瀬 洋子 高等教育機関における障害者のための
学習支援に関するFDの必要性(高等教育における
メディア活用と教員の教授能力開発(4)メディア
を活用する教員支援のための提案(教員のメ
ディア活用能力を向上させるための研修プログラムの
研究開発))—(教育支援/教員支援・授業デザ
イン・学習支援) 研究報告(メディア教育開発セン
ター) 通号 26) 2001年。
- 広瀬 洋子 大学のメディア環境をめぐる諸問題
(高等教育におけるメディア活用と教員の教授能
力開発(4)メディアを活用する教員支援のための
提案(教員のメディア活用能力を向上させるた
めの研修プログラムの研究開発))—(メディアと
FD) 研究報告(メディア教育開発センター) 通
号 26) 2001年。
- 藤田 哲也 大学の心理学講義における授業改善の
試み—学生による授業評価を用いた検証 京都光
華女子大学研究紀要(京都光華女子大学編) 39
2001年 143~168頁。
- 前田 滋 学長・校長・インタビュー 鹿児島工業高
等専門学校 校長特命のFD推進委員会を立ち上げ
教育能力向上の諸施策を実施する—前田滋 校長
文部科学教育通信 34) 2001年。

- 丸山 武男 Q&A とレゾメを活用した授業改善の試み (大学授業の自己改善法—1999 年度授業改善の実践報告(メディアを活用した学習方法の最適化に関する研究開発)) 研究報告(メディア教育開発センター編) 21 2001 年 131~138 頁。
- 三尾 忠男;伊藤秀子 かわる大学・かわる大学—FD(ファカルティ・デベロップメント)と授業改善(メディアを活用した学習方法の最適化に関する研究開発) 研究報告(メディア教育開発センター編) 23 2001 年 1~52 頁。
- 三尾 忠男;伊藤秀子 大学授業の自己改善法—1999 年度授業改善の実践報告(メディアを活用した学習方法の最適化に関する研究開発) 研究報告(メディア教育開発センター編) 21 2001 年 1~179 頁。
- 向井 俊彦 今、私学の一般教育改革を考える(2000 年度課題研究集会 シンポジウム 2-1「大学全入時代における教養と教養教育」) 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 23 1 2001 年 27~30 頁。
- 八尾坂 修 大学院の構成と役割(教育改革と「21 世紀・日本の教育」読本—教育改革国民会議「教育を変える 17 の提案」を検討する—一人ひとりの才能の伸長と創造性に富む日本人の育成—プロフェッショナル・スクールの設置を進める) 教職研修総合特集(教育開発研究所編) 144 2001 年 113~117 頁。
- 山内 乾史 FD・授業改善システムの構築に向かっ—一本書 [神戸大学]・大学教育研究センターの取り組み 大学教育研究 9) 2001 年 。
- 山本 真一 企業の採用活動と大学での成績・時期(教育改革と「21 世紀・日本の教育」読本—教育改革国民会議「教育を変える 17 の提案」を検討する—一人ひとりの才能の伸長と創造性に富む日本人の育成—大学にふさわしい学習を促すシステムを導入する) 教職研修総合特集(教育開発研究所編) 144 2001 年 152~155 頁。
- 山本 真一 大学の教育力向上と大学・大学教員の評価システムの構築(教育改革と「21 世紀・日本の教育」読本—教育改革国民会議「教育を変える 17 の提案」を検討する—一人ひとりの才能の伸長と創造性に富む日本人の育成—大学にふさわしい学習を促すシステムを導入する) 教職研修総合特集(教育開発研究所編) 144 2001 年 148~151 頁。
- 湯本 和子 Cross-cultural Skills(異文化コミュニケーション)の改善と評価(大学授業の自己改善法—1999 年度授業改善の実践報告(メディアを活用した学習方法の最適化に関する研究開発)) 研究報告(メディア教育開発センター編) 21 2001 年 71~87 頁。
- 吉田 雅章 公開授業「日々の暮らしと法律」と授業改善(大学授業の自己改善法—1999 年度授業改善の実践報告(メディアを活用した学習方法の最適化に関する研究開発)) 研究報告(メディア教育開発センター編) 21 2001 年 103~113 頁。
- 渡辺 和俊 ベンチャー経営者と学部教育改革—甲南大学EBA総合コース創設 大学時報(日本私立大学連盟) 50 276 2001 年 102~105 頁。
- Robert C Gardner <FD セミナー>特別寄稿 Integrative Motivation and Second Language Learning: Practical Issues 関西大学外国語教育研究 2) 2002 年 。
- 秋野 勝紀;垣内 伸彦;百々 康治 他 座談会 FD 活動はどうなっているか—東海地区の場合(特集・大学教育の改革と FD) 大学と教育 33) 2002 年 。
- 浅野 考平 FD の周辺にある諸問題 総研ジャーナル 通号 80) 2002 年 。
- 阿部 和厚 模擬授業 3 ディベートを取り入れた授業 ([神戸大学] 大学教育研究センター第 9 回研究集会 使える FD—模擬授業を通して) 大学教育研究 10) 2002 年 。
- 安藤 友張 FD と授業評価—我が国における現状と課題(特集・大学教育の改革と FD) 大学と教育 33) 2002 年 。
- 生和 秀敏 教育プログラム制への転換(今月のテーマ 私)の大学改革論—現場からの発言) IDE(民主教育協会編) 436 2002 年 17~20 頁。
- 池田 輝政;井手 弘人;中井 俊樹 「授業づくり」の FD プログラム開発を目指して 高等教育ジャーナル 10) 2002 年 。
- 池田 英喜 第 1 回留学生センター FD 報告 留学生センター紀要 5) 2002 年 。
- 池田 充裕 シンガポールにおける大学教育改革([大学教育学会]2001 年度課題研究集会—シンポジウム 1 アジア諸国の大学教育改革—グローバル化とカリキュラム開発のメカニクス) 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 24 1 2002 年 35~39 頁。
- 石 信一 FD に向けて(私の授業アンケート) 苫小牧工業高等専門学校紀要 37) 2002 年 。
- 猪上 徳雄 水産科学研究科・水産学部の FD とその意義—どのように教育の質を保証するのか 高等教育ジャーナル 10) 2002 年 。

- 馬越 徹 グローバリゼーションとカリキュラム開発のシナリオ—韓国
の事例([大学教育学会]2001年度課題研究集会—シン
ポジウム1 アジア諸国の大学教育改革—グローバリゼー
ションとカリキュラム開発のシナリオ) 大学教育学会誌(「大学
教育学会誌」編集委員会編) 24 1 2002年 16
～19頁。
- 菊池 久和 報告と討論 授業における工夫を共有す
るために(新改革カリキュラムの実施に向けて
(第4回FD)) 大学教育研究年報 7) 2002年。
- 北野 秋男 ティーチング・アシスタント制度の導入
—日本大学文理学部における授業改善の試み(特
集・大学教育の改革とFD) 大学と教育 33)
2002年。
- 北野 秋男 ティーチング・アシスタント(TA)制度と
大学の授業改善—日本大学文理学部の事例を中心
に 大学教育学会誌 24(2)(通号46) 2002
年。
- 北村 聖 医学教育ワークショップ(特集 医学教育
の新しい展開)—(Faculty Development) 現代
医療 34(7) 2002年。
- 切田 節子 解説 FD(Faculty Development)につい
ての一考察—企業の研修担当者目で見えた 玉川大
学学術研究所紀要 8) 2002年。
- 小林 昌二 FD 講演会 あなたは大学教官適格です
か?—成績評価の方法と問題「大学授業改革におけ
る成績評価問題の現状と課題」高知大学教育研
究論集 6 2002年。
- 佐藤 肇 ; 岡村 聡 ; 菅 正彦 他 北海道教育大
学・地域環境教育課程(札幌校)におけるファカル
ティ・ディベロップメントについて—「都市環境
基礎実験実習」の場合 北海道教育大学紀要 教
育科学編 53(1) 2002年。
- 志津木 敬 アンドラゴジーと大学改革について
—FDの理論的基礎としてのアンドラゴジーの観点
から 大学教育学会誌 24(1)(通号45) 2002
年。
- 杉本 均 マレーシアの大学教育におけるグローバリゼー
ションとコアカリキュラム([大学教育学会]2001年度課題研究集
会—シンポジウム1 アジア諸国の大学教育改革—グロー
バリゼーションとカリキュラム開発のシナリオ) 大学教育学会誌
(「大学教育学会誌」編集委員会編) 24 1 2002
年 40～45頁。
- 鈴木 順一 エミル・ブルンナーにおける教育論の現
代性—「ファカルティ・ディベロップメント」の
視点からみた 聖学院大学総合研究所紀要 26)
2002年。
- 関内 隆 ; 斎藤 紘一 ; 葛生 政則 他 第4回東北
大学全学教育教官研修(FD)—ワークショップの概
要と成果 年報(東北大学大学教育研究センター)
9) 2002年。
- 苑 復傑 中国における大学教育カリキュラム開発—総合
大学の事例を中心に([大学教育学会]2001年度課
題研究集会—シンポジウム1 アジア諸国の大学教育改
革—グローバリゼーションとカリキュラム開発のシナリオ) 大学教
育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 24
1 2002年 20～27頁。
- 大作 勝 模擬授業1 興味を引くテーマ選び(語学)
(〔神戸大学〕大学教育研究センター第9回研究集
会 使えるFD—模擬授業を通して) 大学教育研究
10) 2002年。
- 永田 真三郎 教育研究の「メッセージ性」の回復(今月
のテーマ 私と私の大学改革論—現場からの発言) IDE(民
主教育協会編) 436 2002年 38～41頁。
- 永田 まなみ 熊本大学医療技術短期大学部看護学
科における情報リテラシー教育の現状と課題(そ
の3) 熊本大学医療技術短期大学部紀要 12)
2002年。
- 奈良 雅之 本学人間社会学部におけるファカルテ
ィ・ディベロップメントに関する検討—学生の教
員に対する期待度を中心に 目白学人間社会学部
紀要 1) 2002年。
- 西田 邦昭 立教大学の教養教育改革の概要([大学
教育学会]2001年度課題研究集会—シンポジウム2
大学コア科目開発と実践) 大学教育学会誌(「大学
教育学会誌」編集委員会編) 24 1 2002年 62
～67頁。
- 丹羽 雅之 ; 高橋 優三 ; 大西 弘高 医学教育部
門・医学教育開発研究センターの役割(特集 医学
教育の新しい展開)—(Faculty Development) 現
代医療 34(7) 2002年。
- 橋本 栄一 FD(ファカルティ・ディベロップメン
ト)の研究 東京学芸大学紀要 第5部門, 芸術,
健康・スポーツ科学54 2002年。
- 橋本 勝 相互集団教育力と知の共有化—大学にお
ける2つの授業実践を通して 岡山大学教育実践
総合センター紀要 2 2002年。
- 原 絹子 ; 吉田真史 ; 高砂子昌久[他] 大学一年次学
生のための化学実験プログラムの改善—非化学系工
科大学の一例 大学教育学会誌(「大学教育学会

- 誌]編集委員会編) 24 1 2002年 109～115頁。
- 原 清治 教授法開発室の現状と課題—私立中規模大学におけるFD活動の意味(特集・大学教育の改革とFD) 大学と教育 33) 2002年。
- 日高 春昭 台湾の高等教育の現状と展望([大学教育学会]2001年度課題研究集会—シボジウム1 アジア諸国の大学教育改革—グローバル化とカリキュラム開発のシナリオ) 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 24 1 2002年 28～34頁。
- 広瀬 洋子 オレゴン大学の障害をもつ学生への支援:関連ウェブページとファカルティ・ガイドブック(抄訳つき)(高等教育における傷害をもつ学生への支援システムの研究) — (高等教育における障害学生を支援するためのFDガイドブック) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号 33) 2002年。
- 広瀬 洋子 高等教育機関における障害をもつ学生への学習支援ハンドブック作りへの試案(高等教育における傷害をもつ学生への支援システムの研究) — (高等教育における障害学生を支援するためのFDガイドブック) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号 33) 2002年。
- 福沢 榮司 報告と討論 大学理念と個性化科目(新改革カリキュラムの実施に向けて(第4回FD)) 大学教育研究年報 7) 2002年。
- 福田 康一郎 医学教育改革—横断的取組みの紹介(今月のテーマ 私の大学改革論—現場からの発言) IDE(民主教育協会編) 436 2002年 49～52頁。
- 藤岡 完治 総研講演会 国公立大学でのFDの現状と京大での取り組み 総研ジャーナル 通号 81) 2002年。
- 星宮 望 東北大学の全学教育改革([大学教育学会]2001年度課題研究集会—シボジウム2 大学7科目開発と実践) 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 24 1 2002年 48～51頁。
- 武藤 ナンシー FD: Ways to Better University Teaching 名古屋外国語大学外国語学部紀要 23) 2002年。
- 村上 みち子; 舟島 なをみ 看護学教員のロールモデル行動に関する研究—ファカルティ・ディベロップメントの指標の探求(焦点 看護継続教育論—3 領域への研究的アプローチ) 看護研究 35(6) (通号 172) 2002年。
- 森 和夫 大学教員に求められる職業能力と能力開発プログラム構築の試案—FD活動の機能と能力開発のかかわりの検討を中心に 徳島大学大学開放実践センター紀要 13 2002年。
- 森 園子 授業改善奮闘記—ITによるファカルティ・ディベロップメント いつも学生と共に 大学教育と情報 11(2) (通号 99) 2002年。
- 安原 義仁 イギリスの大学評価と大学教育の改善—高等教育教授・学習開発機構(ILT)と全英優秀教師顕彰制度(NIFS)(論文・特集<大学評価の国際比較>) 大学評価研究 2) 2002年。
- 山田 弘明 共通教育の抜本的改編に向けて—名古屋大学の挑戦([大学教育学会]2001年度課題研究集会—シボジウム2 大学7科目開発と実践) 大学教育学会誌(「大学教育学会誌」編集委員会編) 24 1 2002年 56～61頁。
- 吉田 文; 田口 真奈 高等教育機関におけるマルチメディア利用実態調査(2000年度)メディアFDとフレキシブルラーニング支援の研究開発 研究報告(メディア教育開発センター) 通号 31) 2002年。
- 和賀 崇 アメリカの大学におけるファカルティ・ディベロップメントの発展に関する一考察—ティーチング・アシスタント制度の機能拡大に着目して 教育学研究集録 26 2002年。
- 赤井 純治 全学共通科目としての基礎自然科学の教育目的・目標について(特集 平成14年度カリキュラム改革の概要と目標(第5回 [新潟大学] 全学FD)) — (2002年度春期自然科学系FDの報告) 大学教育研究年報 8) 2003年。
- 赤岩 英夫 巻頭 講義とFD 大学と学生 443) 2003年。
- 赤嶺 淳; 朝倉 美香; 佐野 直子 他 FD(ファカルティ・ディベロップメント)—大学における授業評価のあり方(2002年度 [名古屋市立大学] 人文社会学部共同研究報告) 名古屋市立大学人文社会学部研究紀要 15 2003年。
- 浅野 誠 FD講演会実施報告 多人数教育での参加型学習の実践について 2002年6月14日 大学教育研究 12) 2003年。
- 安藤 友張 大学授業研究の方法—図書館情報学教育のFD及び研究に対する示唆 同志社大学図書館学年報 29) (別冊) 2003年。
- 安藤 友張 FDを考える 大学と教育 36) 2003年。
- 池田 輝政 『ティップス先生』が売れる理由(わけ)

- (今月のテーマ FD のヒント) IDE 447) 2003 年。
- 池田 輝政 FD 講演会(教務部・総合教育研究室共催)
FD によってどんな効果を挙げるべきか? 総研ジ
ャーナル 通号 83) 2003 年。
- 井下 理 FD の現状と課題(今月のテーマ FD のヒ
ント) IDE 447) 2003 年。
- 伊藤 秀子; 宮本 友弘 映像メディアによる新し
い学習の展開(フレキシブル・ラーニングのため
の学習支援と評価(1)メディア FD とフレキシ
ブル・ラーニング支援の研究開発) 研究報告(メ
ディア教育開発センター) 通号 41) 2003 年。
- 稲葉 めぐみ; 佐竹 美智子; 中村 洋一 他 一元
的な教育の管理運営システムによる教育改革の推
進 医学教育 34(5)(通号 204) 2003 年。
- 今安 達也 全学的コンセンサスの形成と実践—武
庫川女子大学のファカルティディベロップメント
の現状(特集 IT 活用によるファカルティディ
ベロップメントへの取り組み) 大学教育と情報
12(1)(通号 102) 2003 年。
- 入澤 寿美 学習院大学におけるファカルティディ
ベロップメントへの取り組み—IT を用いた授業展
開の改善と支援体制(特集 IT 活用によるファ
カルティディベロップメントへの取り組み) 大学
教育と情報 12(1)(通号 102) 2003 年。
- 上垣 豊; 志津木 敬 教養教育に関する意識調査
—龍谷大学京都学舎の場合 大学教育学会誌
25(1)(通号 47) 2003 年。
- 上坂 良子; 有田 幹雄; 玉井 晃浩 他 看護教育
関係者のネットワーク作りおよび資質向上への取
り組み 和歌山県立医科大学看護短期大学部紀要
7 2003 年。
- 大塚 雄作 大学評価の方法と動向—元気の出る評
価文化の形成に向けて[含 質疑応答](フレキシ
ブル・ラーニングのための学習支援と評価(2)) —
(第2部 シンポジウム 高等教育における評価の諸
問題—「メディアFD」及び「学習評価支援」フォ
ーカスグループ合同研究会) 研究報告(メ
ディア教育開発センター) 通号 45) 2003 年。
- 大野木 裕明 学術的成果に関する流通支援シス
テム構築の基礎的プラン(フレキシブル・ラー
ニングのための学習支援と評価(1)メディア FD とフレ
キシブル・ラーニング支援の研究開発) 研究報告
(メディア教育開発センター) 通号 41) 2003
年。
- 岡野 昌雄 FD 講演会 大学における教養教育 高知
大学教育研究論集 7 2003 年。
- 岡村 純 事例紹介 学生の教育環境づくりとFD活動
—学生も利用可能な FD 教材を中心に(特集 大学
と教員—FD・SD への取組、教員及び職員の資質向
上) 大学と学生 465) 2003 年。
- 尾崎 明人 日本語・日本文化教育部門のファカルテ
ィー・ディベロップメント—学生による授業評価
の試み 名古屋大学留学生センター紀要 [1])
2003 年。
- 押川 元重 九州大学における FD (今月のテーマ FD
のヒント) IDE 447) 2003 年。
- 小田 隆治 山形大学における FD—最高の教養教育
の提供を目指して(今月のテーマ FD のヒント)
IDE 447) 2003 年。
- 小田 玲子 FACULTY DEVELOPMENT 社会教育担当者の
力量形成のための試案(特集「社会教育」の学習
法—仕事を自己点検してみると) 社会教育
58(5)(通号 683) 2003 年。
- 片野 尚子 FD 研修とその進展—個人的経験をと
おして(研修事業「英語プレゼンテーション講座」
の試み(2)研究会の記録) —(第1部 論考) 研究
報告(メディア教育開発センター) 通号 40)
2003 年。
- 加藤 潔 工学部における IT を利用したファカル
ティディベロップメントへの取り組み—情報公開と
デジタルコンテンツの開発(特集 IT 活用による
ファカルティディベロップメントへの取り組み)
大学教育と情報 12(1)(通号 102) 2003 年。
- 蟹江 秀明 東海大学における FD (今月のテーマ FD
のヒント) IDE 447) 2003 年。
- 金丸 明彦; 下田 研一; 長澤 多代 長崎大学に
おけるファカルティ・ディベロップメント・プロ
グラム: その概要ならびに大学教育機能開発セン
ターと附属図書館が協同した「情報検索の方法」
ワークショップ 大学図書館研究 69) 2003 年。
- 桑原 公 健康スポーツ科目群の概要と目標(特集
平成 14 年度カリキュラム改革の概要と目標(第 5
回 [新潟大学] 全学 FD)) 大学教育研究年報 8)
2003 年。
- 河野 英一; 内田 一徳 [新潟大学] 大学教育開発
研究センター報告 部局別FD報告 農学部第5回FD
新たな教育システムへのパラダイムシフト—技術
者教育プログラムを通じた大学教育に対する取
り組み 大学教育研究年報 8) 2003 年。

- 小林 洋 シンポジウム 高校&生徒の変化が大学に求めること (特集 「2006年問題」への対応をめぐって(第6回[新潟大学]全学FD)) 大学教育研究年報 8) 2003年。
- 小松 啓 ファカルティ・ディベロップメントの現状と課題 中部学院大学・中部学院大学短期大学部 研究紀要 4) 2003年。
- 佐賀 啓男 事例紹介 メディアを用いる教員の効果的FD支援について (特集 大学と教員-FD・SDへの取組、教員及び職員の資質向上) 大学と学生 465) 2003年。
- 坂本 辰朗 アメリカにおけるFDの現状(今月のテーマFDのヒント) IDE 447) 2003年。
- 笹尾 敏明; 小山 梓; 池田 満 次世代型ファカルティ・ディベロップメント(FD)・プログラムに向けて:コミュニティ心理学的視座からの検討 教育研究 通号 45) 2003年。
- 志津木 敬 フォーラム FDの理論的基礎づけとアンドラゴジー—ユニバーサル・アクセスにおけるFD 大学教育学会誌 23(2) (通号 44) 2003年。
- 篠田 道夫 事例紹介 日本福祉大学におけるSDの取組について (特集 大学と教員-FD・SDへの取組、教員及び職員の資質向上) 大学と学生 465) 2003年。
- 柴田 幹夫 「日本語・日本事情部門」の概要と到達目標—学部生に対する日本語・日本事情教育 (特集 平成14年度カリキュラム改革の概要と目標(第5回[新潟大学]全学FD)) 大学教育研究年報 8) 2003年。
- 鈴木 京子 授業づくりを支援するためのデジタル・ポートフォリオの作成と活用—数学科教育法におけるCollaborative Workとしての模擬授業実践 (フレキシブル・ラーニングのための学習支援と評価(1)メディアFDとフレキシブル・ラーニング支援の研究開発) 研究報告 (メディア教育開発センター) 通号 41) 2003年。
- 関内 隆; 斎藤 紘一 第6回東北大学全学教育教育研修(FD)ワークショップの成果とアンケート評価 年報 (東北大学大学教育研究センター) 10) 2003年。
- 孫福 弘 SDの理論と実践—アドミニストレーターの開発・育成を中心に (特集 大学と教員-FD・SDへの取組、教員及び職員の資質向上) 大学と学生 465) 2003年。
- 高津 斌彰 2002年度の社会科学科目群の授業特性 (特集 平成14年度カリキュラム改革の概要と目標(第5回[新潟大学]全学FD)) 大学教育研究年報 8) 2003年。
- 高濱 節子 広島修道大学におけるファカルティディベロップメントへの取り組み—IT環境整備と全学的な授業のIT活用を目指して (特集 IT活用によるファカルティディベロップメントへの取り組み) 大学教育と情報 12(1) (通号 102) 2003年。
- 高比良 美詠子 メディア教育開発センター共同研究『メディアFDとフレキシブル・ラーニング支援の研究開発』「学習評価支援」フォーカスグループ 平成15年度第1回会議 議事録 (フレキシブル・ラーニングのための学習支援と評価(2)) — (第1部 [学習評価支援フォーカスグループ] 平成14年度、15年度の研究課題) 研究報告 (メディア教育開発センター) 通号 45) 2003年。
- 田口 真奈; 藤田 志穂; 神藤 貴昭 他 FDとしての公開授業の類型化—13大学の事例をもとに 日本教育工学雑誌 27(-) (Suppl.) 2003年。
- 武村 秀雄 大学アドミニストレーター養成の試み: 桜美林大学の例—大学職員のためのMBA 大学教育学会誌 25(2) (通号 48) 2003年。
- 建部 正義 大学セミナー・ハウスにおけるFD(今月のテーマFDのヒント) IDE 447) 2003年。
- 田中 每実 京都大学におけるFD(今月のテーマFDのヒント) IDE 447) 2003年。
- 田部井 潤; 飯田 考充 第三者による授業評価分析の試み—学生参加型授業を事例として 大学教育学会誌 25(2) (通号 48) 2003年。
- 寺田 浩詔 高知工科大学の情報ネットワークとファカルティディベロップメント (特集 IT活用によるファカルティディベロップメントへの取り組み(2)) 大学教育と情報 12(2) (通号 103) 2003年。
- 戸田 博人; 吉田 容子 Webサイトにおけるユーザビリティテスト事例 (フレキシブル・ラーニングのための学習支援と評価(1)メディアFDとフレキシブル・ラーニング支援の研究開発) 研究報告 (メディア教育開発センター) 通号 41) 2003年。
- 中嶋 航一 IT時代のFaculty Development 帝塚山 学術論集 10) 2003年。
- 半谷 精一郎 東京理科大学におけるIT活用支援へ

- の取り組み—IT を利用した授業の現状と今後の支援活動(特集 IT 活用によるファカルティディベロップメントへの取り組み(2)) 大学教育と情報 12(2) (通号 103) 2003 年。
- 中村 一基 岩手大学における FD (今月のテーマ FD のヒント) IDE 447) 2003 年。
- 中村 知靖 授業評価アンケートの理論的基礎〔含質疑応答〕(フレキシブル・ラーニングのための学習支援と評価(2))—(第 2 部 シンポジウム 高等教育における評価の諸問題—「メディア FD」及び「学習評価支援」フォーカスグループ合同研究会) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号 45) 2003 年。
- 奈良 雅之 目白大学新宿キャンパスにおけるファカルティ・ディベロップメント(FD)活動の試み 大学教育学会誌 25(2) (通号 48) 2003 年。
- 成田 雅博 エル・ネット「オープンカレッジ」大学独自収録・編集から大学講義の VOD ライブラリ作成へ(フレキシブル・ラーニングのための学習支援と評価(1)メディア FD とフレキシブル・ラーニング支援の研究開発) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号 41) 2003 年。
- 西田 敏信 基準範囲学習支援システム(フレキシブル・ラーニングのための学習支援と評価(1)メディア FD とフレキシブル・ラーニング支援の研究開発) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号 41) 2003 年。
- 長谷川 誠 情報処理部門の概要と達成目標—ネットワークとセキュリティ教育の試み(特集 平成 14 年度カリキュラム改革の概要と目標(第 5 回〔新潟大学〕全学 FD)) 大学教育研究年報 8) 2003 年。
- 波多野 和彦; 坂元 昂; 吉本 昌司 Web 教材のコンテンツ評価の研究(フレキシブル・ラーニングのための学習支援と評価(1)メディア FD とフレキシブル・ラーニング支援の研究開発) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号 41) 2003 年。
- 濱名 篤 特別講演 ユニバーサル化の進行と高大接続—2006 年問題との関係(特集 「2006 年問題」への対応をめぐる(第 6 回〔新潟大学〕全学 FD)) 大学教育研究年報 8) 2003 年。
- 原 直史 シンポジウム 文系学部と学力問題(特集 「2006 年問題」への対応をめぐる(第 6 回〔新潟大学〕全学 FD)) 大学教育研究年報 8) 2003 年。
- 廣瀬 克哉 日本私立大学連盟における FD (今月のテーマ FD のヒント) IDE 447) 2003 年。
- 広瀬 信雄; 林 尚示; 石垣 武久 他 大学学部における授業改善研究の試み(1)教育人間科学部 FD について 教育実践学研究 8) 2003 年。
- 淵田 吉男 FD 講演会実施報告 九州大学の授業評価の現状 2003 年 3 月 6 日〔含 質疑応答〕 大学教育研究 12) 2003 年。
- 丸山 不二夫 IT 技術教育の改善と大学の新しい役割—東京サテライトの開設とブロードバンドの利用について(特集 IT 活用によるファカルティディベロップメントへの取り組み(2)) 大学教育と情報 12(2) (通号 103) 2003 年。
- 丸山 文裕 FD 活動の背景と実践 生涯学習研究年報 9) 2003 年。
- 三浦 笙子; 水島 孝司 東京水産大学 TOEIC クラスにおける Faculty Development の一研究 東京水産大学論集 39) 2003 年。
- 三品 和広 ハーバードビジネススクールにおける FD (今月のテーマ FD のヒント) IDE 447) 2003 年。
- 光田 基郎; 中村 純作; 田中 道治 他 衛星利用の遠隔授業・日本語教育と社会人教育の効率化に関する基礎的研究(フレキシブル・ラーニングのための学習支援と評価(1)メディア FD とフレキシブル・ラーニング支援の研究開発) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号 41) 2003 年。
- 宮川 裕之 教育を支える情報化の歩み—電子シラバス化とデジタルコンテンツ作成支援への取り組み(特集 IT 活用によるファカルティディベロップメントへの取り組み) 大学教育と情報 12(1) (通号 102) 2003 年。
- 宮本 千津子; 兼松 恵子; 坪内 美奈 他 特別寄稿 組織としての教育能力開発を目指した大学の活動—岐阜県立看護大学のファカルティ・ディベロップメント委員会 2 年半の実績から Quality nursing 9(9) 2003 年。
- 村山 功 プロジェクト型学習の支援システム開発に向けた基礎研究(フレキシブル・ラーニングのための学習支援と評価(1)メディア FD とフレキシブル・ラーニング支援の研究開発) 研究報告(メディア教育開発センター) 通号 41) 2003 年。
- 八木沼 圭司 事例紹介「大学経営管理職員」主導型改革の実践—SD から AD へ(特集 大学と教員—FD・SD への取組、教員及び職員の資質向上) 大

- 学と学生 465) 2003年。
- 山神 眞一；野崎 武司；岡田 知也 他 [香川大学] 教育学部FDと学生の实地指導を企図した学部-附属連携事業の試み-「未来からの留学生」一日体験入学を通して 香川大学教育実践総合研究6) 2003年。
- 山崎 光悦 金沢大学の工学教育改革とFDの取組み(今月のテーマFDのヒント) IDE 447) 2003年。
- 吉田 文 メディア教育開発センターのFD—その成果とジレンマ(今月のテーマFDのヒント) IDE 447) 2003年。
- 吉田 文；田口 真奈 高等教育機関におけるマルチメディア利用実態調査(2001年度)—メディアFDとフレキシブルラーニング支援の研究開発 研究報告(メディア教育開発センター) 通号42) 2003年。
- 和賀 崇 アメリカの大学における大学教員準備プログラム—ファカルティ・ディベロップメントとの関連に注目して 大学教育学会誌 25(2)(通号48) 2003年。
- 渡辺 勇一 大学学習法と内容の課題—理学部の現状(特集平成14年度カリキュラム改革の概要と目標(第5回[新潟大学]全学FD)) 大学教育研究年報 8) 2003年。
- 渡辺 勇一 現在の大学生は本当に勉強しないのか?—学生を学ばせる授業の在り方(特集平成14年度カリキュラム改革の概要と目標(第5回[新潟大学]全学FD))—(2002年度春期自然科学系FDの報告) 大学教育研究年報 8) 2003年。
- Alan Jenkins；Rosanna Breen；Roger Lindsay 他 翻訳 教授-研究ネクサスを支援するための高等教育における教授活動の再構築—大学におけるFDの問題—A. ジェンキンス・R. ブリーン・R. リインドセイ・A. ブルー共著 広島工業大学紀要研究編 38 2004年。
- Nigel Stott The Enhancement of Learning and Teaching Quality in Higher Education: Faculty development in the United Kingdom and its relevance to Japanese university teachers 福岡県立大学人間社会学部紀要 13(1) 2004年。
- Nigel Stott；Christopher Storey A Case Study of Faculty Development at a British University 福岡県立大学人間社会学部紀要 13(1) 2004年。
- 青木 茂芳；高山 直子 F.D.のための授業改善の検討—大学・高専における学生による授業評価の分析 四国大学紀要 Ser.A 人文・社会科学編 22) 2004年。
- 井下 理 FDの展望と課題—理念なきFDの迷走(高等教育の展望と課題)—(第3部 大学教育) 高等教育研究紀要 通号19) 2004年。
- 石村 雅男 大学・教育・FDを語る[含 質疑応答](第3回教員FDセミナー報告 2003.2) 大阪経済法科大学総合科学研究所年報 23) 2004年。
- 伊勢野 薫 Paradigm Shift in College Teaching—A Frame of Reference for Faculty Development 大阪学院大学外国語論集 43) 2004年。
- 井上 正義；豊田 紘一 大阪歯科大学におけるITを活用した教育改善にむけて(特集IT活用によるファカルティディベロップメントへの取り組み(3)) 大学教育と情報 12(3)(通号104) 2004年。
- 岩田 健 授業の運営と教え方—教職科目を担当して[含 質疑応答](第3回教員FDセミナー報告 2003.2) 大阪経済法科大学総合科学研究所年報 23) 2004年。
- 窪穴 学慈；大藪 和雄；田中 良子 他 ファカルティ・ディベロップメントへの一つの試み(1) さぬき経営学事始め(基礎演習1・基礎演習2) 高松大学紀要 42) 2004年。
- 江原 義郎 順天堂大学におけるITを活用した医学教育支援への試み(特集IT活用によるファカルティディベロップメントへの取り組み(4)) 大学教育と情報 12(4)(通号105) 2004年。
- 奥村 英樹 FD活動を前提としたe-Learningシステムの開発 四国大学紀要 Ser.A 人文・社会科学編 21) 2004年。
- 加藤 かおり 特集「成績評価の現状と課題」について(第9回[新潟大学]全学FD) ワークショップ形式FDの成果および今後の課題 大学教育研究年報 9 2004年。
- 金子 一郎 新潟大学初修外国語改革案[含 質疑・討論](特集 語学教育を考える(第8回[新潟大学]全学FD)) 大学教育研究年報 9) 2004年。
- 切田 節子 教員のプレゼンテーション研修の重要性とその意義—FD研修実施を通して 玉川大学学術研究所紀要 10) 2004年。
- 轡田 邦夫 第一回 [東海大学] 海洋学部FD研究会「学部基幹科目としての海洋実習教育の現状と問

- 題点」 海-自然と文化 2(1) 2004年。
- 小池 源吾；佐々木 保孝 大学における社会人学生の受容と学習支援 大学教育学会誌 26(1) (通号 49) 2004年。
- 坂本 尚夫 第8回全学教育教育研修(FD)-ワークショップ-講演 東北大学における教育の充実を求めて 年報(東北大学大学教育研究センター) 11) 2004年。
- 桜井 芳生 メディアのダーウィニアン社会学序説—IT時代における「内職・私語封じ」にもなる「大学授業改善(FD)テクニック」の紹介もかねて 地域政策科学研究 1) 2004年。
- 山中 馨 創価大学のファカルティディベロップメント活動とIT活用(特集 IT活用によるファカルティディベロップメントへの取り組み(4)) 大学教育と情報 12(4) (通号 105) 2004年。
- 鈴木 寛 音楽科教育におけるFD—授業を失敗させる方法の研究(平成15年度教育改善推進経費(学長裁量経費)による研究 実技指導能力を育成する指導法に関する研究:その実践的実証的研究) —(第1音楽教育分野) 実技教育研究 18) 2004年。
- 田中 雄二郎；森尾 友宏；増田 美香子 他 教官の実習指導に対する学生による評価 医学教育 35(4) (通号 210) 2004年。
- 鄭 萬佑 授業公開に関する私の提案(第3回教員FDセミナー報告 2003.2) 大阪経済法科大学総合科学研究所年報 23) 2004年。
- 中澤 義和；朴 宗彬；金子 道雄 「入門演習」個別実践報告〔含 質疑応答〕(FDセミナー [大阪経済法科大学] 2003年度第4回教員FDセミナー テーマ 導入教育の点検と課題) 大阪経済法科大学法学研究所紀要 37) 2004年。
- 奈良 雅之 フォーラム 大学保健体育における「演習」科目に関する検討 大学教育学会誌 23(2) (通号 44) 2004年。
- 新田 光子 入門演習のあり方(基調講演)—テキスト『大学生入門』に関連して〔含 質疑応答〕(FDセミナー [大阪経済法科大学] 2003年度第4回教員FDセミナー テーマ 導入教育の点検と課題) 大阪経済法科大学法学研究所紀要 37) 2004年。
- 橋本 久；西牧 駒蔵；中川 孝博 「現代法入門」についての報告〔含 質疑応答〕(FDセミナー [大阪経済法科大学] 2003年度第4回教員FDセミナー テーマ 導入教育の点検と課題) 大阪経済法科大学法学研究所紀要 37) 2004年。
- 原 清治；藤田 智之 教育評価の新たな展開—新しいタイプの学生の出現、ニセ優等生? 消費者? 宇宙人? 佛教大学教育学部学会紀要 3) 2004年。
- 堀内 泰紀 他大学におけるFD—関西学院大学における授業評価について〔含 質疑応答〕(第3回教員FDセミナー報告 2003.2) 大阪経済法科大学総合科学研究所年報 23) 2004年。
- 前 圭一 授業の工夫と改善—新科目『河内学』を担当して〔含 質疑応答〕(第3回教員FDセミナー報告 2003.2) 大阪経済法科大学総合科学研究所年報 23) 2004年。
- 真鍋 敬 講演 愛媛大学における新英語教育導入の経過と現状及び課題〔含 質疑・討論〕(特集 語学教育を考える(第8回 [新潟大学] 全学FD)) 大学教育研究年報 9) 2004年。
- 水島 章次；坪井 和男 中部大学におけるファカルティディベロップメントへのIT活用の取り組み—授業作りへのIT活用と支援体制(特集 IT活用によるファカルティディベロップメントへの取り組み(3)) 大学教育と情報 12(3) (通号 104) 2004年。
- 宮崎 充保 講演 山口大学におけるTOEICの活用〔含 質疑・討論〕(特集 語学教育を考える(第8回 [新潟大学] 全学FD)) 大学教育研究年報 9) 2004年。
- 宮下 崇 大学経営におけるFD活動の構造と台湾の「FD」 経営学研究論集 21) 2004年。
- 宮 添 輝美 The Meaning of Faculty Development—Thoughts on the 15th Rikkyo TEFL Seminar (セミナー 英語教育研究室:嘱託講師授業研究発表会から) 大学教育研究フォーラム 9) 2004年。
- 村田 治 関西学院大学におけるファカルティディベロップメントへの取り組み—Web上でのシラバスと授業評価システムの連携例(特集 IT活用によるファカルティディベロップメントへの取り組み(3)) 大学教育と情報 12(3) (通号 104) 2004年。
- 安田 博 「入門演習」アンケート結果報告〔含 質疑応答〕(FDセミナー [大阪経済法科大学] 2003年度第4回教員FDセミナー テーマ 導入教育の点検と課題) 大阪経済法科大学法学研究所紀要 37) 2004年。

山根 共行 授業公開の意義と課題(第3回教員FDセミナー報告 2003.2) 大阪経済法科大学総合科学研究年報 23) 2004年。

山根 共行 ; 石村 雅男 ; 岩田 健 他 パネルディスカッション 大学における教育の課題と将来(第3回教員FDセミナー報告 2003.2) 大阪経済法科大学総合科学研究年報 23) 2004年。

吉田 文 FD 講演会(教務部・総合教育研究室共催) 授業評価をこえたFDへ 総研ジャーナル 通号84) 2004年。

吉田 文 ; 田口 真奈 高等教育機関におけるマルチメディア利用実態調査(2002年度)ーメディアFDとフレキシブルラーニング支援の研究開発 研究報告(メディア教育開発センター) 通号49) 2004年。

吉永 契一郎 語学教育に関する学生の意識調査の結果(含 質疑・討論) (特集 語学教育を考える(第8回[新潟大学]全学FD)) 大学教育研究年報 9) 2004年。

吉村 賢治 福岡大学における全学的なIT環境整備への取り組み(特集 IT活用によるファカルティディベロップメントへの取り組み(4)) 大学教育と情報 12(4) (通号105) 2004年。

浅野 誠 大学授業改革の現段階と課題ー各地の大学でのFD企画へのかかわり体験をふまえて 大学と教育 40 2005年。

池田 輝政 大学教師の教育力を高めるFDのあり方(特集 教師の教育力を高める) 教育と医学 53(10) (通号628) 2005年。

井下 理 質問紙版「学生による授業評価」調査の廃止ーウェブによる評価情報交換への変革(特集FDの実践と課題) 大学時報 54(302) (通号317) 2005年。

浮穴 学慈 ; 大藪 和雄 ; 田中 良子 他 ファカルティ・ディベロップメントへの一つの試み(2) さぬき経営学事始め(基礎演習1・基礎演習2) 高松大学紀要 43) 2005年。

江口 正樹 新潟大学における大学改革と教員及び事務職員の連携(シンポジウム2 教学支援と大学改革ーFD, SD から PD(Professional Development)へ) 大学教育学会誌 27(1) (通号51) 2005年。

折田 充 「教養教育に関するFD研究会2004」実施報告(「教養教育に関するFD研究会2004」実施報

告) 大学教育年報 8) 2005年。

柏木 治 FD 活動の展開ー全学共通教育推進機構の取り組み(特集FDの実践と課題) 大学時報 54(302) (通号317) 2005年。

唐沢 徹 新しい大学教育のデザインとFDー跡見学園女子大学の場合(特集FDの実践と課題) 大学時報 54(302) (通号317) 2005年。

古賀 倫嗣 問題提起3『学生による授業評価』アンケート試行結果にみる期待と課題(「教養教育に関するFD研究会2004」実施報告) 大学教育年報 8) 2005年。

近藤 久雄 大学教育開発センターの取り組み(特集FDの実践と課題) 大学時報 54(302) (通号317) 2005年。

笹尾 敏明 大学教員としての充足感ーFDのもう一つの課題(特集FDの実践と課題) 大学時報 54(302) (通号317) 2005年。

菅岡 強司 問題提起2 厳格で一貫した成績評価について(「教養教育に関するFD研究会2004」実施報告) 大学教育年報 8) 2005年。

関根 秀和 教学支援と大学改革ープロフェッショナル・ディベロップメントについてー指定討論者の視点から(シンポジウム2 教学支援と大学改革ーFD, SD から PD(Professional Development)へ) 大学教育学会誌 27(1) (通号51) 2005年。

武田 丈 ; 中川 慎二 ; 山地 崇正 他 [関西学院大学] 教務部・総合教育研究室共催 2004年度FD月間企画シンポジウム 授業をよりよくするためにー学生の視点と教員の視点 総研ジャーナル 通号86) 2005年。

田中 昌昭 ; 安藤 正人 情報通信技術(IT)を活用した教育支援システムの開発研究 川崎医療福祉学会誌 14(2) 2005年。

坪井 和男 ポイント制による教育総合評価システム 大学評価研究 4) 2005年。

新関 輝夫 FD 推進実践記(特集FDの実践と課題) 大学時報 54(302) (通号317) 2005年。

西垣 順子 成績評価・授業評価 単位制度実質化を実現するための教育システム 信州大学高等教育システムセンター紀要 1) 2005年。

西澤 宗英 FDの一環としての「教員評価」ー委員会『報告』の考え方(特集FDの実践と課題) 大学時報 54(302) (通号317) 2005年。

西田 邦昭 教学改革とマネジメントスタッフの役割—組織改革と人材育成 (シンポジウム2 教学支援と大学改革—FD, SD から PD(Professional Development)へ) 大学教育学会誌 27(1) (通号 51) 2005 年。

丹羽 雅之 ; 鈴木 康之 ; 藤崎 和彦 他 医学教育セミナーとワークショップの10回にわたる開催経 験 医学教育 36(2) (通号 214) 2005 年。

萩原 素之 講義実践に基づく教育論 [信州大学] 農学部におけるFDとしての課題—探求能力育成への取り組み事例 信州大学高等教育システムセンター紀要 1) 2005 年。

林田 実 ; 藤井 敦 授業評価決定因子の統計的研究 大学教育学会誌 27(1) (通号 51) 2005 年。

本間 里見 実践報告1 都市建築入門 B を担当して (「教養教育に関する FD 研究会 2004」実施報告) 大学教育年報 8) 2005 年。

宮崎 州弘 学生による授業評価の検討—FD の一貫としての授業評価 宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要 28) 2005 年。

安岡 高志 ; 加藤 雅史 ; 蟹江 秀明 他 一貫教育委員会によるFDの推進 大学教育学会誌 27(1) (通号 51) 2005 年。

矢田貝 真一 平成 16 年度 FD 推進プロジェクト活

動報告 大垣女子短期大学紀要 46) 2005 年。

八ツ塚 一郎 実践報告2 現代心理行動学 B を担当して (「教養教育に関する FD 研究会 2004」実施報告) 大学教育年報 8) 2005 年。

山田 雅彦 問題提起1 教科集団・主題科目・FD—体系化に向けて (「教養教育に関する FD 研究会 2004」実施報告) 大学教育年報 8) 2005 年。

山田 礼子 ホームページに世界の大学戦略をみる (10) 教員評価と FD 支援 給与査定と連動したビクトリア大学のケース カレッジマネジメント 23(3) (通号 132) 2005 年。

山本 真一 大学の機能変化と職員の役割—教学支援と大学改革 (シンポジウム2 教学支援と大学改革—FD, SD から PD(Professional Development)へ) 大学教育学会誌 27(1) (通号 51) 2005 年。

山本 恵 ; 梅村 信夫 ; 堀尾 正典 OCR アンケート処理システムの検証—統一的な授業評価システムの一環として 名古屋学芸大学短期大学部研究紀要 2) 2005 年。

横井 勝彦 FD 委員会のこれまでの取り組み—新任教員研修を中心として (特集 FD の実践と課題) 大学時報 54(302) (通号 317) 2005 年。

【英文著書】

- Burke, Peter et al (ed) Programming for staff development Falmer Press 1990.
- Burke, Peter et al (ed) Programming for staff development : fanning the flame Falmer Press 1990.
- Schuster, J. H., Wheeler, D. W., et al. Enhancing Faculty Careers: Strategies for Development and Renewal San Francisco Jossey-Bass, 1990 346 pp.
- Schuster, Jack H. et al Enhancing faculty careers Jossey-Bass 1990.
- Simpson, Edwin L. Faculty Renewal in Higher Education Krieger Publishing Co, 1990 159 pp.
- Austin, A. E., & Baldwin, R. G. Faculty Collaboration Enhancing the Quality of Scholarship and Teaching ASHE-ERIC Higher Education Report No. 7 Association for the Study of Higher Education 1991 122 pp.
- Bradley, Howard Staff development Falmer Press 1991.
- Brockett, Ralph G. (Ed.) Professional Development for Educators of Adults New Directions for Adult and Continuing Education Issue 51 Fall 1991 107 pp.
- Jarvis, Donald K. Junior Faculty Development: A Handbook Modern Language Assn of America 1991.
- Johnson, D. W., Johnson, R. T., & Smith, K. A. Cooperative Learning: Increasing College Faculty Instructional Productivity ASHE-ERIC Higher Education Report No. 4 Association for the Study of Higher Education 1991 152 pp.
- Zuber-Skerritt, Ortrun Professional development in higher education Kogan Page 1992.
- Wulff, D. H., & Nyquist, J. D. (Eds.) To Improve the Academy: Resources for Faculty Instructional, and Organizational Development. Volume II Stillwater, Oklahoma New Forums Press, Inc. 1992 302 pp.
- Welch, Lynne Brodie (Ed.) Perspectives on Faculty Roles In Nursing Education New York Praeger Publishers 1992 148 pp.
- Sorcinelli, M. D., & Austin, A. E. (Eds.) Developing New and Junior Faculty New Directions for Teaching and Learning: Issue 50 Summer 1992 104 pp.
- Slevin, James F. The Next Generation: Preparing Graduate Students for the Professional Responsibilities of College Teachers Research report Association of American Colleges 1992 31 pp.
- Schmitz, Betty Core Curriculum and Cultural Pluralism: A Guide for Campus Planners Washington, D.C. Association of American Colleges 1992 127 pp.
- Sandier, Bernice Resnick. Success and Survival Strategies for Women Faculty Members. Research report, Association of American Colleges, May 1992 12 pp.
- Russell, Alene Bycer. Faculty Workload: State and System Perspectives State Policy and College Learning. Research report State Higher Education Executive Officers November 1992 78 pp.
- Palmer, J. C., & Vaughan, G. B. (Eds.) Fostering a Climate for Faculty Scholarship at Community Colleges. Research report American Association of Community and Junior Colleges 1992 77 pp.
- Kroll, Keith (Ed.) Maintaining Faculty Excellence. New Directions for Community Colleges: Issue 79 Fall 1992 107 pp.
- Jacobs, L. C., & Chase, C. I. Developing and Using Tests Effectively: A Guide for Faculty. San Francisco: Jossey-Bass 1992 231 pp.

- Heydinger, R. B., & Simsek, H. An Agenda for Reshaping Faculty Productivity: State Policy and College Learning. Research report State Higher Education Executive Officers November 1992 31 pp.
- Greive, D., & France, R. E. Management of Adjunct/Part-Time Faculty in Colleges and Universities. Research report Cuyahoga Community College 1992 66 pp.
- Clague, Monique Weston. Diversity and the Faculty-Student Connection. Research report University of Maryland College Park 1992 19 pp.
- Boice, Robert The New Faculty Member: Supporting and Fostering Professional Development San Francisco Jossey-Bass 1992 376 pp.
- Adams, Maurianne (Ed.) Promoting Diversity in College Classrooms: Innovative Responses for the Curriculum, Faculty, and Institutions. New Directions for Teaching and Learning: Issue 52 Winter 1992 145 pp.
- Terlouw, Cess (ed) Instructional development in higher education: theory and practice Thesis Publishers 1993.
- Tierney, W. G., & Rhoads, R. A. Enhancing Promotion, Tenure and Beyond: Faculty Socialization as Cultural Process. ASHE-ERIC Higher Education Report No. 6 Association for the Study of Higher Education 1993 110 pp.
- Richlin, Laurie (Ed.) Preparing Faculty for the New Conceptions of Scholarship. New Directions for Teaching and Learning: Issue 54 Summer 1993 113 pp.
- Rayman, Jack R. (Ed.) The Changing Role of Career Services. New Directions for Student Services: Issue 62 Summer 1993 114 pp.
- Finkelstein, M. J., & LaCelle-Peterson, M. W. (Eds.) Developing Senior Faculty as Teachers New Directions for Teaching and Learning: Issue 55 Fall 1993 116 pp.
- Diamond, R. M., & Adam, B. E. (Eds.) Recognizing Faculty Work: Reward Systems for the Year 2000. New Directions for Higher Education: Issue 81 Spring 1993 125 pp.
- Centra, John A. Reflective Faculty Evaluation: Enhancing Teaching and Determining Faculty Effectiveness. San Francisco: Jossey-Bass 1993 245 pp.
- Huffman, Jane Bumpers The role of staff development in site goals achievement UMI Dissertation Services 1994.
- Bailey, Gerald L. et al Technology staff development program: a leadership sourcebook for school administrators Scholastic Paperbacks 1994.
- Gall, Meredith D. et al Planning for Effective Staff Development : Six Research-Based Models Univ of Oregon Eric Clearinghouse 1994.
- Richardson, Virginia (ed) Teacher Change and the Staff Development Process : A Case in Reading Instruction Teachers College Pr 1994.
- Whetherly, June Management of Training and Staff Development (The Library Training Guide Series) Library Assn Pub Ltd 1994.
- Zimble, Linda J. Faculty and Instructional Staff: Who Are They and What Do They Do? NCES Report 94-346, Office of Educational Research and Improvement, U. S. Department of Education October 1994 25 pp.
- Maack, M. N., & Passet, J. Aspirations and Mentoring in an Academic Environment: Women Faculty in Library and Information Science. Westport, Connecticut: Greenwood Press 1994 216 pp.
- Braskamp, L. A., & Ory, J. C. Assessing Faculty Work: Enhancing Individual and Institutional Performance. San Francisco: Jossey-Bass 1994 333 pp.
- Hilsen To Improve the Academy Resources for Student Faculty and Institutional Development New Forums Press 1995.
- Howey, Kenneth R. et al (ed) Informing the Faculty Development of Teacher Educators (Social Policy and Issues in Education) Ablex Pub Corp 1995.
- Blackburn, Robert T et al Faculty at work: motivation, expectation, satisfaction Johns

- Hopkins University Press 1995.
- Diamond, Robert M. Preparing for Promotion and Tenure Review: A Faculty Guide Anker Publishing Company 1995.
- Luna, Gaye et al Empowering the Faculty: Mentoring Redirected and Renewed [ASHE-ERIC HE Report 1995-4] The George Washington Univ. 1995.
- Bailey, Gerald L. et al 101 activities for creating effective staff development program: a sourcebook of games, stories, role-playing, and learning exercises For Scholastic Paperbacks 1995.
- Rodriguez, Lori et al Manual of Staff Development Mosby Inc 1995.
- Thomas, Angela Coaching for Staff Development ((Personal and Professional Development Series))Kogan Page Ltd 1995.
- Trotta, Marcia Successful Staff Development : A How-To-Do-It Manual (How to Do It Manual for Libraries, No 55)Neal Schuman Pub 1995.
- Reinarz, A. G., & White, E. R. (Eds.) Teaching Through Academic Advising: A Faculty Perspective. New Directions for Teaching and Learning: Issue 62 Summer 1995 116 pp.
- Newble, D., & Cannon, R. A Handbook for Teachers in Universities & Colleges: A Guide to Improving Teaching Methods. London England Kogan Page 1995 161 pp.
- Murray, John P. Successful Faculty Development and Evaluation: The Complete Teaching Portfolio. ASHE-ERIC Higher Education Report No. 8 Association for the Study of Higher Education 1995 137 pp.
- Luna, G., & Cullen, D. L. Empowering the Faculty: Mentoring Redirected and Renewed. ASHE-ERIC Higher Education Report No. 3 Association for the Study of Higher Education 1995 112 pp.
- Brew, Angela (Ed.) Directions in Staff Development. Buckingham, England: Society for Research into Higher Education and Open University Press 1995 229pp.
- Taylor, K., & Marienau, C. (Eds.) Learning Environments for Women's Adult Development: Bridges Toward Change. New Directions for Adult and Continuing Education: Issue 65 Spring 1995 99 pp.
- Katz, Joseph et al Turning Professors into teachers: a new approach to faculty development and student learning (American council on education/Oryx series on higher ED) Oryx Press 1996.
- Brown, Sally et al(ed) Resource-Based Learning (Staff and Educational Development Series)Stylus Pub. Llc. 1996.
- Tait, Jo et al (ed) The Management of Independent Learning (Staff and Educational Development Series)Stylus Pub. Llc. 1996.
- Wisker, Gina et al (ed) Enabling Student Learning: Systems and Strategies (Staff and Educational Development Series)Stylus Pub. Llc. 1996.
- Peter, K. et al Rhythms of Academic Life: Personal Accounts of Careers in Academia. SAGE Publications 1996.
- Race, Phil et al 500 Computing Tips for Teachers and Lecturers Stylus 1996.
- Sutherland, Tracey E. et al (ed) Using Active Learning in College Classes: A range of Options for Faculty. New Directions for Teaching and Learning.
- Knowles, Bobby New tricks? Staff development Sos Free Stock 1996.
- Margaret, Oldroyd, et al Staff Development in Academic Libraries : Present Practice and Future Challenges Library Assn Pub Ltd 1996.
- Thomas, Cheryl et al How to Integrate Core Skills in Gnvqs : A Staff Development Programme Kogan Page Ltd 1996.
- Integrating Research on Faculty: Seeking New Ways to Communicate About the Academic Life of Faculty. NCES Report 96-849 Office of Educational Research and Improvement U.S. Department of Education March 1996 133 pp.

- Aylett, R., & Gregory, K. (Eds.) *Evaluating Teacher Quality in Higher Education*. Washington D.C.: Falmer Press 1996 138 pp.
- Brinko, Kathleen et al *Practically speaking: a sourcebook for institutional consultants (faculty development series)* New Forums Press 1997.
- Clement, Mary C. *Building the best faculty* Scarecrow Press 1997.
- Winston, Roger B. et al *Improving staffing practices in student affairs* Jossey-Bass 1997.
- Bland, Carole J. et al *The Vitality of Senior Faculty Members: Snow on the Roof-Fire in the Furnace [ASHE-ERIC HE Report Vol. 25-7]* The George Washington Univ. 1997.
- Gerald, Bailey, et al *Staff Development in Technology : A Source Book for Teachers*Natl Educational Service 1997.
- Sparks, Dennis et al *New Vision for Staff Development*Assn for Supervision & Curriculum 1997.
- Winston, R. B. Jr., & Creamer, D. G. *Improving Staffing Practices in Student Affairs*. San Francisco: Jossey-Bass 1997 392 pp.
- Bland, C. J., & Bergquist, W. H. *The Vitality of Senior Faculty Members: Snow on the Roof-Fire in the Furnace*. ASHE-ERIC Higher Education Report No. 7 Association for the Study of Higher Education 1997 155 pp.
- Bess, James L. (Ed.) *Teaching Well and Liking It: Motivating Faculty to Teach Effectively*. Baltimore Maryland: Johns Hopkins University Press 1997 455 pp.
- Gillespie, Kay Herr et al (ed) *The impact of technology faculty development, life, and work (new directions for teaching and learning, 76)* Jossey-Bass 1998.
- Kaplan, Matthew (ed) *To improve the academy: resources for faculty, instructional, and organizational development* New Forums Press 1998.
- Latchem, Colin et al (ed) *Staff development in open and flexible learning* Routledge 1998.
- Bryan, William A. et al(ed) *Strategies for staff development* Jossey-Bass 1998.
- Marincovich, Michele et al (ed) *The Professional Development of Graduate Teaching Assistants* Anker Publishing Company 1998.
- Ralph, Edwin G. *Motivating Teaching in Higher Education: A Manual for Faculty Development*. Stillwater Oklahoma: New Forums Press 1998 236 pp.
- Marincovich, M., Prostko, J., & Stout, F. (Eds.) *The Professional Development of Graduate Teaching Assistants*. Bolton Massachusetts: Anker Publishing 1998 306 pp.
- Gillespie, Kay Herr (Ed.) *The Impact of Technology on Faculty Development, Life, and Work*. *New Directions for Teaching and Learning: Issue 76* Winter 1998 98 pp.
- Dunkel, N. W., & Schuh, J. H. *Advising Student Groups and Organizations*. San Francisco Jossey-Bass 1998 245 pp.
- Doidge, J., Hardwick, B., & Wilkinson, J. *Developing Support and Allied Staff in Higher Education*. London England: Kogan Page 1998 175 pp.
- Bryan, W. A., & Schwartz, R. A. (Eds.) *Strategies for Staff Development: Personal and Professional Education in the 21st Century*. *New Directions for Student Services: Issue 84* Winter 1998 104 pp.
- Barnes, Linda L. *Variations on teaching/learning workshop: pedagogy and faculty development in religious studies* Scholar Press 1999.
- Kay, Jerald et al (ed) *Handbook of psychiatric education and faculty development* Amer Psychiatric Press 1999.
- Rentel, Victor M. et al *Themes and issues in faculty development*University Press of America 1999.
- Farnham, David (ed) *Managing academic staff in changing university systems* Open University Press 1999.

- Moon, Jennifer Reflection in learning & professional development: theory and practice Kogan Page 1999.
- Sadler, D. Royce Managing your academic career Allen & Unwin 1999.
- Sheal, Peter The staff development handbook Kogan Page 1999.
- Alstete, Jeffrey W. Post-tenure faculty development: building a system for faculty improvement and appreciation Jossey-Bass 2000.
- MaCabe, Linda L. How to succeed in academics (successful career management) Academic Press 2000.
- Sedey, Daniel Faculty community: a case study in renewal Ridgeview Pub Co 2000.
- Schollaert, Rudi (ed) Effective Staff Development : An Evaluation Manual (Syllabus Series, 2)Garant Uitgevers N V 2000.
- Zepeda, Sally J. et al Supervision and Staff Development in the BlockEye on Education 2000.
- Kaplan, M., & Lieberman, D (Eds.) To Improve the Academy: Resources for Faculty, Instructional, and Organizational Development. Bolton Massachusetts: Anker Publishing 2000 302 pp.
- Vargas, Leonides Santos et al (ed) Humanities and the health science: a collaborative project for faculty development and curricular Scripta Humanistica 2001.
- Nichollas, Gill Professional development in higher education Kogan Page 2001.
- Lieberman, D., & Wehlburg, C. (Eds.) To Improve the Academy: Resources for Faculty, Instructional, and Organizational Development. Volume 19. Bolton Massachusetts: Anker Publishing 2001 386 pp.
- Macdonald, Ronald et al Academic and educational development Kogan Page 2002.
- Anson, Christopher M. et al (ed) The wac casebook: scenes for faculty reflections and program development Oxford university Press 2002.
- Gillespie, Kay Herr et al (ed) A guide to faculty development: practical advice, examples, and resources Anker Pub Co 2002.
- Fallows, Stephen et al (ed) Educational Development Through Information and Communications Technology (Staff and Educational Development Series)Kogan Page 2002.
- Partington, Patricia et al Managing Staff Development (Managing Universities and Colleges, Guide to Good Practice)Open University Press 2002.
- Gillespie, Kay Herr (ed) A Guide to Faculty Development: Practical Advice, Examples, and Resources Anker Publishing Company 2002.
- Watts, Gordon Changing Face of Staff Development (New Directions for Community Colleges, 120)Jossey-Bass Pub 2002.

【英文論文】

- Albright, Cheryl L. A Categorisation of Models of Staff Development in Higher Education. *Academic Medicine* v65 n6 1990 p406-09.
- Aleamoni, Lawrence M. Faculty Development Research in Colleges, Universities, and Professional Schools: The Challenge. *Journal of Personnel Evaluation in Education* v3 n2 1990 p193-95 1990.
- Anderson, William A., Carline, Jan D., Ambrozy, Donna M. & Irby, A Review of Analysis Factors Relating to Staff Development of the Adult Learning v1 n7 1990 p11-14 1990.
- Angelini, Diane J. A Service Learning Approach to Faculty Development. *Adult Learning* v1 n7 1990 p8-10 1990.
- Bennett, Christene K. An Alternative Approach to Staff Development. *British Educational Research Journal* v16 n2 1990 p179-89 1990.
- Brawer, Florence B. Faculty Development: The Literature. An ERIC Review. *Community College Review* v18 n1 1990 p50-56 1990.
- Camblin, Lanthan D. & Steger, Joseph A. Coherent Pathways? Lessons and Issues from, and for, Faculty College and Research Libraries v51 n3 1990 p251-65 1990.
- Carter, Margie College Letters of Recommendation: A Staff Development Opportunity. *College Student Affairs Journal* v10 n1 1990 p43-48.
- Chalmers, Robert K. Community College Faculty Development: Bringing Technology into Community & Junior College Libraries v7 n1 1990 p81-87.
- Chisholm, Colin U. A Review of Analysis Factors Relating to Staff Development of the Educators. *European Journal of Engineering Education* v15 n2 1990 p131-40.
- Coleman, Marla Demonstrating the Benefits of Staff Development. An Interview with *Community College Review* v18 n1 1990 p50-56.
- Collinson, Vivienne Demonstrating the Benefits of Staff Development. Assessment for *Community College Review* v18 n3 1990 p12-16.
- Daloz, Laurent A. Parks & Edelson, Paul J. Designing Successful Learning: Staff Development for Outcome-Based Community Services Catalyst v20 n2 1990 p17-21.
- de Vries, Linda and Others Developing Faculty Development Programs: A View from the Chair. *CUPA Journal* v41 n2 1990 p35-42.
- Doermann, Humphrey The Bush Foundation's Faculty Development Projects. *New Directions for Teaching and Learning* 1990 p107-13.
- Ellis, Nancy E. Evaluation Frames: A Powerful Staff Development Tool for Educational Leadership v47 n5 1990 p25-29.
- Ellis, Susan S. Evaluation of a Medical Faculty Development Program: A Comparison of Educational Leadership v47 n6 1990 p56-57.
- Emmons, Gary Evaluation of a Tiered Model for Staff Development in Writing. *Educational Leadership* v47 n8 1990 p79-80.
- Epstein, Joyce L. and Others Evaluation of an Interdisciplinary Faculty Development Program in Educational Leadership v48 n2 1990 p38-39.
- Foley, Janice R. & Clifton, Rodney A. Locus of Control, Organizational Climate, and Participation in Staff Development: A Study of College Instructors. *Canadian Journal of Higher Education* v20 n2 1990 p45-59.
- Gordon, Geoffrey H. & Levinson, Wendy Attitudes toward Learner-Centered Learning at a Faculty Development Course. *Teaching and Learning in Medicine* v2 n2 1990 p106-09.

- Grace Odeleye, Beverlyn Faculty Development for Teaching Innovation. *Executive Educator* v12 n11 1990 p24-25.
- Graf, David L. and Others Faculty Development in a Changing Academic Environment. *Executive Educator* v12 n5 1990 p19.
- Harrison, Rosamund L. & Forgay, Margery G. Self-Perceived Needs for Faculty Development at Canadian Dental Schools. *Journal of Dental Education* v54 n4 1990 p240-43.
- Henley, Charles E. & Magelssen, David Faculty Development and Organizational Systems Behavior. *Academic Medicine* v65 n6 1990 p406-09.
- Jacobs, Bonita Tailoring Staff Development to Meet Campus Needs. *College Student Affairs Journal* v10 n1 1990 p43-48.
- Katz, Malcolm Improving Staff Development in Rural Communities Using Distance *Journal of Dental Education* v54 n4 1990 p240-43.
- Kazlauskas, Edward John & Maxwell, William Faculty Development and the Community College LRC. *Community & Junior College Libraries* v7 n1 1990 p81-87.
- Langley, Anne & Perkins, Isabel Just-in-Time Staff Development: One Step to the Learning *Journal of Home Economics* v82 n3 1990 p11-15.
- Leitzel, Thomas Implementing a Team Teaching Approach for Part-Time Faculty Development. *Community Services Catalyst* v20 n1 1990 p21-28.
- Lublin, Jacqueline R. Mentoring and Pretenure Faculty Development. *Journal of Staff Development* v11 n1 1990 p2-6.
- Ludlow, Barbara L. Mentoring Becomes Staff Development: A Case of Serendipity. *Journal of Staff Development* v11 n1 1990 p34-38.
- MacGilchrist, Barbara Mentoring in the Career Development of Hospital Staff Nurses: Models *Journal of Staff Development* v11 n1 1990 p8-13.
- MacKenzie, Niall & Staley, Alan Mentoring Strategies for Faculty Development. *Journal of Staff Development* v11 n2 1990 p6-10.
- MacPherson, Reynold J. S. Mentoring the Mentor: A Challenge for Staff Development. *Journal of Staff Development* v11 n3 1990 p12-17.
- Maddox, Mary & Vadasy, Patricia Methodological Issues in Evaluation of a Faculty Development in *Journal of Staff Development* v11 n3 1990 p18-21.
- Magestro, Patricia V. & Stanford Blair, Nancy Motivating Your Development Staff. *Journal of Staff Development* v11 n3 1990 p48-55.
- Malarz, Lynn New Directions in Staff Training and Development. *Journal of Staff Development* v11 n3 1990 p8-10.
- Mann, Edward New National Efforts to Promote Staff Development: Making a Career *Journal of Staff Development* v11 n4 1990 p54-58.
- Nies, Joyce I. Faculty Development: An Imperative for the Nineties. *Journal of Home Economics* v82 n3 1990 p11-15.
- Peers, I. S. Utility of Concerns-based Staff Development in Facilitating Education and Training about HIV/AIDS in Schools and Colleges. *British Educational Research Journal* v16 n2 1990 p179-89.
- Roever, James E. Faculty Development, Faculty Evaluation, and Faculty Productivity: An Administrator's Perspective. *ACA Bulletin* n74 1990 p69-73.
- Rosenfeld, Lawrence B. and Others 1990 perceptions of Professional Associations II: Role and Impact of Professional Outlets on Faculty Development. *Communication Education* v39 n3 1990 p171-80.
- Rowe, Drew Staff Development in the Continuing Education Environment. *NASSP Bulletin* v74 n529 1990 p66-70.
- Scott, Judith Herbert Role of Community College Department Chairs in Faculty Development. *Community College Review* v18 n3 1990 p12-16.

- Sheets, Kent J. & Schwenk, Thomas L. Faculty Development for Family Medicine Educators: An Agenda for Future Activities. *Teaching and Learning in Medicine* v2 n3 1990 p141-48.
- Showers, Beverly Aiming for Superior Classroom Instruction for All Children: A Comprehensive Staff Development Model. *Remedial and Special Education (RASE)* v11 n3 1990 p35-39.
- Simpson, Deborah E. and Others An Analysis of Ambulatory Teaching Situations for Faculty Development. *Teaching and Learning in Medicine* v2 n2 1990 p95-97.
- Sparks, Dennis Teaching Narratives: A Source for Faculty Development and 1990 planning for Higher Education v18 n4 1990 p31-46.
- Sparks, Dennis Teacher Initiated Staff Development: What Do Principals and Teachers 1990 phi Delta Kappan v72 n1 1990 p33-40.
- Streshly, William The Development of Staff Concerns during Implementation of Research in Developmental Disabilities v14 n2 1990 p129-44.
- Strong, Richard W. and Others The Faculty Development Portfolio: A Framework for Documenting the Research in Rural Education v6 n3 1990 p11-19.
- Todnem, Guy R. & Warner, Michael P. The Role of an Academic Department in Promoting Faculty Development: School Counselor v38 n2 1990 p153-55.
- Weaver Meyers, Pat ARL Libraries and Staff Development: A Suggested Model for Success. *College and Research Libraries* v51 n3 1990 p251-65.
- Weeks, Susan S. & Hainley, Fred L. & Gill MacDonald, Beth Using Distance Learning in Staff Development. *Teaching and Learning in Medicine* v2 n2 1990 p106-09.
- Welch, Frances C. & Daniel, Cherry Using Focus Groups To Assess Staff Development: A School Learning *Teaching and Learning in Medicine* v2 n2 1990 p95-97.
- Westbrook, Jody M. & Tipping, Sharon R. Using Participant-Satisfaction Forms To Evaluate Staff Development *Teaching and Learning in Medicine* v2 n3 1990 p141-48.
- Arthur, Gwen A Staff Development Partnership for Technology Integration. *Adults Learning (England)* v2 n5 1991 p125-38.
- Bennett, Christene K. Staff Development in Light of Maslow's Theory. *Journal of Staff Development* v12 n4 1991 p10-14.
- Blackburn, Robert Faculty Development: Policies and Practices. *Journal of Dental Education* v55 n10 1991 p665-67.
- Carmon, Myra and Others Colleague Journals as a Staff Development Tool. *College and University* v67 n1 1991 p81-88.
- Cohen, Peter A. The Future of Faculty Development in Dental Education. *Journal of Dental Education* v55 n5 1991 p295-98.
- Davidson, Neil and Others Developing a Strong Staff Team: Tips for Precamp Training and Contemporary Education v63 n1 1991 p28-34.
- Dillon Peterson, Betty Reflection on the Past, Present, and Future of Staff Development. *Journal of Staff Development* v12 n1 1991 p48-51.
- Duckett, Ian 1991 promoting Appraisal through an Active Staff Development Programme. *School Organisation* v11 n2 1991 p153-69.
- Dunn, Dana S. & Toedter, Lori J. The Collaborative Honors Project in Psychology: Enhancing Student and Faculty Development. *Teaching of Psychology* v18 n3 1991 p178-80.
- Epstein, Joyce L. and others Staff Development for Middle-School Education. *Journal of Staff Development* v12 n1 1991 p36-41.
- Evans, Clyde H. Evaluation of Staff Development and Training Models To Support Educational Leadership v49 n3 1991 p43-48.

- Gould, Susan C. Strategic Planning in a Multicultural Education Staff Development Program. *Journal of Staff Development* v12 n1 1991 p18-21.
- Grubb, Mel & Gonzales, Phillip C. Faculty Development in Publicly Supported Two-Year Colleges. *Guidelines* v13 n2 1991 p81-87.
- Hodgman, Eileen Callahan Education-Practice Partnerships: Faculty Practice as Faculty Development. *Journal of Professional Nursing* v7 n5 1991 p310-18.
- Kazlauskas, Edward John & Maxwell, William Improving Writing Instruction through Staff Development. *Journal of Dental Education* v55 n10 1991 p656-58.
- Keller, Don and Others In Quest of Common Ground: A Faculty Development Newsletter of the *Journal of Dental Education* v55 n10 1991 p665-67.
- Kelley, Lynn S. In Search of Staff Development: A Study of Academic Staff Appraisal. *Journal of Dental Education* v55 n10 1991 p675-78.
- Kelley, Tracey L. Incorporating Diversity in ALL Faculty/Staff Development *Journal of Dental Education* v55 n5 1991 p295-98.
- Killian, Joyce E. Colleague Journals as a Staff Development Tool. *Journal of Staff Development* v12 n2 1991 p44-46.
- Lombardi, Joan Medical Teachers' Interests in Faculty Development 20 Years Ago and *Journal of School Leadership* v1 n4 1991 p400-09.
- Lowe, Alan A. and others Mentoring and Pretenure Faculty Development. *Journal of Dental Education* v55 n10 1991 p675-78.
- Makay, John J. & Mohan, Mary An Intradisciplinary Perspective, Multiple Methods of Inquiry and Faculty Development: Point of View. *ACA Bulletin* n76 1991 p25-31.
- Marazon, Renee Alda New Plots, New Heroes in Staff Development. *Journal of Staff Development* v12 n1 1991 p18-21.
- Marcelo, Carlos and Others New Roles and Challenges for Staff Development. *Journal of Staff Development* v12 n1 1991 p36-41.
- Marchesani, Linda S. & Adams, Maurianne Nurturing Scholarship through Holistic Faculty Development: A *Journal of Staff Development* v12 n1 1991 p48-51.
- Marciano, Paul L. & Kello, John E. Off We Go Cybernetting-Staff Development Makes the Difference. *Journal of Staff Development* v12 n2 1991 p44-46.
- Marcus, Marianne T. Ongoing Staff Development--Sideways, Bubbly, and Chaotic *Journal of Staff Development* v12 n3 1991 p10-14.
- Marsh, Stephanie R. Online Communities of Practice: A Catalyst for Faculty Development. *Journal of Staff Development* v12 n4 1991 p10-14.
- Marshall, Gail Online Course Delivery: Issues of Faculty Development. *Journal of Staff Development* v12 n4 1991 p34-36.
- Morgan, Barbara E. & Weckmueller, Beth L. Staff Development for the 1990s. *College and University* v67 n1 1991 p81-88.
- Nicholson, James A. and others The Counseling Center Connection: A Staff Development Program for Student Services Personnel. *NASPA Journal* v28 n3 1991 p278-84.
- Owen, Jill Mirman and others Three Roles of Staff Development in Restructuring Schools. *Journal of Staff Development* v12 n3 1991 p10-14.
- Parker, M. Elaine Faculty Development: Essence of Faculty and Institutional Vitality. *Journal of Dental Education* v55 n10 1991 p656-58.
- Penning, Nick Target Staff Development at Classroom, Not University. *School Administrator* v48 n5 1991 p30-31.
- Pisano, Anita & Talerico, Marilyn Staff Development for a Process Approach: A Case Study of Uneven Language Arts v68 n4 1991 p316-21.

- Rossett, Allison and Others Staff Development in Professional Education-Cooperation in a NASPA Journal v28 n3 1991 p278-84.
- Rouseff Baker, Fay Staff Development in Rural Schools through Distance Education. NASPA Journal v28 n4 1991 p292-97.
- Rubeck, Robert F. & Witzke, Donald B. Staff Development in the Southwest's Rural/Small Schools. NASSP Bulletin v75 n536 1991 p1-6.
- Rulon, Dorothy Staff Development in Transition: Benchmarks for Further Education. NASSP Bulletin v75 n536 1991 p16-24.
- Russell, Sharon Staff Development Model: Thematic Units in the Middle Level School. NASSP Bulletin v75 n536 1991 p60-64.
- Sacca, Katherine C. Staff Development on Cooperative Learning Strategies: Concerns and NASSP Bulletin v75 n536 1991 p8-14.
- Sachdeva, Ajit K. Staff Development Opportunities for Teacher Leaders. NASSP Bulletin v75 n536 1991 p88-93.
- Schaefer Fu, Gail & Chase, Michele Team-Teaching as a Form of Staff Development: Or When Are Two Teachers Better than One? Guidelines v13 n2 1991 p81-87.
- Schroff, Mary E. & Bailey, Gerald D. 1991 principals' Views of Staff Development. Journal of Staff Development v12 n4 1991 p34-36.
- Slater, G. R. L. Staff Development Programmes in Universities: A Curriculum Proposal. Higher Education Research and Development v10 n1 1991 p79-91.
- Smylie, Mark A. & Conyers, John G. Changing Conceptions of Teaching Influence the Future of Staff Development. Journal of Staff Development v12 n1 1991 p12-16.
- Stephens, Elaine C. The Cooperative Teaching of Science and History: A Staff Development Reading Improvement v28 n2 1991 p82-88.
- Sykes, Julie The Journal of Staff, Program, & Organizational Development, Volume Rural Educator v12 n2 1991 p9-13.
- Terdy, Dennis The Media Specialist and Staff Development. School Administrator v48 n5 1991 p30-31.
- Todnem, Guy R. & Warner, Michael P. The Role of Faculty Development Programs in Helping Teachers To School Organisation v11 n2 1991 p153-69.
- Weaver Meyers, Pat University Teaching: A Challenge to Staff Development. System v19 n3 1991 p301-08.
- Winn, Deanna D. & Mitchell, Judith P. Improving Reading Instruction through Staff Development. Reading Improvement v28 n2 1991 p82-88.
- Wood, Joan B. & Parham, Iris A. Web-based Staff Development for Early Intervention Personnel. Theory into Practice v30 n2 1991 p91-96.
- Aleamoni, Lawrence M. A Community of Practice: Web Portals and Faculty Development. Academic Medicine v67 n10 1992 p691-93.
- Burnstad, Helen M. Check It Off! A Youth Development Approach to Staff Training. Child Care Information Exchange n84 1992 p55-56.
- Carmon, Myra and others From Anxiety to Action: Facilitating Faculty Development during Curriculum Change. Nursing and Health Care v13 n7 1992 p364-68.
- Chalmers, Robert K. Faculty Development: The Nature and Benefits of Mentoring. American Journal of Pharmaceutical Education v56 n1 1992 p71-74.
- Conrad, Linda Equal Opportunity Officers in Australian Higher Education Institutions: Their Background, Roles and Perceptions of Staff Development Needs. Journal of Tertiary Educational Administration v14 n1 1992 p87-98.
- Elam, Jimmy H. Escaping to Technology-based

- Distributed Faculty Development: A Case Educational Horizons v70 n2 1992 p88-91.
- Ellis, Allan & Phelps, Renata Essentials for Telecommunications Staff Development. Educational Horizons v70 n4 1992 p201-07.
- Fleming, Michael and others A National Model of Faculty Development in Addiction Medicine. Academic Medicine v67 n10 1992 p691-93.
- Gartin, Barbara C. & Digby, Annette Faculty Development and Organizational Systems Behavior. Educational Technology v32 n9 1992 p40-43.
- Gibbons, Siobhan & Kimmel, Howard & O'Shea, Mark Faculty Development and Support Needs of Nurse Practitioner Faculty. Electronic Learning v11 n7 1992 p18-23.
- Goff, Peter and others Quality Staff Development-Delivery and Evaluation: A Case Study of HE-FE Collaboration. Assessment and Evaluation in Higher Education v17 n3 1992 p183-94.
- Guglielmino, Lucy M. Faculty Development in SACS-Accredited Community Colleges. Harvard Educational Review v62 n4 1992 p535-50.
- Hartman, Henry & Crook, Bob Faculty Development through Supplemental Instruction. Higher Education v23 n3 1992 p297-310.
- Henley, Charles E. & Magelssen, David Faculty Development: A Field of Dreams. ICEVH Educator v5 n1 1992 p5-13.
- Hentschel, Doe Faculty Development: An Imperative for the Nineties. Illinois Schools Journal v72 n1 1992 p23-34.
- Hirshberg, Diane Faculty Development and Renewal: Sources and Information. New Directions for Community Colleges v20 n3 1992 p95-101.
- Johnston, Janet Speer & Wilder, Sue LeMaster through Staff Development. Reading Teacher v45 n8 1992 p626-31.
- Kember, David & Gow, Lynn Action Research as a Form of Staff Development in Higher Education. Higher Education v23 n3 1992 p297-310.
- Lee, Margaret B. and others The Critical Literacy Seminar: A Faculty Development and Rejuvenation Strategy. New Directions for Community Colleges v20 n1 1992 p75-81.
- Leiken, Jeff Linking Faculty Development and Curriculum Improvement. Journal of Moral Education v21 n3 1992 p217-24.
- Lobosco, Anna F. & Newman, Dianna L. Teaching Special Needs Populations and Teacher Job Satisfaction: Implications for Teacher Education and Staff Development. Urban Education v27 n1 1992 p21-31.
- Lockwood, Anne Turnbaugh Staff Development for Multicultural Education. Research and the Classroom n2 .
- Lublin, Jacqueline R. Staff Development, Staff Assessment and the Industrial Awards. Higher Education Research and Development v11 n1 1992 p73-83.
- Marchesani, Linda S. & Adams, Maurianne Dynamics of Diversity in the Teaching-Learning Process: A Faculty Development Model for Analysis and Action. New Directions for Teaching and Learning n52 1992 p9-20.
- Marshall, Sherrin Online Professional Development for Academic Staff: Putting the Journal of Staff Development v13 n4 1992 p12-18.
- Martinez, Paul On-Line Professional Staff Development: An Evaluation Study. Journal of Staff Development v13 n4 1992 p16-21.
- Martinez, Paul & Houghton, Julia & Krupska, Marysia Online Staff Development. Journal of Staff Development v13 n4 1992 p34-36.
- Mates, Jessica & Rice, Arva Open University Staff Development Materials for Tutors of Open Journal of Staff Development v13 n4 1992 p42-45.

- Maxwell, William E. & Kazlauskas, Edward J. Which Faculty Development Methods Really Work in Community Colleges? A Review of Research. *Community Junior College Quarterly of Research and Practice* v16 n4 1992 p351-60.
- Nevins, Katherine J. & McNeel, Steven P. Facilitating Student Moral Development through Faculty Development. *Moral Education Forum* v17 n4 1992 p12-18.
- Powell, Loraine A. Keeping It Live: Staff Development as an Essential Part of the Change Process. *Assessment and Evaluation in Higher Education* v17 n2 1992 p153-62.
- Richardson, Virginia The Agenda-Setting Dilemma in a Constructivist Staff Development Process. *Teaching and Teacher Education* v8 n3 1992 p287-300.
- Riner, Mary E. & Billings, Diane M. Staff Development in a Small Rural School District. *Moral Education Forum* v17 n4 1992 p12-18.
- Rossett, Allison and others Repositioning Staff Development through Performance Technology. *Journal of Staff Development* v13 n4 1992 p12-18.
- Sadowski, Lynda L. Staff Development Partnership Smooths Transition to Middle School. *NASSP Bulletin* v76 n540 1992 p56-63.
- Schmitz, Betty and others Creating Multicultural Classrooms: An Experience-Derived Faculty Development Program. *New Directions for Teaching and Learning* 1992 p75-87.
- Skeff, Kelley M. and others Evaluation of a Medical Faculty Development Program: A Comparison of Traditional Pre/Post and Retrospective Pre/Post Self-Assessment Ratings. *Evaluation and the Health Professions* v15 n3 1992 p350-66.
- Smith, George A Categorisation of Models of Staff Development in Higher Education. *British Journal of Educational Technology* v23 n1 1992 p39-47.
- Smith, Nancy & Pickert, Sarah Supervision, Staff Development, and Evaluation Connections. *Nursing and Health Care* v13 n7 1992 p364-68.
- Stephen, Veronica & Varble, Mary Ellen The Agenda-Setting Dilemma in a Constructivist Staff Development Reading Horizons v32 n3 1992 p199-208.
- Stevens, Michael P. The Counseling Center Connection: A Staff Development Program for Reading Improvement v29 n4 1992 p243-44.
- Stone, Fulton and Others The Critical Literacy Seminar: A Faculty Development and Reading Teacher v45 n8 1992 p626-31.
- Storer, John H. & Crosswait, Diana J. The Development of Knowledge and Skills of Academic Staff. *Research and the Classroom* n2 .
- Tafel, Linda & Bertani, Albert Reconceptualizing Staff Development for Systemic Change. *Journal of Staff Development* v13 n4 1992 p42-45.
- Thornton, Leslie J. & McEntee, Mary Elizabeth The New Problem of Staff Development. *School Administrator* v49 n6 1992 p22-23.
- Todnem, Guy R. & Warner, Michael P. The Shadowed Face of Staff Development: Rural Schools. *School Science and Mathematics* v92 n7 1992 p384-91.
- Welch, Marshall and others Empowering Teachers with Strategies for Efficient Learning and Functioning through Video-Assisted Staff Development. *Rural Special Education Quarterly* v11 n3 1992 p35-42.
- Westbrook, Jody M. & Tipping, Sharon R. Improved Site-Based Staff Development through the S.O.S. Program. *Journal of Staff Development* v13 n4 1992 p34-36.
- Winn, Deanna D. & Mitchell, Judith P. Using Staff Development to Create Inclusive Schools. *Teaching and Teacher Education* v8 n3 1992 p287-300.

- Wood, Diane R. Teaching Narratives: A Source for Faculty Development and Evaluation. *Harvard Educational Review* v62 n4 1992 p535-50.
- Yastrow, Sybil Which Faculty Development Methods Really Work in Community Colleges? *Wilson Library Bulletin* v67 n3 1992 p20-21.
- Alfano, Kathleen ERIC Review: Recent Strategies for Faculty and Staff Development. *Community College Review* v21 n1 1993 p68-77.
- Anderson, Mary Alice A Paradigm Shift in Staff Development. *ADFL Bulletin* v24 n3 1993 p52-53.
- Applewhite, Ann Simpson A Shared Vision for Staff Development: Principles, Processes, and Adult Learning v4 n6 1993 p11-14.
- Asayesh, Gelareh Staff Development for Improving Student Outcomes. *Journal of Staff Development* v14 n3 1993 p24-27.
- Ball, Peggy & Morrissey, Sharon Linking Faculty Development and Curriculum Improvement. *Community College Journal of Research and Practice* v17 n4 1993 p343-55.
- Batsche, Catherine N. & Monoson, Patricia A Four-Phase Multidisciplinary Faculty Development Model in Aging. *Educational Gerontology* v19 n6 1993 p551-67.
- Conca, Lydia Demonstrating the Benefits of Staff Development. The QUILT Program *Community College Review* v21 n1 1993 p68-77.
- Crandall, Sonia J. S. & Cacy, Deborah S. Faculty Development: An Individualized Approach. *Journal of Continuing Education in the Health Professions* v13 n4 1993 p261-72.
- Davidson, Neil and others Findings from a NSDC Status Survey of Staff Development and Staff Developers. *Journal of Staff Development* v14 n4 1993 p58-63.
- DeNeef, A. Leigh Right Here Right Now: Where Faculty Development Begins. *Liberal Education* v79 n2 1993 p20-25.
- Dixon, Felicia A. & Willis, Richard & Benedict, John & Gossman, Eugene Effective Approaches to New Faculty Development. *Educational Gerontology* v19 n6 1993 p551-67.
- Fleming, Michael and Others Exploring the Relationship between Staff Development and Educational Leadership v50 n4 1993 p28-33.
- Galland, Paula Faculty Development and Enlightened Self-Interest. *Educational Media International* v30 n2 1993 p78-82.
- Gibbons, Tom Turning Access into Success: Satellite Television. *Staff Development for History-Social Science. Social Studies Review* v33 n1 1993 p4-8.
- Guskey, Thomas R. & Sparks, Dennis Faculty Development in the 1993's: What It Is and Why We Can't Wait. *Higher Education Management* v5 n2 1993 p173-90.
- Herzig, Carl 1993 portfolio Assessment as Faculty Development: The Small-School Context. *Journal of Teaching Writing* v12 n1 1993 p25-31.
- Hixson, Judson Staff Development and the Urban School. The Importance of Context. *Journal of Staff Development* v14 n1 1993 p54-55.
- Killion, Joellen P. Staff Development and Curriculum Development: Two Sides of the Same Coin. *Journal of Staff Development* v14 n1 1993 p38-41.
- Matthews, Robin J. Organisational Approaches to Staff Development To Support Teaching *Journal of Staff Development* v14 n1 1993 p38-41.
- Matthews, Robin J. Using Concerns Data to Design a Staff Development Program. *Journal of Staff Development* v14 n3 1993 p52-55.
- Maxwell, William E. & Kazlauskas, Edward J. Organization of Staff Development--Strategies and Experiences. *Journal of Staff Development* v14 n1 1993 p54-55.

- May, Susan 1993 partnerships in Staff Development: An Institutional Case Study. *Journal of Staff Development* v14 n3 1993 p24-27.
- McAlpine, Lynn & Winer, Laura 1993 part-Time Faculty Development at Johnson County Community College. *Journal of Staff Development* v14 n3 1993 p2-8.
- McConnell, James H. & L'Italien, Patti & Green, Kathy & Burger, Ron 1993 part-Time Faculty Development: What Do We Know and What Can We Use? *Journal of Staff Development* v14 n3 1993 p28-31.
- McKenna, Georgiann 1993 planning Effective Whole Language Staff Development Programs: A *Journal of Staff Development* v14 n3 1993 p32-34.
- McQuarrie, Frank O. & Wood, Fred H. 1993 planning for Faculty Development at a Comprehensive State *Journal of Staff Development* v14 n3 1993 p46-51.
- Meacham, Jack & Ludwig, Jeanette 1993 planning, Implementing a Staff Development Program. *Journal of Staff Development* v14 n3 1993 p52-55.
- Meacham, Jack & Ludwig, Jeannette 1993 portfolio Assessment as Faculty Development: The Small-School *Journal of Staff Development* v14 n4 1993 p52-57.
- Melnick, Steven A. 1993 portrait of a Staff Development Program. *Journal of Staff Development* v14 n4 1993 p58-63.
- Mitchell, Linda and others Designing Successful Learning: Staff Development for Outcome-Based Instruction. *Journal of Staff Development* v14 n3 1993 p28-31.
- Orlich, Donald C. and others Seeking the Link between Student Achievement and Staff Development. *Journal of Staff Development* v14 n3 1993 p2-8.
- Peterman, Dana S. Staff Development and the Urban School. The Importance of Context. *Journal of Teaching Writing* v12 n1 1993 p25-31.
- Popham, W. James Staff Development for Cooperative Learning. *Liberal Education* v79 n2 1993 p20-25.
- Sadowski, Lynda L. Staff Development 101 for Administrators: Alternatives for Thirteen Management Myths. *Journal of Staff Development* v14 n3 1993 p46-51.
- Todnem, Guy R. & Warner, Michael P. The Role of Staff Development in School Restructuring: A Description *School Organisation* v13 n3 1993 p251-53.
- Todnem, Guy & Warner, Michael P. Using ROI to Assess Staff Development Efforts. *Journal of Staff Development* v14 n3 1993 p32-34.
- Todnem, Guy & Warner, Michael P. The Staff Development Programme of the University of Vienna: Basic Schools in the Middle v3 n2 1993 p3-6.
- Vu, T. Robert & Marriott, Deanna J. & Skeff, Kelley M. & Stratos, Three Roles of Staff Development in Restructuring Schools. *Social Studies Review* v33 n1 1993 p4-8.
- Waldinger, Renee Faculty Development and Enlightened Self-Interest. *ADFL Bulletin* v24 n3 1993 p52-53.
- Webber, Charles F. Using Adult Development Theory To Inform Staff Supervision in *Teacher Education Quarterly* v20 n4 1993 p85-96.
- Wheeler, Daniel W. & Queeney, Donna S. A Faculty Development Program for Change and Growth. [and] Leadership Institute for Continuing Professional Education. *Adult Learning* v4 n6 1993 p11-14.
- Wood, Fred H. & Thompson, Steven R. Assumptions about Staff Development Based on Research and Best Practice. *Journal of Staff Development* v14 n4 1993 p52-57.
- Asayesh, Gelareh The Changing Role of Central Office and Its Implications for Staff Development. *Journal of Staff Development* v15 n3 1994 p2-5.
- Asayesh, Gelareh A Systematic Approach to Faculty Development in Women's Health: *American Annals of the Deaf* v139 n5 1994

- p493-99.
- Asayesh, Gelareh Effective Advocacy for Staff Development. *Journal of Staff Development* v15 n1 1994 p52-55.
- Brandt, Ron and others Reflections on 25 Years of Staff Development. *Journal of Staff Development* v15 n4 1994 p2-8.
- Burke, Thomas H. & Randall, Kathleen P. Developing an Organizational Commitment to Employee Success: The Student Affairs Staff Development Model. *College Student Affairs Journal* v13 n2 1994 p73-81.
- Dillon Peterson, Betty E A Staff Development Program in Attention Deficit Hyperactivity Education Canada v34 n4 1994 p40-48.
- DiLorenzo, Thomas M. & Heppner, P. Paul The Role of an Academic Department in Promoting Faculty Development: Recognizing Diversity and Leading to Excellence. *Journal of Counseling and Development* v72 n5 1994 p485-91.
- Doermann, Humphrey Effective Staff Development for Effective Organization Development. *Educational Gerontology* v20 n4 1994 p379-94.
- Gaff, Jerry G. Faculty Development: The New Frontier. *Liberal Education* v80 n4 1994 p16-21.
- Gaff, Jerry G. & Simpson, Ronald D. Faculty Development in the United States. *Innovative Higher Education* v18 n3 1994 p167-76.
- Gallegos, Jack L. Staff Development Strategies That Facilitate a Transition in Educational Paradigms. *Journal of Staff Development* v15 n4 1994 p34-38.
- Goff, Peter and Others Faculty Development and the Community College LRC. *Emergency Librarian* v22 n1 1994 p33.
- Gordon, Deanna & Moles, Margaret Mentoring Becomes Staff Development: A Case of Serendipity. *NASSP Bulletin* v78 n559 1994 p66-70.
- Harnish, Dorothy & Wild, Lynn A. Mentoring Strategies for Faculty Development. *Studies in Higher Education* v19 n2 1994 p191-201.
- Hirshberg, Diane Faculty Development: The Literature. An ERIC Review. *Innovative Higher Education* v18 n3 1994 p167-76.
- Knapczyk, Dennis and others Improving Staff Development in Rural Communities Using Distance Education and Communication Technology. *Rural Special Education Quarterly* v13 n2 1994 p19-24.
- Marshall, Sherrin Faculty Development through Supplemental Instruction. *New Directions for Teaching and Learning* n60 1994 p31-40.
- May, Susan Beyond "Super Secretary" Courses: Revisioning Staff Development in Learning Organizations. *Canadian Journal of University Continuing Education* v20 n2 1994 p45-54.
- Millis, Barbara J. Faculty Development in the 1994's: What It Is and Why We Can't Wait. *Journal of Counseling and Development* v72 n5 1994 p454-64.
- Mills, Rebecca Farris & Pollak, Judy P. 1994 preparing for the Future: Faculty Development Issues in the Year *Journal of Staff Development* v15 n1 1994 p58-59.
- Milone, Michael 1994 preservation Issues for Collection Development Staff. *Journal of Staff Development* v15 n3 1994 p10-13.
- Mintz, Jacqueline A. 1994 preventing Legal Headaches Through Staff Development: Considerations *Journal of Staff Development* v15 n3 1994 p63-64.
- Mitchell, Linda and Others 1994 principals as Staff Developers. "Staff Development Is the Key to *Journal of Staff Development* v15 n4 1994 p12-21.
- Montague, Marjorie & Warger, Cynthia & Harris, Judy 1994 principals' Views of Staff Development. *Journal of Staff Development* v15 n4 1994 p26-29.
- Morahan, Page S. & Gold, Jennifer S. & Bickel, Janet 1994 prioritizing Areas for Faculty Development of Clinical Teachers by *Journal*

- of Staff Development v15 n4 1994 p2-8.
- Morgan, Barbara E. & Weckmueller, Beth L. 1994 problem Solving on the Trail. *Journal of Staff Development* v15 n4 1994 p34-38.
- Morrow, John 1994 project RETRAIN-A Modular Staff Development Delivery System. *Journal of Staff Development* v15 n4 1994 p66-67.
- Nathan, Peter E. Who Should Do Faculty Development and What Should It Be? *Journal of Counseling and Development* v72 n5 1994 p508-09.
- Nowak, Sheryl J. New Roles and Challenges for Staff Development. *Journal of Staff Development* v15 n3 1994 p10-13.
- Olson, Elizabeth A. Methodological Issues in Evaluation of a Faculty Development in Gerontology Program. *Educational Gerontology* v20 n4 1994 p379-94.
- Porter, Bernajean Staff Development for Cultural Diversity: Voices from a Rural Liberal Education v80 n4 1994 p16-21.
- Reich, Jill N. Developing Faculty Development Programs: A View from the Chair. *Journal of Counseling and Development* v72 n5 1994 p511-13.
- Sandy, Leo R. & Meyer, Scott & Goodnough, Gary E. & Rogers, Anissa T. Staff Development Policy Making in the States. *NASSP Bulletin* v78 n559 1994 p66-70.
- Sheets, Kent J. & Schwenk, Thomas L. Staff Development: The Most Crucial Component of Successful New Directions for Higher Education n87 1994 p55-71.
- Sorcinelli, Mary D. Effective Approaches to New Faculty Development. *Journal of Counseling and Development* v72 n5 1994 p474-79.
- Sparks, Dennis A Paradigm Shift in Staff Development. *Journal of Staff Development* v15 n4 1994 p26-29.
- Sparks, Dennis Staff Development Implications of National Board Certification: An Interview with NBPTS's James Smith. *Journal of Staff Development* v15 n1 1994 p58-59.
- St. Clair, Karen L. Faculty-to-Faculty Mentoring in the Community College: An Instructional Component of Faculty Development. *Community College Review* v22 n3 1994 p23-35.
- Sutcliffe, W. G. & Powell, L. A. Can Staff Development in the UK Further Education Sector Meet the Challenge of Flexible Learning? *International Journal of Lifelong Education* v13 n5 1994 p405-11.
- Swain, Mary Ann P. Faculty Development: Responsibility and Accountability within the Departments. *Journal of Counseling and Development* v72 n5 1994 p510.
- Tanner, Brenda and Others The Keys to Effective Staff Development. *Rural Special Education Quarterly* v13 n2 1994 p19-24.
- Todnem, Guy R. & Warner, Michael P. Demonstrating the Benefits of Staff Development. The QUILT Program Assesses Teacher and Student Change. *Journal of Staff Development* v15 n4 1994 p66-67.
- Todnem, Guy & Warner, Michael P. Demonstrating the Benefits of Staff Development. An Interview with Thomas R. Guskey. *Journal of Staff Development* v15 n3 1994 p63-64.
- Wanzare, Zachariah & Ward, Kenneth L. Toward a Cooperative Model of Mathematics Staff Development. *Studies in Higher Education* v19 n2 1994 p191-201.
- Watson, George & Grossman, Louis H. 1994 pursuing a Comprehensive Faculty Development Program: Making Fragmentation Work. *Journal of Counseling and Development* v72 n5 1994 p465-73.
- Webb, Graham From Appraisal Interview to Staff Development Discussion: Practice, Training and Theory. *Journal of Tertiary Educational Administration* v16 n2 1994 p215-24.
- Wheeler, Daniel W. & Queeney, Donna S. Using ROI to Assess Staff Development Efforts. *Teaching and Teacher Education* v10 n2

- 1994 p169-84.
- Wood, Joan B. & Parham, Iris A. What to Consider When Evaluating Staff Development. *Thought and Action* v9 n2 1994 p41-49.
- Yastrow, Sybil A History of the National Staff Development Council--25 Years of Growth and Service. *Journal of Staff Development* v15 n4 1994 p12-21.
- Aleamoni, Lawrence M. A Faculty Development Program for Change and Growth. and Leadership *Academic Medicine* v70 n1 1995 p14-20.
- Arnold, Grace C. Snipper A Staff Development Model to Encourage the Use of Microcomputers in Adult Learning v7 n2 1995 p13-14.
- Arnold, Grace C. Snipper Teacher Dialogues: A Constructivist Model of Staff Development. *Journal of Staff Development* v16 n4 1995 p34-38.
- Baiocco, Sharon A. & DeWaters, Jamie N. Futuristic Faculty Development: A Collegiate Development Network. *Academe* v81 n5 1995 p38-39.
- Bennett, Christene K. A Staff Development Partnership for Technology Integration. *Journal of Staff Development* v16 n3 1995 p19-22.
- Boyd, Enola G. Aspects of Staff Development for Educators of Adults. *Camping Magazine* v67 n3 1995 p38-42.
- Browne, Donna L. & Ritchie, Donn C. Changing Reading and Writing Programs through Staff Development. *Canadian Journal of Higher Education* v25 n1 1995 p41-61.
- Carlson, Patricia A. Collaborative Staff Development. *College and Undergraduate Libraries* v2 n2 1995 p19-29.
- Dempsey, Ian & Arthur, Michael Development of a Geriatric Team: A Staff Development Educational CUPA Journal v46 n1 1995 p11-13.
- Evans, Clyde H. Faculty Development in a Changing Academic Environment. *Academic Medicine* v70 n1 1995 p14-20.
- Fennell, Janice C. Staff Development: The Enduring Investment. *College and Undergraduate Libraries* v2 n2 1995 p19-29.
- Gallegos, Jack L. Faculty Development and Information Literacy: Establishing Campus Educational Studies v21 n2 1995 p167-85.
- Herreid, Clyde Freeman & Kozak, Arnold K. Using Students as Critics in Faculty Development. *Journal on Excellence in College Teaching* v6 n1 1995 p17-29.
- Hixson, Judson Faculty Development: The Nature and Benefits of Mentoring. *Innovative Higher Education* v20 n2 1995 p117-28.
- Hubbard, Glenda T. & Atkins, Sally S. The Professor as a Person: The Role of Faculty Well-Being in Faculty Development. *Innovative Higher Education* v20 n2 1995 p117-28.
- James, Richard In Search of Staff Development: A Study of Academic Staff Appraisal. *Higher Education Research and Development* v14 n2 1995 p185-99.
- Janas, Monica & Gurganus, Susan Staff Development Opportunities for Teacher Leaders. *Journal of Staff Development* v16 n4 1995 p8-12.
- Jones, Glen A. & Geis, George L. Faculty Development Structures and Activities in Ontario's Colleges of Applied Arts and Technology. *Canadian Journal of Higher Education* v25 n1 1995 p41-61.
- Maddox, Mary & Vadasy, Patricia Staff Development for Cultural Diversity: Voices from a Rural Community. *Journal of Staff Development* v16 n1 1995 p40-45.
- Morzinski, Jeffrey A. & Fisher, James C. 1995 promoting Appraisal through an Active Staff Development Programme. *Journal of Staff Development* v16 n1 1995 p40-45.
- Moses, Ingrid 1995 pursuing a Comprehensive Faculty Development Program: Making

- Journal of Staff Development v16 n1 1995 p54-56.
- Moss, Barbara Quality Staff Development-Delivery and Evaluation: A Case Study of Journal of Staff Development v16 n2 1995 p62-64.
- Munger, Linda Job-Embedded Staff Development in Norwalk Schools. Journal of Staff Development v16 n3 1995 p6-12.
- Munger, Linda Reconceptualizing Staff Development for Systemic Change. Journal of Staff Development v16 n2 1995 p8-15.
- Murray, Ian & Savin Baden, Maggi Reflection on the Past, Present, and Future of Staff Development. Journal of Staff Development v16 n3 1995 p19-22.
- Murray, John P. Reforming Teaching and Reforming Staff Development: An Interview Journal of Staff Development v16 n4 1995 p14-19.
- Murray, John P. Repositioning Staff Development through Performance Technology. Journal of Staff Development v16 n4 1995 p28-31.
- Murray, John P. Reflections on 25 Years of Staff Development. Journal of Staff Development v16 n3 1995 p6-12.
- Murray, John P. Reflective Practice, Staff Development and Understanding. Journal of Staff Development v16 n3 1995 p73-75.
- Murray, Rowena & Holmes, Sheena Residence Hall Staff Use of Student Development Theory. Journal of Staff Development v16 n4 1995 p34-38.
- Nathan, Peter E. Resources for Faculty Development in Family Violence. Journal of Staff Development v16 n4 1995 p62-63.
- Neal, Edward, Ed. Rethinking Faculty Development. Journal of Staff Development v16 n4 1995 p8-12.
- Shaner, Michael C. Faculty Development Using the Situational Leadership Model. CUPA Journal v46 n1 1995 p11-13.
- Smith, Nancy & Pickert, Sarah Using Seminars Abroad for Staff Development. Journal of Staff Development v16 n4 1995 p28-31.
- Stone, Fulton and others Staff Development Policy Making in the States. Journal of Staff Development v16 n2 1995 p8-15.
- Strudler, Neal The Future of Faculty Development in Dental Education. Research in the Schools v2 n1 1995 p1-10.
- Tanner, Brenda and others Scheduling Time to Maximize Staff Development Opportunities. Journal of Staff Development v16 n4 1995 p14-19.
- Todnem, Guy R. & Warner, Michael P. Demonstrating the Benefits of Staff Development: Assessment When Beginning a SIP Process. Journal of Staff Development v16 n1 1995 p54-56.
- Todnem, Guy R. & Warner, Michael P. Demonstrating the Benefits of Staff Development. Using Assessment Data in SIP Decision-Making. Journal of Staff Development v16 n2 1995 p62-64.
- Todnem, Guy R. & Warner, Michael P. Demonstrating the Benefits of Staff Development. Assessment for Describing SIP Progress to Stakeholders. Journal of Staff Development v16 n3 1995 p73-75.
- Todnem, Guy R. & Warner, Michael P. Demonstrating the Benefits of Staff Development: Using Technology to Assess the School Improvement Process. Journal of Staff Development v16 n4 1995 p62-63.
- Tomusk, Voldemar The Syndrome of the Holy Degree: Critical Reflections on the Staff Development in Estonian Universities. Higher Education Management v7 n3 1995 p385-97.
- Van Note Chism, Nancy & Lees, N. Douglas & Evenbeck, Scott The University of Newcastle Upon Tyne Library Staff Development Schools in the Middle v4 n4 1995 p23-26.
- Waldinger, Renee Total Staff Development: Do Not Begin Dropout Prevention Without It. Studies in Continuing Education v17 n1-2

- 1995 p70-77.
- Weber, Margaret J. and others Investment in Faculty Development Pays Dividends for Higher Education. *Journal of Family and Consumer Sciences* v87 n1 1995 p27-31.
- Winters, Sharon Using Video for Reference Staff Training and Development: A Technology & Learning v16 n1 1995 p44-49.
- Bender, William N. and others Using Distance Learning in Staff Development. *Journal of Staff Development* v17 n4 1996 p52-55.
- Beninghof, Anne M. Using a Spectrum of Staff Development Activities to Support Inclusion. *Journal of Staff Development* v17 n3 1996 p12-15.
- Conca, Lydia Evaluation Frames: A Powerful Staff Development Tool for Teacher-Centered School Improvement. *Journal of Staff Development* v17 n3 1996 p40-44.
- Ditter, Bob Education-Practice Partnerships: Faculty Practice as Faculty *Educational Forum* v60 n3 1996 p260-66.
- Dotolo, Lawrence G. Effects of DBAE Staff Development on Teaching Art in Alaska. *Educational Gerontology* v22 n1 1996 p105-15.
- Duckett, Ian Eight Steps to Success: Technology Staff Development That Works. *Educational Gerontology* v22 n1 1996 p117-40.
- Duke, Daniel Electronic Reserve--A Staff Development Opportunity. *Educational Gerontology* v22 n1 1996 p37-52.
- Duplass, James A. Engineering Faculty Development: Getting the Sermon beyond the *Educational Gerontology* v22 n1 1996 p79-91.
- Dyrli, Odvard Egil Enhancing Faculty Development at Tribal Colleges. *Educational Gerontology* v22 n1 1996 p9-36.
- Elam, Jimmy H. Faculty Development Programs for Optometric Educators. *Optometric Education* v21 n4 1996 p114-16.
- Ellis, Susan S. 1996 principals as Staff Developers. "Staff Development Is the Key to School Reform": An Interview with Efrain Vila. *Journal of Staff Development* v17 n1 1996 p52-54.
- Foote, Elizabeth Facilitating Student Moral Development through Faculty Development. *Educational Leadership* v53 n6 1996 p68-71.
- Foote, Elizabeth Faculty Development in Community Colleges. *Community College Journal of Research and Practice* v20 n1 1996 p89-93.
- Gibbons, Tom Faculty Development and Teaching: A Holistic Approach. *Electronic Learning* v16 n1 1996 p32-35.
- Guskey, Thomas R. & Sparks, Dennis Exploring the Relationship between Staff Development and Improvements in Student Learning. *Journal of Staff Development* v17 n4 1996 p34-38.
- Gwele, N. S. Faculty Development in the Integration of Technology in Teacher Higher Education Management v8 n2 1996 p19-27.
- Harnish, Dorothy & Wild, Lynn A. Faculty Development in the United States. *Higher Education Management* v8 n2 1996 p53-58.
- Henderson, Nancy Motivating Your Development Staff. *Currents* v22 n2 1996 p30-34.
- Hodges, Maria and Others Faculty Development: The New Frontier. *Innovative Higher Education* v21 n2 1996 p101-11.
- Hodges, Maria and others Strengthening Gerontological Social Work through Faculty Development. *Educational Gerontology* v22 n1 1996 p37-52.
- Janas, Monica Mentoring the Mentor: A Challenge for Staff Development. *Journal of Staff Development* v17 n4 1996 p2-5.
- Joyce, Bruce & Showers, Beverly Staff Development as a Comprehensive Service

- Organization. *Journal of Staff Development* v17 n1 1996 p2-6.
- Karnes, Frances A. & Lewis, Joan D. Staff Development through Videotapes in Gifted Education. *Roeper Review* v19 n2 1996 p106-10.
- Kember, David & McKay, Jan Action Research into the Quality of Student Learning: A Paradigm for Faculty Development. *Journal of Higher Education* v67 n5 1996 p528-54.
- Kovic, Suzanne 1996 peer Coaching to Facilitate Inclusion: A Job-Embedded Staff Development Model. *Journal of Staff Development* v17 n1 1996 p28-31.
- Lenze, Lisa Firing Discipline-Specific Faculty Development. *NEA Higher Education Research Center Update* v2 n3 .
- Liuhanen, Anna Maija Human Resources and Staff Development as Part of an Institutional Evaluation: The Case of Oulu. *Higher Education Management* v8 n2 1996 p19-27.
- Long, Kaye Secondary Instructional Specialists Provide On-Site Staff Development. *Journal of Staff Development* v17 n4 1996 p18-22.
- MacGilchrist, Barbara Linking Staff Development with Children's Learning. *Educational Leadership* v53 n6 1996 p68-71.
- Malarz, Lynn Using Staff Development to Create Inclusive Schools. *Journal of Staff Development* v17 n3 1996 p8-11.
- Mehrotra, Chandra M. Enhancing Undergraduate Education in Psychology of Aging through Faculty Development. *Educational Gerontology* v22 n1 1996 p1-7.
- Morrow, John The University of Newcastle Upon Tyne Library Staff Development Policy. 1996 personnel, Training and Education v13 n3 1996 p6-8.
- Neely, Katherine L. Patterson & Stifel, Elizabeth N. & Milberg, Rethinking Staff Development in Kenya: Agenda for the Twenty-first *Journal of Staff Development* v17 n1 1996 p2-6.
- Nellis, Patrick & Hosman, David & King, Jeffrey M. & Armstead, Retired Scientists are "TOPS" for Science Staff Development. *Journal of Staff Development* v17 n1 1996 p52-54.
- Nevins, Katherine J. & McNeel, Steven P. Revolutionizing Multicultural Education Staff Development: Factor *Journal of Staff Development* v17 n3 1996 p12-15.
- Newmann, Fred M. and Others Right Here Right Now: Where Faculty Development Begins. *Journal of Staff Development* v17 n3 1996 p26-30.
- Nicholson, James A. and Others Role of Community College Department Chairs in Faculty Development. *Journal of Staff Development* v17 n3 1996 p40-44.
- Nies, Joyce I. Scheduling Time to Maximize Staff Development Opportunities. *Journal of Staff Development* v17 n3 1996 p8-11.
- Nowak, Sheryl J. School Climate and Staff Development: Keys to School Reform. *Journal of Staff Development* v17 n4 1996 p2-5.
- O'Bannon, Blanche & Matthew, Kathryn I. & Thomas, Lajeane School Context Dimensions That Affect Staff Development. *Journal of Staff Development* v17 n4 1996 p34-38.
- Olson, Elizabeth A. School-Based Staff Development to Encourage Reading in Elementary *Journal of Staff Development* v17 n4 1996 p52-55.
- Orlich, Donald C. and Others Secrets of Staff Development Support. *Journal of Staff Development* v17 n4 1996 p60-62.
- Pankake, Anita M. & Palmer, Barbara Making the Connections: Linking Staff Development Interventions to Implementation of Full Inclusion. *Journal of Staff Development* v17 n3 1996 p26-30.
- Pellert, Ada The Staff Development Programme of the University of Vienna: Basic Features, Problems and Perspectives. *Higher Education Management* v8 n2 1996 p53-58.

- Phillips, Marion & Stevens, Valda Gathering Student Feedback as an Aid to Staff Development. *Open Learning* v11 n3 1996 p38-40.
- Pittas, Peggy A. Staff Development for Cooperative Learning in Mathematics. *Learning* v24 n6 1996 p27-30.
- Ross, Hamish The Management of Staff Development in Scottish Secondary Education: 1975 to 1996. *Scottish Educational Review* v28 n1 1996 p37-49.
- Saunders, Danny & Hamilton, Derek Staff Development Practices in Schools Demonstrating Significant NASSP Bulletin v80 n582 1996 p99-105.
- Scott, Denise C. & Weeks, Patricia A. Collaborative Staff Development. *Innovative Higher Education* v21 n2 1996 p101-11.
- Shay, Kenneth and others The Wisconsin Approach to Faculty Development in Geriatric Dentistry and the Duke Approach to Faculty Development in Geriatric Medicine. *Educational Gerontology* v22 n1 1996 p9-36.
- Smith, Steven Systemic Staff Development Improves Student Achievement. *Open Learning* v11 n3 1996 p38-40.
- Sorcinelli, Mary D. Target Staff Development at Classroom, Not University. *Optometric Education* v21 n4 1996 p114-16.
- Spain, Viki Kappel Teacher Dialogues: A Constructivist Model of Staff Development. 1996 personnel .
- Tierney, William G. and others Enhancing Faculty Development at Tribal Colleges. *Tribal College* v7 n3 1996 p36-39.
- Vojtek, Rosie O'Brien & Vojtek, Bob Thoughtful Education: Staff Development for the 1990s. *Scottish Educational Review* v28 n1 1996 p37-49.
- Vojtek, Rosie O'Brien & Vojtek, Bob Technology in Staff Development. "Net"working: Staff Development Online. *Journal of Staff Development* v17 n4 1996 p60-62.
- Woelfel, Kay D. Utility of Concerns-based Staff Development in Facilitating Technology & Learning v17 n3 1996 p7-8.
- Wood, Joan B. & Parham, Iris A. Distance Learning: Videoconferences as Vehicles for Faculty Development in Gerontology/Geriatrics. *Educational Gerontology* v22 n1 1996 p105-15.
- Wood, Joan B. & Parham, Iris A. Evaluation of an Interdisciplinary Faculty Development Program in Geriatrics. *Educational Gerontology* v22 n1 1996 p117-40.
- Woodell, Jim & Garofoli, Elaine What Works in Staff Development. *Tribal College* v7 n3 1996 p36-39.
- Yeo, Gwen and others Faculty Development in Ethnogeriatrics. *Educational Gerontology* v22 n1 1996 p79-91.
- Albright, Cheryl L. Resources for Faculty Development in Family Violence. *Academic Medicine* v72 n1 1997 pS93-S101.
- Aleamoni, Lawrence M. Issues in Linking Instructional-Improvement Research to Faculty Development in Higher Education. *Journal of Personnel Evaluation in Education* v11 n1 1997 p31-37.
- Alexander, Linda & Newsom, Ron A Four-Phase Multidisciplinary Faculty Development Model in Aging. *Academic Medicine* v72 n1 1997 pS93-S101.
- Alfano, Kathleen A History of the National Staff Development Council--25 Years of *Academic Medicine* v72 n10 1997 pS7-S9.
- Allen, Bobbie M. A Look at the Supervisor-Employee Relationship: How a Supervisor's *Academic Medicine* v72 n12 1997 p1072-75.
- Anderson, William A. & Carline, Jan D. & Ambrozy, Donna M. & Irby, David M. Faculty Development for Ambulatory Care Education. *Academic Medicine* v72 n12 1997 p1072-75.
- Beninghof, Anne M. Adding Another Piece to the Staff Development Puzzle: Some Products

- Australian Library Journal v46 n3 1997 p314-21.
- Borko, Hilda New Forms of Classroom Assessment: Implications for Staff Development. Theory into Practice v36 n4 1997 p231-38.
- Browell, Sue Staff Development in Professional Education: Cooperation in a Competitive Environment. A Case Study from the UK. Industry and Higher Education v11 n6 1997 p383-87.
- Caldwell, Elizabeth Ann & Sorcinelli, Mary Deane The Role of Faculty Development Programs in Helping Teachers To Improve Student Learning through Writing. New Directions for Teaching and Learning n69 1997 p141-49.
- Crow, Cal Cooperative Education in the New Millennium: Implications for Faculty Development. Cooperative Education Experience 1997 p1-5.
- Garvie, Janet L. Faculty Development and Renewal: Sources and Information. Educational Technology v37 n4 1997 p46-49.
- Gelula, Mark H. & Foley, Richard P. Medical Teachers' Interests in Faculty Development 20 Years Ago and Today. Medical Teacher v19 n4 1997 p293-94.
- Hartman, Henry & Crook, Bob Faculty Development Videoconferences: What We Have Learned. T.H.E. Journal v24 n8 1997 p69-72.
- Herreid, Clyde Freeman & Kozak, Arnold K. Faculty Development: Essence of Faculty and Institutional Vitality. Industry and Higher Education v11 n6 1997 p383-87.
- Hilliard, Asa III The Structure of Valid Staff Development. Journal of Staff Development v18 n2 1997 p28-34.
- Jackson, Jan Staff Development in the Continuing Education Environment. Journal of Continuing Higher Education v45 n1 1997 p22-26.
- Kolmos, Anette & Rump, Camilla & Ingemarsson, Ingemar & Laloux, Issues in Linking Instructional-Improvement Research to Faculty Journal of General Education v46 n3 1997 p169-83.
- Lawrence, Betty Hurley Online Course Delivery: Issues of Faculty Development. Journal of Educational Technology Systems v25 n2 1997 p127-31.
- Marcus, Marianne T. Faculty Development and Curricular Change: A Process and Outcomes Model for Substance Abuse Education. Journal of Professional Nursing v13 n3 1997 p168-77.
- Meacham, Jack & Ludwig, Jeannette Faculty and Students at the Center: Faculty Development for General Education Courses. Journal of General Education v46 n3 1997 p169-83.
- Murray, Rowena & Holmes, Sheena 1997 partnerships in Staff Development: An Institutional Case Study. Studies in Higher Education v22 n1 1997 p67-82.
- Neal, Edward, ed. The Journal of Staff, Program, & Organization Development, Volume 14, Numbers 1-4, 1997-97. New Forums Faculty Development Series. Journal of Staff, Program, and Organization Development v14 n1-4 .
- Orsmond, Paul & Stiles, Mark Seeking the Link between Student Achievement and Staff Development. Journal of Staff Development v18 n1 1997 p12-15.
- Osborn, Rick Self-Perceived Needs for Faculty Development at Canadian Dental Journal of Staff Development v18 n1 1997 p22-27.
- Otwell, Patricia S. & Mullis, Fran Setting the Stage with Good Design (Staff Development). Journal of Staff Development v18 n1 1997 p46-50.
- Owen, Jill Mirman and Others Small Group Dynamics as a Catalyst for Change: A Faculty Development Journal of Staff Development v18 n2 1997 p28-34.
- Pack, Judith A. & Knight, Michael E. Smart Use of Time and Money Enhances Staff

- Development. *Journal of Staff Development* v18 n4 1997 p20-23.
- Pankake, Anita M. & Palmer, Barbara Some Final Thoughts about Staff Development. *Journal of Staff Development* v18 n4 1997 p6-10.
- Quick, Don & Davies, Timothy Gray Staff Development for Multicultural Education. *Library Mosaics* v8 n6 1997 p8-10.
- Quirk, Mark & Lasser, Daniel & Domino, Frank & Chuman, Alan & Staff Development for Providers of School-Age Child Care. *Medical Teacher* v19 n4 1997 p275-84.
- Redding, John C. & Kamm, Richard M. Staff Development for Rural Middle Schools through Regional Medical Teacher v19 n4 1997 p293-94.
- Rice, Dale & Stacey, Kathleen Small Group Dynamics as a Catalyst for Change: A Faculty Development Model for Academic Service-Learning. *Michigan Journal of Community Service Learning* v4 1997 p64-71.
- Richardson, Joan Smart Use of Time and Money Enhances Staff Development. *Journal of Staff Development* v18 n1 1997 p46-50.
- Rushin, John W. and others Graduate Teaching Assistant Training: A Basis for Improvement of College Biology Teaching and Faculty Development. *American Biology Teacher* v59 n2 1997 p86-90.
- Schaefer Fu, Gail & Chase, Michele Staff Development Programmes in Universities: A Curriculum Proposal. *NASSP Bulletin* v81 n586 1997 p112-16.
- Schaffer, Eugene C. and Others Staff Development Programs Based on Teacher Choice: Insights from NASSP Bulletin v81 n593 1997 p86-92.
- Schwartz, Katherine A. Effects of DBAE Staff Development on Teaching Art in Alaska. *Visual Arts Research* v23 n2 1997 p63-70.
- Smith, Robyn Electronic Reserve--A Staff Development Opportunity. *Australian Library Journal* v46 n3 1997 p314-21.
- Sparks, Dennis Reforming Teaching and Reforming Staff Development: An Interview with Susan Loucks-Horsley. *Journal of Staff Development* v18 n4 1997 p20-23.
- Sykes, Julie Staff Development University Style: Creating a Win-Win Situation. *Technology Connection* v4 n6 1997 p8-9.
- Vu, T. Robert & Marriott, Deanna J. & Skeff, Kelley M. & Stratos, Georgette A. & Litzelman, Debra K. 1997 prioritizing Areas for Faculty Development of Clinical Teachers by Using Student Evaluations for Evidence-Based Decisions. *Academic Medicine* v72 n10 1997 pS7-S9.
- Washington, Kenneth R. Training and Staff Development in Early Childhood Education: Beneath Studies in Higher Education v22 n1 1997 p67-82.
- Webb, Graham Urban Missions Mini-Grants as Faculty Development Tools. *T.H.E. Journal* v24 n8 1997 p69-72.
- Welch, Frances C. & Daniel, Cherry Staff Development for Classified Staff: One School District's Approach. *Journal of Staff Development* v18 n1 1997 p12-15.
- Wilson, Judi Retired Scientists are "TOPS" for Science Staff Development. *Journal of Staff Development* v18 n4 1997 p6-10.
- Wood, Diane R. Viewing for Self-Study and Staff Development. *Technology Connection* v4 n6 1997 p8-9.
- Alexander, Linda & Newsom, Ron Internet Listservs: A Follow-Up to Faculty Development at Two-Year Colleges. *Community College Review* v25 n4 1998 p61-74.
- Amey, Marilyn J. A Model for Staff Development in Student Affairs. *Academic Medicine* v73 n9 1998 pS32-S37.
- Bryan, William A. & Schwartz, Robert A. Some Final Thoughts about Staff Development. *New Directions for Student Services* n84 1998 p95-100.

- Conway, James A. Demonstrating the Benefits of Staff Development. Using Assessment
Community College Review v25 n4 1998
p61-74.
- Dwyer, Judith A. & Zech, Charles E. American Catholic Higher Education: An ACCU Study on Mission and Identity, Faculty Development, and Curricular Revision. Current Issues in Catholic Higher Education v19 n1 1998
p3-32.
- Friesen, Kay Factors Affecting Departmental Peer Collaboration for Faculty Educational Leadership v55 n5 1998 p75-76.
- Fulton, Carol & Licklider, Barbara L. & Schnelker, Diane L. Revisioning Faculty Development: Improving Teaching and Learning. Journal of Staff, Program and Organizational Development v15 n1 1998
p17-28.
- Gillespie, Kay Herr Using Technology in Faculty Development: Practical Examples. New Directions for Teaching and Learning n76 1998 p79-92.
- Grace Odeleye, Beverlyn A Model for Staff Development in Student Affairs. New Directions for Student Services n84 1998
p83-93.
- Grealy, Deborah and Others Faculty Development in Community Colleges. FE Matters v2 n8 .
- Hudson Ross, Sally A Discipline-Based Professional Development Faculty: A Case for Multiple-Site Collaborative Reform in the Disciplines. Journal of Teacher Education v49 n4 1998 p266-75.
- Iannuzzi, Patricia Faculty Development and Information Literacy: Establishing Campus Partnerships. RSR: Reference Services Review v26 n3-4 1998 p97-102.
- Johnson, Jerry C. & Jayadevappa, Ravishankar & Taylor, Lynne & Askew, Anthony & Williams, Beverly & Johnson, Bernett Extending the Pipeline for Minority Physicians: A Comprehensive Program for Minority Faculty Development. Academic Medicine v73 n3 1998 p237-44.
- Jones, Janet L. Master Learners: Faculty Development & the Enhancement of Undergraduate Education. Liberal Education v84 n1 1998 p42-47.
- Licklider, Barbara L. & Fulton, Carol & Schnelker, Diane L. Revisioning Faculty Development for Changing Times: The Foundation and Framework. Journal of Staff, Program and Organizational Development v15 n3 1998 p121-33.
- Martinez, Paul & Houghton, Julia & Krupska, Marysia Staff Development for Student Retention in Further and Adult Education. FE Matters v2 n8 .
- Murray, John P. Faculty Development in New York Two-Year Colleges. Community College Journal of Research and Practice v22 n1 1998 p53-66.
- O'Bannon, Blanche & Matthew, Kathryn I. & Thomas, Lajeane Faculty Development: Key to the Integration of Technology in Teacher Preparation. Journal of Computing in Teacher Education v14 n4 1998 p7-11.
- Powell, Gwynn M. Staff Development for Desegregated Schooling. Liberal Education v84 n1 1998 p42-47.
- Quirk, Mark E. & DeWitt, Thomas & Lasser, Daniel & Huppert, Michael & Hunniwell, Elliot Evaluation of Primary Care Futures: A Faculty Development Program for Community Health Center Preceptors. Academic Medicine v73 n6 1998 p705-07.
- Robinson, Shari Staff Development in Information Technology for Special Needs: A MultiMedia Schools v5 n1 1998 p16-19.
- Rubeck, Robert F. & Witzke, Donald B. Faculty Development: A Field of Dreams. Academic Medicine v73 n9 1998 pS32-S37.
- Schmeltzer, Tom Staff Development Recognizes the Value of Each Teacher, or Please NASSP Bulletin v82 n602 1998 p35-42.
- Sherer, Pamela D. & Shea, Timothy P. & Kristensen, Eric Staff Evaluation and Development: An Integrated Model. New Directions for Student Services n84 1998

- p29-42.
- Shibley, Ivan A. Staff Involvement in a Site-Based Curriculum Development Model. *New Directions for Student Services* n84 1998 p83-93.
- Short, Paula Myrick & Jones, Ron Staff Supervision and Professional Development: An Integrated New Directions for Student Services n84 1998 p95-100.
- Shroyer, M. Gail Staff Training and Development in Academic Organizations. *New Directions for Student Services* n84 1998.
- Skeff, Kelley M. & Stratos, Georgette A. & Bergen, Merlynn R. & Regula, Donald P., jr. A Pilot Study of Faculty Development for Basic Science Teachers. *Academic Medicine* v73 n6 1998 p701-04.
- Sprague, Debra & Kopfman, Kimberly & Dorsey, Sandi de Levante Faculty Development in the Integration of Technology in Teacher Education Courses. *Journal of Computing in Teacher Education* v14 n2 1998 p24-28.
- Taber, Lynn Sullivan Faculty Development for Instructional Technology: A Priority for the New Millennium. *Journal of Staff, Program and Organizational Development* v15 n4 1998 p159-74.
- Todnem, Guy R. & Warner, Michael P. The Role and Benefits of the Sabbatical Leave in Faculty Development *School Community Journal* v8 n2 1998 p73-79.
- Ukaga, Okechukwu & Ebomoyi, William Faculty Development: A Comprehensive Program for Foreign Professors. *Journal of Staff, Program and Organizational Development* v15 n2 1998 p77-84.
- Van Note Chism, Nancy & Szabo, Borbala How Faculty Development Programs Evaluate Their Services. *Journal of Staff, Program and Organizational Development* v15 n2 1998 p55-62.
- Wilkerson, LuAnn & Irby, David M. Strategies for Improving Teaching Practices: A Comprehensive Approach to Faculty Development. *Academic Medicine* v73 n4 1998 p387-96.
- Zlotkowski, Edward A Service Learning Approach to Faculty Development. *New Directions for Teaching and Learning* n73 1998 p81-89.
- AmeY, Marilyn J. Faculty Development: Looking Towards the 21st Century. *Journal of Applied Research in the Community College* v7 n1 1999 p39-48.
- Batsche, Catherine N. & Monoson, Patricia AASA Honors Leaders in Staff Development, Educational Research. *ATEA Journal* v26 n3 1999 p8-12.
- Christie, Roberta A. & Ragans, Sherrill W. Beyond Borders: A Model for Student and Staff Development. *New Directions for Student Services* n86 1999 p79-87.
- Cohen, Peter A. Delivering Staff Development to the Small Rural School. *Community College Journal* v70 n2 1999 p24-30.
- Cooley, Van E. & Thompson, Jay C., Jr. Demonstrating the Benefits of Staff Development: Assessment When *Community College Review* v27 n3 1999 p47-64.
- de Leeuw, Howard & Standard, Susan Developing Effective Staff Development Programs. *Continuing Higher Education Review* v63 1999 p80-86.
- Dotolo, Lawrence G. Faculty Development: Working Together To Improve Teaching and Learning. *New Directions for Higher Education* v27 n2 1999 p51-57.
- Dukes, Lyman L., III & Shaw, Stan F. 1999 postsecondary Disability Personnel: Professional Standards and Staff Development. *Journal of Developmental Education* v23 n1 1999 p26-31.
- Fidler, Paul P. & Neururer Rotholz, Julie & Richardson, Sharon Teaching the Freshman Seminar: Its Effectiveness in Promoting Faculty Development. *Journal of the First Year Experience and Students in Transition* v11 n2 1999 p59-74.
- Grant, Mary Rose & Keim, Marybelle C. Faculty

- Development in Community Colleges. FE Matters v2 n11 .
- Jones, Teddy & Norton, Darlene Faculty Development and Support Needs of Nurse Practitioner Faculty. Nursing Outlook v47 n5 1999 p209-18.
- Langley, Anne & Perkins, Isabel Open University Staff Development Materials for Tutors of Open Learning. Open Learning v14 n2 1999 p44-52.
- Leitzel, Thomas Linking Staff Development with Children's Learning. Journal of Nursing Education v38 n9 1999 p427-29.
- Lisi, Penelope L. & Howe, William A. Supporting Teachers in Becoming Multicultural Educators: A Model Staff Development Program. MultiCultural Review v8 n3 1999 p30-40.
- Mann, Edward Utilizing Organizational Career Development Techniques for Faculty Development. ATEA Journal v26 n3 1999 p8-12.
- Martinez, Paul Staff Development in Transition: Benchmarks for Further Education. FE Matters v2 n11 .
- Mintz, Jacqueline A. Faculty Development and Teaching: A Holistic Approach. Liberal Education v85 n2 1999 p32-37.
- Murray, John P. Faculty Development in a National Sample of Community Colleges. Community College Review v27 n3 1999 p47-64.
- Obers, Bethany A Decade of Experience: Data from the Council on International Educational Exchange's International Faculty Development Seminars. Journal of Studies in International Education v3 n2 1999 p73-88.
- Petrisko, Mary Ellen Faculty Development for Part-Time Faculty in Workforce Development Programs. Continuing Higher Education Review v63 1999 p80-86.
- Powell, Loraine A. Staff Development for Higher Order Thinking: A Synthesis of Liberal Education v85 n2 1999 p32-37.
- Quick, Don & Davies, Timothy Gray Community College Faculty Development: Bringing Technology into Instruction. Community College Journal of Research and Practice v23 n7 1999 p641-653.
- Riner, Mary E. & Billings, Diane M. Faculty Development for Teaching in a Changing Health Care Environment: A Statewide Needs Assessment. Journal of Nursing Education v38 n9 1999 p427-29.
- Roever, James E. Staff Development in Light of Maslow's Theory. MultiMedia Schools v6 n2 1999 p36-40.
- Rowe, Drew Teaching with Technology: A Faculty Development Approach. Community College Journal v70 n2 1999 p24-30.
- Saunders, Danny & Hamilton, Derek A Twinning Model for Staff Development in Higher Education. Innovations in Education and Training International v36 n2 1999 p118-27.
- Schmitz, Betty and Others Staff Development Resolutions for the Next Millennium. NASSP Bulletin v83 n604 1999 p28-31.
- Schroff, Mary E. & Bailey, Gerald D. Staff Development Strategies That Facilitate a Transition in NASSP Bulletin v83 n605 1999 p49-54.
- Sideris, Eva C. & Skau, Kathryn G. Staff Training and Development Programs. New Directions for Student Services n86 1999 p79-87.
- Smith, Robyn Sustainable Faculty Development: An Indonesian Case Study. Nursing Outlook v47 n5 1999 p209-18.
- Solomon, Jesse and Others Tailoring Staff Development to Meet Campus Needs. Open Learning v14 n2 1999 p44-52.
- Tafel, Linda & Bertani, Albert The Just Community: A Method for Staff Development. Rural Educator v20 n3 1999 p10-13.
- Wolinsky, Art Utilizing Organizational Career Development Techniques for Faculty Technology & Learning v20 n3 1999

- p54-56.
- Amstutz, Donna D. A Model Program from the Perspective of Faculty Development. *Academic Medicine* v75 n11 2000 p1095-1101.
- Anders, Patricia L. & Richardson, Virginia A National Model of Faculty Development in Addiction Medicine. *Academic Medicine* v75 n5 2000 p498-501.
- Anderson, Carol L. & Gore, Jane S. A Nationwide Study of the Influence of Faculty Development Programs. *Academic Medicine* v75 n7 2000 pS35-42.
- Baiocco, Sharon A. & DeWaters, Jamie N. A Tool for Meaningful Staff Development. *American Language Review* v4 n1 2000 p32-33.
- Ballantyne, Roy & Borthwick, Jill & Packer, Jan Beyond Student Evaluation of Teaching: Identifying and Addressing Academic Staff Development Needs. *Assessment and Evaluation in Higher Education* v25 n3 2000 p221-36.
- Beitz, Janice M. & Heinzer, Marjorie M. Faculty Practice in Joint Appointments: Implications for Nursing Staff Development. *Journal of Continuing Education in Nursing* v31 n5 2000 p232-37.
- Browell, Sue Staff Development and Professional Education: A Cooperative Model. *Journal of Workplace Learning: Employee Counselling Today* v12 n2 2000 p57-65.
- Camblin, Lanthan D. & Steger, Joseph A. Rethinking Faculty Development. *Higher Education* v39 n1 2000 p1-18.
- de Leeuw, Howard & Standard, Susan Staff Development: The Most Crucial Component of Successful Inclusion. *American Language Review* v4 n1 2000 p32-33.
- Ditter, Bob Effective Advocacy for Staff Development. *Educational Forum* v64 n2 2000 p124-32.
- Ellis, Allan & Phelps, Renata Staff Development for Online Delivery: A Collaborative, Team Based Action Learning Model. *Australian Journal of Educational Technology* v16 n1 2000 p26-44.
- Fritz, Janet J. and Others Faculty and Students at the Center: Faculty Development for General Educational Leadership. *Journal of Staff, Program, and Organization Development* v17 n4 2000 p229-39.
- Gordon, George Coherent Pathways? Lessons and Issues from, and for, Faculty Development. *Journal of Staff, Program, and Organization Development* v17 n4 2000 p229-39.
- Hash, Vickie Faculty Development Using the Situational Leadership Model. *Higher Education* v39 n1 2000 p1-18.
- Hegarty, John & Bostock, Stephen & Collins, Dave Staff Development in Information Technology for Special Needs: A New, Distance-Learning Course at Keele University. *British Journal of Educational Technology* v31 n3 2000 p199-212.
- Hegarty, John & Bostock, Stephen & Collins, Dave Faculty Development Videoconferences: What We Have Learned. *Higher Education* v40 n1 2000 p23-52.
- Hewson, Mariana G. A Theory-based Faculty Development Program for Clinician-Educators. *Academic Medicine* v75 n5 2000 p498-501.
- Hodgman, Eileen Callahan Faculty Development: Working Together To Improve Teaching and Innovative Higher Education. *Higher Education* v25 n2 2000 p97-110.
- Karchmer, Rachel A. Understanding Teachers' Perspectives of Internet Use in the Classroom: Implications for Teacher Education and Staff Development. *Reading and Writing Quarterly: Overcoming Learning Difficulties* v16 n1 2000 p81-85.
- Lawler, Patricia A. & King, Kathleen P. Faculty Development: Leadership Strategies for Success. *Journal of Continuing Higher Education* v48 n2 2000 p12-20.
- Lehmann, Jean P. & Hyatt, Jacque 2000 partners in Transition: Facilitating Educator-Directed Staff Development. *Journal for Vocational Special Needs Education* v22

- n3 2000 p6-13.
- MacPherson, Reynold J. S. Escaping to Technology-based Distributed Faculty Development: A Case for Reforming Professional Development in a Knowledge Organization. *International Journal of Leadership in Education* v3 n3 2000 p275-91.
- Murray, Ian & Savin Baden, Maggi Staff Development in Problem-based Learning. *Teaching in Higher Education* v5 n1 2000 p107-126.
- Murray, John P. Faculty Development in Texas Two-Year Colleges. *Community College Journal of Research and Practice* v24 n4 2000 p251-267.
- Neely, Katherine L. Patterson & Stifel, Elizabeth N. & Milberg, Laurel C. A Systematic Approach to Faculty Development in Women's Health: Lessons from Education, Feminism, and Conflict Theory. *Academic Medicine* v75 n11 2000 p1095-1101.
- Pittas, Peggy A. A Model Program from the Perspective of Faculty Development. *Innovative Higher Education* v25 n2 2000 p97-110.
- Quinlan, Kathleen M. & Akerlind, Gerlese S. Factors Affecting Departmental Peer Collaboration for Faculty Development: Two Cases in Context. *Higher Education* v40 n1 2000 p23-52.
- Ross, Hamish Staff Development in Problem-based Learning. *MultiMedia Schools* v7 n1 2000 p24-27.
- Sachdeva, Ajit K. Faculty Development and Support Needed To Integrate the Learning of Prevention in the Curricula of Medical Schools. *Academic Medicine* v75 n7 2000 pS35-42.
- Sandy, Leo R. & Meyer, Scott & Goodnough, Gary E. & Rogers, Anissa T. Faculty Perceptions of the Importance of Pedagogy as Faculty Development. *Journal of Staff, Program, and Organizational Development* v17 n1 2000 p39-50.
- Sima, Celina M. The Role and Benefits of the Sabbatical Leave in Faculty Development and Satisfaction. *New Directions for Institutional Research* v27 n1 2000 p67-75.
- Stone, James C. The Current State of Faculty Development in Two-Year Colleges. *Reading Teacher* v53 n7 2000 p580-83.
- Wanzare, Zachariah & Ward, Kenneth L. Rethinking Staff Development in Kenya: Agenda for the Twenty-first Century. *International Journal of Educational Management* v14 n6 2000 p265-75.
- Webb, Graham Using 4MAT to Improve Staff Development, Curriculum Assessment, and Teacher Development v4 n1 2000 p15-29.
- Webb, Graham & Murphy, David Organisational Approaches to Staff Development To Support Teaching and Learning. *Teacher Development* v4 n1 2000 p15-29.
- Wilhelm, Ron W. & Craig, Madge T. & Glover, Rebecca J. & Allen, Diane D. & Huffman, Jane B. Becoming Qualitative Researchers: A Collaborative Approach to Faculty Development. *Innovative Higher Education* v24 n4 2000 p265-78.
- Winston, Roger B., Jr & Creamer, Don G. Using Students as Critics in Faculty Development. *Teaching in Higher Education* v5 n1 2000 p107-126.
- Allen, Kathleen E. & Kellom, Gar E. The Role of Spirituality in Student Affairs and Staff Development. *New Directions for Student Services* n95 2001 p47-55.
- Anderson, Mary Alice A Recipe for Support Staff Professional Development. *ADFL Bulletin* v32 n3 2001 p102-15.
- Cavey, Mary Lynn Coming to Grips with Staff Development. *College Student Affairs Journal* v21 n1 2001 p45-56.
- DiLorenzo, Thomas M. & Heppner, P. Paul Educational Innovations as Staff Development: An Evaluative Education Canada v40 n4 2001 p27.
- Frey, Barbara A. & Overfield, Karen On Your

- Mark: Faculty Development and Student Evaluation. *New Horizons in Adult Education* v15 n2 .
- Gelula, Mark H. & Foley, Richard P. Faculty Development and Support Needed To Integrate the Learning of Educational Technology v41 n6 2001 p61-63.
- Goldfield, Joel D. Technology Trends in Faculty Development, Preprofessional Training, and the Support of Language and Literature Departments. *ADFL Bulletin* v32 n3 2001 p102-15.
- Goldfield, Joel D. Faculty Development and the Diffusion of Innovations. *Equity & Excellence in Education* v34 n1 2001 p32-42.
- Hewson, Mariana G. & Copeland, H. Liesel & Fishleder, Andrew J. What's the Use of Faculty Development? Program Evaluation Using Retrospective Self-Assessments and Independent Performance Ratings. *Teaching and Learning in Medicine* v13 n3 2001 p153-60.
- Holland, Carl D. & Sullivan, Quintin E. Faculty Development's Role in Improving Undergraduate Education. *Innovative Higher Education* v26 n1 2001 p23-36.
- Killion, Joellen P. Integrating Curriculum Implementation and Staff Development. *Journal of Faculty Development* v18 n2 2001 p57-64.
- Knapczyk, Dennis and Others Internet Listservs: A Follow-Up to Faculty Development at Two-Year *Journal of Faculty Development* v18 n3 2001 p73-81.
- Kolmos, Anette & Rump, Camilla & Ingemarsson, Ingemar & Laloux, Auguste & Vinther, Ole Organization of Staff Development--Strategies and Experiences. *European Journal of Engineering Education* v26 n4 2001 p329-42.
- Kowalski, Theodore J. and Others Job-Embedded Staff Development in Norwalk Schools. *Journal of General Education* v50 n4 2001 p254-269.
- Kreber, Carolin The Scholarship of Teaching and Its Implementation in Faculty Development and Graduate Education. *New Directions for Teaching and Learning* n86 2001 p79-88.
- Murray, John P. Faculty Development in Publicly Supported 2-Year Colleges. *Community College Journal of Research and Practice* v25 n7 2001 p487-502.
- O'Neill, Paula N. & Taylor, C. David Responding to the Need for Faculty Development: A Survey of U.S. and Canadian Dental Schools. *Journal of Dental Education* v65 n8 2001 p768-76.
- Pololi, Linda & Clay, Maria C. & Lipkin, Mack, jr. & Hewson, Mariana & Kaplan, Craig & Frankel, Richard M. Reflections on Integrating Theories of Adult Education into a Medical School Faculty Development Course. *Medical Teacher* v23 n3 2001 p276-83.
- Stanley, Christine A. The Faculty Development Portfolio: A Framework for Documenting the Professional Development of Faculty Developers. *Innovative Higher Education* v26 n1 2001 p23-36.
- Weber, Margaret J. and Others Using Concerns Data to Design a Staff Development Program. *Teacher Educator* v36 n3 2001 p219-32.
- Anderson, Mary Alice A New Form of Staff Development Is Essential to High School Reform. *Academic Medicine* v77 n5 2002 p398-401.
- Anderson, Mary Alice A New Vision for Staff Development. *Academic Medicine* v77 n5 2002 p402-06.
- Barkley, Steve & Bianco, Terri 2002 part Digital Training, Part Human Touch: Rural District Mixes Its Offering of Staff Development Services. *Journal of Staff Development* v23 n1 2002 p42-45.
- Crandall, Sonia J. S. & Cacy, Deborah S. Demonstrating the Benefits of Staff Development: Using Technology to *Community College Review* v29 n4 2002 p50-66.
- Graham, Lorrie Faculty Development in a National Sample of Community Colleges. *Family Medicine* v34 n10 2002 p755-60.

- Janas, Monica From Materials Development to Staff Development: An Informed Change
Journal of Computing in Higher Education
v13 n2 2002 p4-24.
- Pritchard, Ruie Jane & Marshall, Jon C. Staff Development for Improved Classroom Questioning and Learning. Liberal Education
v88 n3 2002 p34-41.
- Reich, Jill N. Staff Development for Student Retention in Further and Adult Metropolitan Universities: An International Forum v13 n1 2002 p85-90.
- Wilson, Judi Using Seminars Abroad for Staff Development. Teaching and Teacher Education v18 n4 2002 p483-500.
- Wood, Fred H. & Thompson, Steven R. Web-Based Faculty Development Using Time-Revealed Scenarios. TechTrends v46 n3 2002 p7-10.
- Eisenberg, Diane U., Ed. & Labib, Nadya, Ed. ERIC Review: Recent Strategies for Faculty and Staff Development. Educational Gerontology v29 n2 2003 p117-28.
- Holliday, Adrian Faculty Perceptions of the Importance of Pedagogy as Faculty Innovative Higher Education v27 n3 2003 p183-94.

執筆者紹介

有本 章	広島大学高等教育研究開発センター長（編集代表）
大膳 司	広島大学高等教育研究開発センター教授
大場 淳	広島大学高等教育研究開発センター助教授
吉永 契一郎	東京農工大学大学教育センター助教授
加藤 かおり	新潟大学大学教育開発研究センター助教授
福留 東土	一橋大学大学教育研究開発センター講師
天野 智水	長崎大学大学教育機能開発センター講師
長澤 多代	長崎大学大学教育機能開発センター助手

ファカルティ・ディベロップメントに関する主要文献紹介および文献目録
(COE 研究シリーズ 19)

2005（平成 18）年 3 月 31 日 発行

編 者 広島大学高等教育研究開発センター
〒739-8512 東広島市鏡山 1-2-2
電 話：(082) 424-6240
<http://rihe.hiroshima-u.ac.jp>
印刷所 株式会社タカトープ rint メディア
〒730-0052 広島市中区千田町 3-2-30
電 話：(082) 244-1110

ISBN4-902808-15-3



COE Publication Series No. 19

**Bibliography and Index of Literature
concerning Faculty Development**



**Research Institute for Higher Education
HIROSHIMA UNIVERSITY**

March 2006

ISBN4-902808-15-3